

平成29年度
岩手県
NPO等の「絆力（きずなりよく）」を活かした
復興・被災者支援事業
評価報告書

都道府県担当部局	(窓口) 環境生活部若者女性協働推進室 担当者氏名 立花 紅 電話番号 019-629-5198 メールアドレス AC0006@pref.iwate.lg.jp
----------	--

1. 事業の成果目標の達成状況

番号	成果目標		達成状況	
	項目	目標（値）	達成状況	達成状況に関する説明等
1	補助金により支援するNPO等が行う復興・被災者支援事業への参加団体数	20 団体	19 団体	当初計画よりも予算規模が大きな事業が採択されたため、事業参加団体数が減ったもの。
2	復興・被災者支援による受益者の取組に関する満足度についてのアンケート集計結果において「どちらかといえば改善した」以上の割合	70%	84.8%	被災地や被災者の変化するニーズにきめ細かに対応した取組を行った結果、満足度が高かったもの。
3	マッチング・交流会参加団体数	10 団体	32 団体	被災者の心のケア等のソフト事業については、継続的な支援が必要であることに理解をいただき、参加団体数が目標を上回ったもの。

2. 事業実施結果

2-1. 総括表

交付対象事業		事業費 (円)	国費 (円)	県費等 (円)	「1. 事業の成果目標」との対応 (番号)		
県が実施した事業内容 (名称と実施主体)							
(1) NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援	①被災者の心のケア、健康・生活支援に向けた取組	(名称) 『居場所ハウス』における被災者の生活環境の改善とコミュニティ形成のための復興支援事業 (実施団体) 特定非営利活動法人居場所創造プロジェクト	4,043,520	2,695,000	1,348,520 (409,520)	1、2	
		(名称) つながろう、私たちのエプロンプロジェクト! (実施団体) 特定非営利活動法人まあむたかた	4,254,984	2,836,000	1,418,984 (425,984)	1、2	
		(名称) 被災地域を中心とした県内の不登校支援、ひとり親支援、支援者養成 (実施団体) 特定非営利活動法人マザーリンク・ジャパン	1,925,555	1,283,000	642,555 (193,555)	1、2	
		(名称) いわてアートプロジェクトー自己表現の機会を広げるアート支援活動ー (実施団体) いわてアートプロジェクト実行委員会	4,138,638	2,759,000	1,379,638 (414,638)	1、2	
		(名称) 東日本大震災文化芸術復興事業「三陸沿岸キッズミュージカル交流事業」 (実施団体) 特定非営利活動法人劇団ゆう	5,725,057	3,816,000	1,909,057 (645,057)	1、2	
		(名称) 釜石市箱崎半島部8漁業集落の復興まちづくり (実施団体) 特定非営利活動法人釜石東部漁協管内復興市民会議	4,114,435	2,742,000	1,372,435 (412,435)	1、2	
		②コミュニティ形成等の復興に向けた取組	(名称) 身体を動かすことから始める、街づくり、人づくり事業 (実施団体) 特定非営利活動法人総合型りくぜんたかた	4,211,659	2,807,000	1,404,659 (421,659)	1、2
		(名称) 薪が紡ぐ、地域・人・コミュニティづくり (実施団体) 特定非営利活動法人吉里吉里国	2,333,396	1,555,000	778,396 (433,396)	1、2	
		(名称) 文化芸術による新たなコミュニティ形成事業 (実施団体) 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター	4,930,360	3,286,000	1,644,360 (493,360)	1、2	
		(名称) みんなでつくるコミュニティシネマ事業 (実施団体) みやこ映画生活協同組合	2,640,208	1,760,000	880,208 (264,208)	1、2	
	(名称) コミュニティの復興に寄与する実験工房の運営～「FabLab～Fabラジ～」by のだむラジラ～ (実施団体) のだむラジラ開局準備会	2,015,445	1,343,000	672,445 (215,445)	1、2		

	(名称) 滝沢市在住の内陸避難者を対象とした自助活動への移行支援事業 (実施団体) 特定非営利活動法人いなほ	3,384,490	2,256,000	1,128,490 (451,490)	1、2	
	(名称) コミュニティのエンパワーメント事業 (実施団体) 特定非営利活動法人陸前たがだ八起プロジェクト	3,384,974	2,256,000	1,128,974 (338,974)	1、2	
	(名称) 若者の力を活かした地元支援活動の促進と、持続可能な担い手育成プロジェクト (実施団体) 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校	4,441,755	2,961,000	1,480,755 (518,755)	1、2	
	(名称) 『枠を超えた新たなコミュニティ作り』勉強会 (実施団体) 一般社団法人 KEEN ALLIANCE	507,002	338,000	169,002 (51,002)	1、2	
	(名称) つながる花と緑の力で復興まちづくり (実施団体) 特定非営利活動法人 Green Fields	1,816,312	1,210,000	606,312 (196,312)	1、2	
	③原子力災害からの復興に向けた取組	(名称) 岩手の食と手しごとを普及拡大し風評克服 (実施団体) 一般社団法人 SAVE IWATE	6,596,405	4,397,000	2,199,405 (660,405)	1、2
	④中間支援の取組	(名称) 市民主体の復興まちづくりを支援するための中間支援拠点運営事業 (実施団体) 特定非営利活動法人陸前高田まちづくり協働センター	3,166,872	2,111,000	1,055,872 (316,872)	1、2
		(名称) 復興支援NPOなんでも出前相談会 (実施団体) 特定非営利活動法人シニアパワーいわて	1,209,676	806,000	403,676 (121,676)	1、2
	小計 (a)		64,840,743	43,217,000	21,623,743 (6,984,743)	

	交付対象事業	事業費 (円)	国費 (円)	県費 (円)	「1.事業の成果目標」との対応 (番号)
	県が実施した事業内容 (名称と実施主体 (委託先))				
P O 等 の 絆 力 強 化	(名称) 東京交流会等 (実施主体 (委託先)) 特定非営利活動法人いわて連携復興センター	3,086,360	2,057,573	1,028,787	3
	(名称) 審査委員会運営事業等 (実施主体 (委託先)) 直営	2,938,879	1,959,252	979,627	3
	小計 (b)	6,025,239	4,016,825	2,008,414	

合計 (a+b)		70,865,982	47,233,825	23,632,157 (6,984,743)	
----------	--	------------	------------	---------------------------	--

2-2. 各事業の成果

(1) NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援

整理番号	(1) - 1
事業名	『居場所ハウス』における被災者の生活環境の改善とコミュニティ形成のための復興支援事業
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人居場所創造プロジェクト
実施期間	平成29年6月1日～平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 当法人が運営する交流施設『居場所ハウス』において、周辺に転居してきた災害公営住宅、防災集団移転等の人々の、高齢、独居、生活環境の変化などの状況に対して、見守り支援活動や交流の場・機会の提供、暮らしの困りごと解消・健康相談、生きがいつくり、生活困窮者・障がい者世帯対象に一品提供などの活動を展開する。 『居場所ハウス』を拠点として、従来の住民とのコミュニティ形成ができ、移転した地域になじめるよう受入れ体制を構築する。 <p>【実施計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> コミュニティカフェスペースの運営（通年週6日運営） コミュニティカフェスペースを開設することにより、高齢者を含む被災地域住民が気軽に訪れ快い時間を過ごせる居場所づくり、交流を深めるための事業などの継続的な運営をする。 被災者の生活支援 被災者の生活支援のために、市民や企業からの拠出品を災害住宅の高齢者世帯に希望を聞きながら一品提供することにより、見守りを兼ねた支援をする。また、朝市や転居者歓迎交流会（6月）・納涼盆踊り（8月）等のイベント時において、『居場所ハウス』への送迎シャトルバスにより交通手段の確保（約150名）をする。さらに、地域マップ300部を作成して安心安全な暮らしができる生活環境を整える。 被災者と周辺住民のコミュニティの形成 被災者と周辺住民の交流とコミュニティ形成に向けて、災害住宅と従来からの住民を交えた転居者歓迎交流会（6月）を朝市と合同で開催する。 朝市開催と農園作り 近隣地域には店舗がないため、毎月第3土曜日に朝市を開催する。朝市では、農園で収穫した野菜の他、近隣の農業者、漁業者、商店（10店舗以上の出店者）にも声掛けし、野菜、果物、魚介類、衣類、郷土菓子、生花などを販売し、農園では被災者と協力者が一緒になって、耕作の楽しみを共有し、コミュニケーションや健康づくりの機会とする。 手作り品販売と生きがいつくりの場創生 『居場所ハウス』内では、農園で収穫した朝採り野菜を常時販売し、住民の暮らしをサポートする。

委託販売コーナーも設け、手工芸品を作る楽しみを共感し作品を販売することにより生きがいづくりの一助とするために手芸講習会（月1回以上）を開催して、新たな手工芸品の出品者を推進する（目標10人）。

また、地元の特産品を受託し、来館者にお土産として販売する。

6 健康づくりと心身のケア対策

移転後の新生活支援と、心身のケア、健康づくりのため、健康クラブ（サロン 週1回）、健康体操教室（月1回）、ノルディックウォーキング（年3回）、暮しの困り事相談と健康相談会（月1回）、健康に暮らすための健康講演会や介護講座（各年1回）を開催する。

7 子育て支援と文化の継承

『居場所ハウス』では、子育て世帯を支援するため、元保母や元教員による子供見守り広場を結成しており、今後も年間を通して、一時あずかり、夏休み・冬休み期間中の物づくり教室（8・1月）、お菓子作り（12月）、図書スペースを活用した読書会などを開催する。

また、高齢者がもつ知識や技術を次世帯に継承するための盆踊り（8月）、雛祭り（2月）等季節ごとの行事、鯉のぼりまつり（5月）、郷土食・料理作りの講習会（随時）・教室、地域の歴史を学ぶ会（1月）等を開催するなど、伝統文化の継承活動を積極的に実施する。

【活動実績】

1 コミュニティカフェスペースの運営事業

(1) 6月1日～3月31日 運営日数256日 来館者数延べ6,651人

2 生活支援事業

(1) 6月17日 高台移転者歓迎交流会・四周年記念感謝祭・朝市合同開催 参加人数約150名

(2) 8月15日 『居場所ハウス』納涼盆踊り 参加人数約80名

(3) 9月1日～10月31日 抛出品提供3件

3 高台移転者と周辺住民のコミュニティの形成事業

(1) 6月17日 高台移転者歓迎交流会・四周年記念感謝祭・朝市合同開催 参加人数 約150名

4 朝市開催と農園作り事業

(1) 6月17日～3月17日 朝市（出店平均11者）10回
来場者延べ約700人

(2) 6月1日～10月31日 居場所農園運営 延べ日数約131日

5 手作り品販売と生きがいづくりの場創出事業

(1) 6月20日～3月23日 手芸教室10回 参加人数延べ103人

(2) 6月1日～3月31日 手工芸品常設販売コーナー出店者7人

(3) 6月1日～10月31日 居場所農園野菜販売 日数約90日

6 被災者と地域住民を対象とした健康づくりと心身のケア対策事業

(1) 6月10日～3月25日 開催数37回 参加人数延べ286人

(2) 楽しい健康体操教室、ノルディックウォーキング、健康・暮しの困り

	<p>事何でも相談会（行政書士・元看護師）、介護相談会、笑いヨガ教室、健康長寿講演会開催、健康サロン（週1回） 年計40回</p> <p>7 子育て支援と文化の継承</p> <p>(1) 6月10日～3月25日 開催数17回 参加者延べ262人</p> <p>(2) 着物着付け教室、冬休み親子ものづくり教室、秋の居場所っこクラブ、陶芸教室、絵手紙教室、藍染体験教室、末崎の歴史を学ぶ会、そば打ち体験講習会、お菓子づくり教室、五目ふかし・椿ゆべしづくり教室、親子クリスマスケーキづくり教室、ミズキ団子・餅つき体験教室、ひな祭りとお茶会、納涼盆踊りを開催</p>																														
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>国</td><td>2,695,000円</td></tr> <tr><td>県</td><td>939,000円</td></tr> <tr><td>取組実施主体</td><td>409,520円</td></tr> <tr><td>計</td><td>4,043,520円</td></tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>人件費</td><td>2,877,922円</td></tr> <tr><td>諸謝金</td><td>362,225円</td></tr> <tr><td>旅費</td><td>63,014円</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>143,152円</td></tr> <tr><td>印刷製本費</td><td>167,937円</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>54,869円</td></tr> <tr><td>使用料及び会場借料</td><td>220,961円</td></tr> <tr><td>募集広告費</td><td>64,800円</td></tr> <tr><td>委託費</td><td>73,800円</td></tr> <tr><td>その他の経費</td><td>14,840円</td></tr> <tr><td>計</td><td>4,043,520円</td></tr> </table>	国	2,695,000円	県	939,000円	取組実施主体	409,520円	計	4,043,520円	人件費	2,877,922円	諸謝金	362,225円	旅費	63,014円	消耗品費	143,152円	印刷製本費	167,937円	通信運搬費	54,869円	使用料及び会場借料	220,961円	募集広告費	64,800円	委託費	73,800円	その他の経費	14,840円	計	4,043,520円
国	2,695,000円																														
県	939,000円																														
取組実施主体	409,520円																														
計	4,043,520円																														
人件費	2,877,922円																														
諸謝金	362,225円																														
旅費	63,014円																														
消耗品費	143,152円																														
印刷製本費	167,937円																														
通信運搬費	54,869円																														
使用料及び会場借料	220,961円																														
募集広告費	64,800円																														
委託費	73,800円																														
その他の経費	14,840円																														
計	4,043,520円																														
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 88.0%</u> <p>【直接的な効果】</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 コミュニティカフェ</td> <td><u>週6回</u></td> <td><u>週6回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>2 被災者支援</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> シャトルバス乗客数</td> <td><u>150名</u></td> <td><u>35名</u></td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td> 地域マップ作成</td> <td><u>300部</u></td> <td><u>0部</u></td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>3 転居者歓迎交流会</td> <td><u>1回</u></td> <td><u>1回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>4 朝市</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		目標値	実績値	達成率	1 コミュニティカフェ	<u>週6回</u>	<u>週6回</u>	100%	2 被災者支援				シャトルバス乗客数	<u>150名</u>	<u>35名</u>	23%	地域マップ作成	<u>300部</u>	<u>0部</u>	0%	3 転居者歓迎交流会	<u>1回</u>	<u>1回</u>	100%	4 朝市					
	目標値	実績値	達成率																												
1 コミュニティカフェ	<u>週6回</u>	<u>週6回</u>	100%																												
2 被災者支援																															
シャトルバス乗客数	<u>150名</u>	<u>35名</u>	23%																												
地域マップ作成	<u>300部</u>	<u>0部</u>	0%																												
3 転居者歓迎交流会	<u>1回</u>	<u>1回</u>	100%																												
4 朝市																															

	開催	月 1 回	月 1 回	100%
	出店数	10 店舗	12 店舗	120%
5	手芸講習会	月 1 回	月 1 回	100%
	目標	10 人	15 人	150%
6	健康サロン	週 1 回	週 1 回	100%
	健康体操教室	月 1 回	月 1 回	100%
	ノルディクウォーキング	年 3 回	年 12 回	400%
	暮らしの困りごと相談	月 1 回	月 1 回	100%
	健康相談	月 1 回	月 1 回	100%
	健康講演会	年 1 回	年 1 回	100%
	介護講座	年 1 回	年 12 回	1200%
7	子育て支援と文化の継承			
	年各種 10 行事開催	年 10 行事	年 10 行事	100%
	【波及的な効果】			
	1 みんなで映画を楽しみ、孤独感・ストレス解消、気持ちのリフレッシュが でき心身の健康につながった。			
	2 引きこもりがちな災害公営住宅から、外に出るきっかけづくりができた。			
	3 アンケート「孤立感や不安感が軽減された」欄で 79.2%の参加者が「改 善した」「どちらかといえば改善した」と回答された。			
	4 アンケート「心身の健康改善につながった」欄で 76.5%の参加者が「改 善した」「どちらかといえば改善した」と回答された。			
	5 アンケート「これからの生活に向けて前向きに活動できるようになった」 欄で 79.8%の参加者が「改善した」「どちらかといえば改善した」と回答さ れた。			
	6 公営住宅入居者や、地域の方々等、これまで交流の少なかった人たちが、 同じ場所に集まり、映画や近況について語り合うなど、自分たちで作品を 決めるための話し合いをする事によって参加者同士の交流が図られた。			
	7 アンケート「避難者同士や地域住民との交流が図られた」欄で 75.5%の 参加者が「改善した」「どちらかといえば改善した」と回答された。			
	8 住民が協力して会場設営等に主体的に関わり、声をかけあい参加を促すな ど、住民同士のつながりや輪が生まれた。			
	9 アンケートにも単なる映画を楽しんだ場というだけではなく「友だちが出 来た」「皆と心が一つになった」「みんなの笑顔を見て話すのが楽しい」 などの意見もあり、住民同士の交流が深まった。			
30 年度以降 の活動計画	1 『居場所ハウス』では、少子超高齢化の社会情勢と被災者の高台移転が完了 したことから、継続的に取り組む各種イベントの開催を積極的に展開する。			
	2 孤立の防止や人とのつながり、生きがいづくり、交流による新たなコミュニ ティ創出のために、高台移転住民への継続的な働きかけを実施する。			
	3 高齢者や社会的弱者等が、外出の機会、参加しやすい環境体制を構築するた めに、無料シャトルバスを巡回運行する。			

	<p>4 運営・活動に関わるメンバーの増員を行うとともに、あらゆる手法を講じて、会費、寄付金の勧誘及び自主事業の充実と拡大を図る。</p>
<p>評 価</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>実績値が目標値を下回る取組があるものの、目標値を大幅に上回った取組もあること及び受益者アンケートの満足度が高いことから、一定の成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 2								
事業名	つながろう、私たちのエプロンプロジェクト!								
補助事業者と 役割分担	特定非営利活動法人まあむたかた								
実施期間	平成29年6月1日 ~ 平成30年3月31日								
事業内容と スケジュール	<p>【事業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 被災者は他人と話す機会が少なくなる傾向にあるため、孤立することがないようにし、心身ともに健康に生きられるために次の活動を行う。 仮設住宅、災害公営住宅、公民館、民間施設等で「健康・栄養セミナー」を開催する。 移動式キッチンカーを用いて、季節ごとに山側、浜側それぞれの地域に根付いた産物を使った行事食や郷土料理等を提供しながら、地酒と一緒に楽しむサロンを開催する。 <p>【実施計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康・栄養セミナー 開催場所：仮設住宅・災害公営住宅・公民館・コミセン・民間施設等 参加者数：最大20人 開催予定日：毎月1回 家庭料理やお酒を用いたサロン活動 開催場所：仮設住宅・災害公営住宅・公民館・コミセン・民間施設等 参加者数：15人～20人 <p>【活動実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康・栄養セミナーでは、料理を作って食べるだけではなく、はじめに紙芝居を使って食についての説明をしながら、野菜や調理方法などについての情報交換をした。食材は地元の物を使って、簡単で美味しい料理をみんなで作り、食を囲みながら交流をした。 参加者にも作業を手伝ってもらい、みんなが参加できるよう工夫した。新たに、第二部として全員で簡単な楽器を使用して音楽を楽しんだり、踊りを踊ったりと楽しく交流しながら開催した。 キッチンカーを使用した事業では、地元の食材を使った普通の家庭料理を提供した。ランチ時には、なるべく外で住民が参加しやすい形式で開催し、働き世代や日中のサロン（手芸等のサロンが多くあるため）に参加の難しい男性にも来て貰えるよう、夜はアルコールも付けて開催した。 大きな団地ではバイク方式を取り入れ、なるべく多くの方に参加して頂けるよう工夫して、回を重ねるごとに課題への解決に努めながら開催した。 健康・栄養セミナーについては、「食の文化センター」で食文化について学びながら、現地の状況説明や今後の事業の打ち合わせなどを行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>場所</th> <th>活動内容</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月14日</td> <td>旧矢作診療所跡地仮設</td> <td>健康・栄養セミナー</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table>	月日	場所	活動内容	参加者数	6月14日	旧矢作診療所跡地仮設	健康・栄養セミナー	6人
月日	場所	活動内容	参加者数						
6月14日	旧矢作診療所跡地仮設	健康・栄養セミナー	6人						

6月20日	レインボーハウス	昼サロン	11人
6月26日	レインボーハウス	昼サロン	13人
7月13日	事務所	昼サロン	5人
7月14日	レインボーハウス	昼サロン	6人
7月18日	レインボーハウス	昼サロン	13人
7月24日	レインボーハウス	健康・栄養セミナー	15人
7月27日	西風道仮設	昼サロン	4人
8月22日	レインボーハウス	昼サロン	12人
8月24日	レインボーハウス	昼サロン	16人
8月25日	栃ヶ沢団地	健康・栄養セミナー	21人
9月7日	事務所	昼サロン	5人
9月13日	栃ヶ沢団地	昼サロン	37人
9月15日	レインボーハウス	昼サロン	18人
9月19日	レインボーハウス	昼サロン	8人
9月21日	旧矢作診療所仮設	夜サロン	11人
9月28日	栃ヶ沢団地	夜サロン	21人
9月29日	レインボーハウス	昼サロン	15人
10月6日	レインボーハウス	健康・栄養セミナー	20人
10月17日	レインボーハウス	昼サロン	8人
10月20日	事務所	昼サロン	11人
10月26日	大野団地	昼サロン	17人
11月10日	まちなか広場	健康・栄養セミナー	15人
11月16日	今泉団地	夜サロン	15人
11月20日	レインボーハウス	昼サロン	13人
11月22日	西下団地	昼サロン	13人
11月26日	横田コミセン	焼き肉のたれ作り講習会	19人
12月18日	レインボーハウス	昼サロン	10人
12月19日	レインボーハウス	昼サロン	11人
12月21日	栃ヶ沢団地	夜サロン	41人
12月27日	まちなか広場	健康・栄養セミナー	10人
1月22日	レインボーハウス	昼サロン	10人
1月30日	事務所	健康・栄養セミナー	4人
2月5日	事務所	夜サロン	7人
2月14日	グローバルキャンパス	健康・栄養セミナー	24人
2月17日	横田コミセン	夜サロン	5人
2月19日	レインボーハウス	昼サロン	10人
2月20日	レインボーハウス	昼サロン	11人
3月7日	脇の沢団地	健康・栄養セミナー	5人
3月12日	どんぐり(鳴石地内)	夜サロン	5人
3月19日	レインボーハウス	昼サロン	12人
3月20日	レインボーハウス	昼サロン	15人

	3月27日 竹駒事務所	昼サロン	7人		
	11月14日 レインボーハウス	昼サロン	14人		
経費の内訳	【財源内訳】				
	国	2,836,000円			
	県	993,000円			
	取組実施主体	425,984円			
	計	4,254,984円			
	【経費内訳】				
	人件費	2,388,633円			
	諸謝金	301,400円			
	旅費	52,470円			
	消耗品費	755,287円			
	通信運搬費	84,184円			
使用料及び会場借料	673,010円				
計	4,254,984円				
具体の成果	【成果目標の達成状況】				
	・ 県全体の事業の達成目標				
	受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合				
	県目標値	70%	→ 本事業 <u>73.6%</u> (心のケア等)		
			<u>81.1%</u> (コミュニティ形成支援)		
	【直接的な効果】				
		目標値	実績値	参加延べ人数	達成率
	健康栄養セミナー	<u>10回</u>	<u>9回</u>	<u>120人</u>	90%
	サロン活動	<u>40回</u>	<u>35回</u>	<u>449人</u>	88%
	1 健康・栄養セミナー				
	予定通り開催する事ができた。仮設住宅での開催は回数が少なかったが、仮設住宅から移転した住民の参加があり、今後活動が広がる可能性がある。				
2 サロン活動					
開催を楽しみに待つ被災者が多く、食材が足りなくなった時には知らない人へも食材を差しよべるなど、この活動を通して新しいつながりができた。					
【波及的な効果】					
1 お茶っこ会だけでは得るものが少ないが、様々な調理方法を知ることができ、被災者同士の間で持っているお互いの情報により知識が深まった。					
2 当初、酒類を準備したが、自治会との打合せにより、参加者の方に持参して貰う形式に変更し、自分の好きなものや、おすすめの酒をそれぞれ持参する形式になった。そのことがきっかけで、手作りのお惣菜などを持参する人が増え					

	<p>た。</p> <p>3 持参することが難しい人が負担に思わないように、自治会と一緒に見守りながら開催していくこととし、住民の食の環境を知ることもできた。</p> <p>4 「孤食を防ぐ」という趣旨に賛同頂いた開催場所の住民の方々が、一人暮らしの方を中心に積極的な声かけをしてくださり、コミュニティ形成・コミュニケーション深化に一役担う事業だったと実感している。一人ぼっちをなくす活動ができた。</p> <p>【その他事業によって得られた成果等】 被災者ひとりではおろそかになる食事も、みんなで作り、一緒にいただくことが大きな楽しみとなり、生活の張りとりズムをつけることにつながった。</p>
30 年度以降の活動計画	<p>1 浸水を免れた市内の畑を借りてコミュニティ農園を設立し、自然に親しみながら健康を維持する環境を作っていく。</p> <p>2 農園で収穫された野菜を使用して料理教室を開催し、野菜会員を募って交流を深める。</p> <p>3 廃校校舎の利活用の中に食の活動が引き継がれていけるようにしていく。</p>
評 価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>両取組とも実績値が目標値を下回っているものの、受益者アンケートの満足度は高いことから、一定の成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 3
事業名	被災地域を中心とした県内の不登校支援、ひとり親支援、支援者養成
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人マザーリンク・ジャパン
実施期間	平成29年6月1日 ~ 平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 被災地に多く見られる不登校について、再登校にむけた支援に力を入れるとともに、効果的な支援方法の普及を図り、支援者の育成にも力を入れていく。 再登校支援について情報共有できるようなネットワークを構築する。 ひとり親家庭や困窮家庭の訪問支援についても継続して取り組んでいく。 <p>【実施計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ひとり親家庭への訪問支援、子育てに関するアドバイス、行政や各種団体の学費支援等の制度に関する情報提供、他のリソースへのコーディネート等を継続して行っていくとともに、カウンセリングと「心のケア」に重点を置いて活動していく。 不登校については、早い段階で再登校できることが、後々の良好な社会活動を支えることもこれまでの支援を通じて見えてきており、特に親への支援が有効であることも実感している。したがって、相談会や個別の面談等を通して親への支援に力を入れるとともに、「再登校」の重要性を広めるための普及活動を行っていく。 支援の質を向上させる為、カウンセリングやコーチングのスキルを身に付けるための、支援員養成講座を充実させるほかテキストを作成する。希望のある他地域の支援団体にもノウハウを提供することで、他の被災地域への支援輪を広げる。 年間参加者数 延べ2,500名 <p>【活動実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 相談業務 随時 不登校解消相談会 大船渡で2回 親セミナー 7/22 大船渡 参加者 2名 9/10 陸前高田 参加者 5名 12/ 3 宮古 参加者 25名 支援者養成ワンデーセミナー 12/ 3 宮古 参加者 20名 12/ 9 陸前高田 参加者 5名 アドバイザー養成講座(4日間) 第一回 大船渡 12/27・12/28・1/13・1/14 参加者 15名 第二回 盛岡 3/17・3/18・3/24・3/25 参加者 28名

	6 ひとり親家庭支援 随時																											
経費の内訳	【財源内訳】 国 1,283,000 円 県 449,000 円 取組実施主体 193,555 円 計 1,925,555 円 【経費内訳】 人件費 538,500 円 諸謝金 57,600 円 旅費 798,146 円 消耗品費 107,983 円 印刷製本費 68,612 円 通信運搬費 316,014 円 使用料及び会場借料 38,700 円 計 1,925,555 円																											
	【成果目標の達成状況】 ・ 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → (アンケート集計なし) 【直接的な効果】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">目標値</th> <th style="text-align: center;">実績値</th> <th style="text-align: center;">達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 相談業務</td> <td style="text-align: center;"><u>随時</u></td> <td style="text-align: center;"><u>随時</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>2 不登校解消相談会</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;"><u>2回</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>3 親セミナー</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;"><u>32名</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>4 支援者養成ワンデーセミナー</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;"><u>25名</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>5 アドバイザー養成講座</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;"><u>43名</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>6 ひとり親家庭支援</td> <td style="text-align: center;"><u>随時</u></td> <td style="text-align: center;"><u>随時</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">延べ 2,500 人</p> 【波及的な効果】 1 「ひとり親家庭」への支援では、予定していた事業所の建設が当初の予定を大幅に遅れたこともあり、居場所を創ることは出来ずに、新たな支援家庭を増やすことが難しかったが、これまでの 200 世帯から 215 世帯に増えた。 2 「不登校・引きこもり解消支援」での相談数は 30 家族以上で、メソッドをスタートした家庭は 19 件、アドバイス通り実践出来た家庭は 14 件で、その 14 件全てが再登校に繋がった。環境が整わない等で実践出来なかった家庭が 3 件、2 件は支援続行中だが通信高校への進路も決まり、相談時は家族に暴言暴力のあった本人が今は前向きな様子を見せ、家族とも食事をするようになった		目標値	実績値	達成率	1 相談業務	<u>随時</u>	<u>随時</u>	-	2 不登校解消相談会	-	<u>2回</u>	-	3 親セミナー	-	<u>32名</u>	-	4 支援者養成ワンデーセミナー	-	<u>25名</u>	-	5 アドバイザー養成講座	-	<u>43名</u>	-	6 ひとり親家庭支援	<u>随時</u>	<u>随時</u>
	目標値	実績値	達成率																									
1 相談業務	<u>随時</u>	<u>随時</u>	-																									
2 不登校解消相談会	-	<u>2回</u>	-																									
3 親セミナー	-	<u>32名</u>	-																									
4 支援者養成ワンデーセミナー	-	<u>25名</u>	-																									
5 アドバイザー養成講座	-	<u>43名</u>	-																									
6 ひとり親家庭支援	<u>随時</u>	<u>随時</u>	-																									
具体の成果																												

	<p>た。</p> <p>3 支援員養成講座は陸前高田、大船渡、宮古、盛岡の4か所で開催したが、どの地域で開催しても久慈や岩泉等の遠方からの参加者もいて、そのほとんどが学校関係者であったことから、不登校について深刻な状況が続いていることが伝わってきた。実数で88名の申し込みがあり、席の関係で参加者は68名となった。</p>
30年度以降の活動計画	<p>1 不登校の支援では基本的には最大限学校に戻す為の支援を行うが、高校を中退してしまうなど戻る先がない子どもにはどうしても居場所が必要となる。その為にフリースクールの本校舎を建設予定で、本校舎が出来ることでフリースクールとしての支援活動を本格的にスタートする。</p> <p>2 支援者のネットワークを構築し、フォローアップ研修等を開催するなどし、メーリングリスト等で成果の共有や参加者のスキルアップを図る。</p> <p>3 メソッドそのものの精度も上げていく。メソッドは実践すれば再登校出来るが、実践出来ない親はより心のケアが必要となるので、実践率を上げる為にも、親の心のケア力をアップする為の研修も行う。</p> <p>4 『不登校を出さない学級づくり』の講義の内容も充実させる。さらなるスキルアップを図る為、より専門的な知識を深める為に、専門家との連携もスタートさせる。</p> <p>5 養成講座受講生の追跡調査を行う。</p>
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>事業実績を明確に把握していない部分があること及び指定の受益者アンケートを実施しておらず満足度が測定できなかったことから、限定的な成果と評価する。</p>

整理番号	(1) - 4
事業名	いわてアートプロジェクト ―自己表現の機会を広げるアート支援活動―
補助事業者と役割分担	いわてアートプロジェクト実行委員会
実施期間	平成29年6月1日 ～ 平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 震災の風化の防止を図り震災を契機とした自殺を防ぐために、震災を機に岩手を訪れ活動を続けるアーティストらによるワークショップ、コンサート、講演等のアート活動を継続して行う。 2 自殺を回避するために、多様な自己表現のあり方と文化芸術に親しむ機会を岩手に根付かせる活動を行う。そのためのサロン活動にアート活動を取り入れたい団体の支援を行う。 3 岩手の食材を使ったプロジェクトにより岩手の食の安全を伝える活動を行う。 <p>【実施計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ワークショップ 16回 <p>【活動実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 写真トレースによる絵画制作ワークショップ アーティストによる、思い出の写真や、家族、ペットなどの写真をトレースし、着色するワークショップ。古い写真を使用することで、思い出が蘇える、無心に色を塗る中で失くした対象（故人やペット）と対話をしているような感覚があるとの感想が多くあり、心をいやす効果が高い。 (1) 7/ 8 岩泉町：参加者7名 (2) 7/ 9 盛岡市：参加者9名 2 彫刻ワークショップと対話 大槌では紙粘土でマスク（お面）を制作するワークショップ。マスクのテーマは「幸せの顔」。マスクを制作した後はマスクを作ってあげた相手にあげるプレゼントを同じく紙粘土で制作した。 盛岡では、イタリアと日本の国民性の違いに始まり、日本女性がもっと活躍できる社会の在り方、日本人の宗教観、国と国との付き合い方にいたるまで、幅広い話題を語り合った。 (1) 7/30 大槌町：参加者10名 (2) 8/ 6 盛岡市：参加者4名 3 文化人類学の話とシアノタイプ（日光青写真）のワークショップ 岩泉町では龍泉洞ブルーに因んで「シアノタイプ」と呼ばれる「日光青写真」を制作するワークショップ。龍泉洞近くの森で採取した植物を、薬品を塗った紙に配置し、30分程度日光の当たる場所に置いた後、薬品を洗い流すことで模様が浮かび上がるというもの。

	<p>盛岡では、文化人類学のフィールドワークを取り入れたワークショップ。五感（視覚・聴覚・触覚）のグループに分かれ、今いる空間を表現するという内容で、最後は大きな1枚の絵が創り出された。</p> <p>(1) 9/2 岩泉町：参加者8名 (2) 9/3 盛岡市：参加者10名</p> <p>4 ものづくりサロン「端材 de 木工」 端材を使って、木の小物入れを制作するワークショップ。小物入れという実用的な物を作る内容で、それぞれに工夫された小物入れを作った。</p> <p>(1) 9/23 大槌町：参加者13名</p> <p>5 ファッションと建築のワークショップ と交流 野田村の裂き織りの会では、それぞれの作品を見せ合い、色合いなどについて語り合った。その後、お互いの創作活動の紹介と体験などを語った。</p> <p>盛岡では、一人一人のボディを大きな紙に写し、それを集めて一つの作品に仕上げるワークショップを行った。</p> <p>(1) 11/13 野田村：参加者8名 (2) 11/14 盛岡市：参加者30名</p> <p>6 ワークショップ「不思議な体験を語り合う会」 生と死の狭間をテーマとして、様々な不思議な体験を話してもらおうワークショップを行った。被災者の方々の中には、震災後の不思議な体験（幽霊）を語ることで、心の癒しにつながったという方が多く、お互いの体験を共有出来た。食器には、それぞれの体験を言葉や絵で描いた。</p> <p>(1) 12/24 盛岡市：参加者10名 (2) 12/27 奥州市：参加者6名</p> <p>7 MATSUDA98 ワークショップ 久慈ではイラストレーターという仕事の実際と商品開発について講演した後、各自がキャラクターをデザインした。</p> <p>盛岡では、絵が苦手な人でも大丈夫のように、初心者に向けた「自分だけのキャラクターを作る」という内容で、参加者はキャラクターを描いた。</p> <p>(1) 3/16 久慈市：参加者12名 (2) 3/17 盛岡市：参加者20名</p> <p>8 命と時間と食のワーク「星屑屋台」 「出汁の講座」、「折り紙で弁当箱を作る」、「趣旨説明(分裂と融合の話)」、「食事」の4つのパートで構成。食と科学、文化等に及ぶガストロノミーの考えが根底にあるイベントである。</p> <p>心を癒すツールとして「食」が大切であること、国や文化を超えて分かり合えるのは「食」であるということが、本イベントの大きな趣旨である。</p> <p>(1) 3/23 三谷純教授による事前レクチャー 参加者20名 (2) 3/24 盛岡市：参加者83名 (3) 3/25 久慈市：参加者52名</p>
--	---

経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>国</td><td>2,759,000 円</td></tr> <tr><td>県</td><td>965,000 円</td></tr> <tr><td>取組実施主体</td><td>414,638 円</td></tr> <tr><td>計</td><td>4,138,638 円</td></tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>人件費</td><td>1,761,000 円</td></tr> <tr><td>諸謝金</td><td>174,880 円</td></tr> <tr><td>旅費</td><td>1,540,065 円</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>136,122 円</td></tr> <tr><td>印刷製本費</td><td>113,571 円</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>66,513 円</td></tr> <tr><td>使用料及び会場借料</td><td>32,960 円</td></tr> <tr><td>委託費</td><td>312,000 円</td></tr> <tr><td>その他の経費</td><td>1,527 円</td></tr> <tr><td>計</td><td>4,138,638 円</td></tr> </table>	国	2,759,000 円	県	965,000 円	取組実施主体	414,638 円	計	4,138,638 円	人件費	1,761,000 円	諸謝金	174,880 円	旅費	1,540,065 円	消耗品費	136,122 円	印刷製本費	113,571 円	通信運搬費	66,513 円	使用料及び会場借料	32,960 円	委託費	312,000 円	その他の経費	1,527 円	計	4,138,638 円								
国	2,759,000 円																																				
県	965,000 円																																				
取組実施主体	414,638 円																																				
計	4,138,638 円																																				
人件費	1,761,000 円																																				
諸謝金	174,880 円																																				
旅費	1,540,065 円																																				
消耗品費	136,122 円																																				
印刷製本費	113,571 円																																				
通信運搬費	66,513 円																																				
使用料及び会場借料	32,960 円																																				
委託費	312,000 円																																				
その他の経費	1,527 円																																				
計	4,138,638 円																																				
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 82.3%</u> <p>【直接的な効果】</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 写真トレースによる絵画制作ワークショップ</td> <td><u>2回</u></td> <td><u>2回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>2 彫刻ワークショップと対話</td> <td><u>2回</u></td> <td><u>2回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>3 文化人類学の話とシアノタイプ（日光青写真）のワークショップ</td> <td><u>2回</u></td> <td><u>2回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>4 ものづくりサロン「端材 de 木工」</td> <td><u>1回</u></td> <td><u>1回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>5 ファッションと建築のワークショップと交流</td> <td><u>2回</u></td> <td><u>2回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>6 ワークショップ「不思議な体験を語り合う会」</td> <td><u>2回</u></td> <td><u>2回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>7 MATSUDA98 ワークショップ</td> <td><u>2回</u></td> <td><u>2回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>8 命と時間と食のワークショップ「星屑屋台」</td> <td><u>3回</u></td> <td><u>3回</u></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	実績値	達成率	1 写真トレースによる絵画制作ワークショップ	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%	2 彫刻ワークショップと対話	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%	3 文化人類学の話とシアノタイプ（日光青写真）のワークショップ	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%	4 ものづくりサロン「端材 de 木工」	<u>1回</u>	<u>1回</u>	100%	5 ファッションと建築のワークショップと交流	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%	6 ワークショップ「不思議な体験を語り合う会」	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%	7 MATSUDA98 ワークショップ	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%	8 命と時間と食のワークショップ「星屑屋台」	<u>3回</u>	<u>3回</u>	100%
	目標値	実績値	達成率																																		
1 写真トレースによる絵画制作ワークショップ	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%																																		
2 彫刻ワークショップと対話	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%																																		
3 文化人類学の話とシアノタイプ（日光青写真）のワークショップ	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%																																		
4 ものづくりサロン「端材 de 木工」	<u>1回</u>	<u>1回</u>	100%																																		
5 ファッションと建築のワークショップと交流	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%																																		
6 ワークショップ「不思議な体験を語り合う会」	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%																																		
7 MATSUDA98 ワークショップ	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%																																		
8 命と時間と食のワークショップ「星屑屋台」	<u>3回</u>	<u>3回</u>	100%																																		

	<p>【波及的な効果】</p> <p>1 本年のワークショップの直接的参加者は282名であった。コンサートや作品展の予定が変更によりなくなり、当初の予定（500名）よりも少ない数となった。</p> <p>2 その他の付随する交流などで1,070名の方々に波及効果があったことは大きな成果であった。</p> <p>3 星屑屋台では、企業同士のコラボレーションが生まれ、震災支援の輪を拡げることができた。SNS等でこの事業を紹介する人や、社内報への掲載や、準備から調理の支援、後片づけまでを手伝い、ポータブルの調理機材5台を貸与してくれた他、食材の選定と融通の支援してくれた企業があった。</p>
30年度以降の活動計画	<p>1 岩手の食材を使用し、岩手の食の安全と素晴らしさを海外へ伝える星屑屋台は2020年まで開催する。</p> <p>2 海外アーティストと寺院仏閣とのコラボレーションを企画する。</p> <p>3 マンガ雑誌による若手漫画家支援と震災の記憶の風化防止を図る。</p>
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>目標どおりの取組実績であること及び受益者アンケートの満足度が高いことから、優れた成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 5
事業名	東日本大震災文化芸術復興事業「三陸沿岸キッズミュージカル交流事業」
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人劇団ゆう
実施期間	平成29年6月1日～平成30年3月10日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 被災した三陸沿岸北部・中部・南部エリアの児童・生徒が、みんなで作る参加型ミュージカル活動に取り組み成果を舞台発表することで子ども達の心の復興を促し、生きる力を育て、被災地域の文化芸術の担い手育成を図るとともに、内陸地域の児童・生徒との共演が将来の地域連携や人のつながりの基礎となり、被災地域の世代を超えて復興に向けた生きる力、自立する力を生み出していく。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 三陸沿岸北部・中部・南部エリアにおける児童・生徒の参加型ミュージカル活動を行う。</p> <p>各エリアから募集する児童・生徒がミュージカル練習を行って、各エリアの文化会館大ホールでミュージカル公演を行う。</p> <p>① 児童・生徒参加者目標値 130名（延べ参加者 1,320名）</p> <p>② 家族・地域住民参加者目標値 159名（延べ参加者 110名）</p> <p>③ 公演観劇者 1,646名</p> <p>④ ボランティア参加者 90名</p> <p>⑤ 劇団ゆう参加者・スタッフ 360名</p> <p>(1) 北部エリア（洋野町、久慈市等）</p> <p>① 児童・生徒参加者募集 目標値 50名</p> <p>② 家族・地域住民参加者募集 目標値 50名</p> <p>③ 公演観劇者（被災地域住民） 目標値 500名</p> <p>④ ボランティア参加者 目標値 30名</p> <p>⑤ 劇団ゆう参加者・スタッフ 目標値 120名</p> <p>(2) 中部エリア（山田町、宮古市、大槌町）</p> <p>① 児童・生徒参加者募集 目標値 40名</p> <p>② 家族・地域住民参加者募集 目標値 40名</p> <p>③ 公演観劇者（被災地域住民） 目標値 500名</p> <p>④ ボランティア参加者 目標値 30名</p> <p>⑤ 劇団ゆう参加者・スタッフ 目標値 120名</p> <p>(3) 南部エリア（大船渡市、陸前高田市、住田町等）</p> <p>① 直接参加者募集（児童・生徒） 目標値 70名</p>

- ② 間接参加者募集（家族・地域住民） 目標値 59名
 - ③ 公演観劇者（被災地域住民） 目標値 500名
 - ④ ボランティア参加者 目標値 30名
 - ⑤ 劇団ゆう参加者・スタッフ 目標値 120名
- 2 他のエリア公演に自主的に友情出演する活動（5会場 参加者10名）
- (1) 北部エリアからの参加者 2会場（参加者4名）
 - (2) 中部エリアからの参加者 1会場（参加者2名）
 - (3) 南部エリアからの参加者 2会場（参加者4名）
- 3 三陸沿岸児童・生徒参加型交流舞台発表を行うために、盛岡広域圏（劇団ゆう在籍）の児童・生徒の活動
- (1) ミュージカルの練習（50回 参加者2,000名）
 - (2) ミュージカル公演への参加（3会場 参加者340名）

【活動実績】

（※劇団ゆう（盛岡広域圏の児童・生徒含み）のみの練習全57回の練習は含まず。）

- 6月 5日（月）劇団ゆう実行委員会・制作部門担当者会議
- 6月 25日（日）劇団ゆう実行委員会・美女と野獣第1稿台本配布
- 6月 27日（火）山田町中央公民館にて事業打ち合わせ会
洋野町教育委員会とメールでの事業打ち合わせ
大船渡市とメールでの事業打ち合わせ
- 7月 18日（火）洋野町募集期間の変更通知
大船渡市募集期間の変更通知
- 8月 16日（水）劇団ゆう実行委員会
- 8月 31日（金）大槌町へ後援申請提出 山田町教育委員会へ共催申請提出
- 9月 10日（日）美女と野獣第2稿台本配布
- 9月 11日（月）岩手県・岩手県教育委員会・報道各社へ後援申請提出
- 9月 20日（水）山田町へ後援申請提出
- 9月 28日（木）参加者募集チラシ入稿
- 10月 6日（金）洋野町参加者募集チラシ納入
- 10月 21日（土）洋野町参加者募集開始
- 10月 23日（月）大船渡市参加者募集チラシ納入
- 10月 24日（火）山田町参加者募集チラシ納入
- 11月 1日（水）山田町参加者募集開始
- 11月 3日（金）大船渡市参加者募集開始
- 11月 13日（月）美女と野獣ポスター・チラシ・チケット入稿
- 12月 1日（金）洋野町美女と野獣ポスター・チラシ・チケット納入
- 12月 2日（土）大船渡市美女と野獣ポスター・チラシ・チケット納入
- 12月 10日（日）洋野町第1回目練習会 参加人数43名
- 12月 12日（火）スモークマシーン使用の消防への申請を各会館に依頼

	12月15日(金) 大船渡市第1回目練習会 参加人数 56名
	12月16日(土) 山田町第1回目練習会 参加人数 39名
	12月17日(日) 洋野町第2回目練習会 参加人数 45名
	12月22日(金) 大船渡市第2回目練習会 参加人数 54名
	12月25日(月) 山田町美女と野獣ポスター・チラシ・チケット納入
	1月5日(金) 大船渡市第3回目練習会 参加人数 52名
	1月6日(土) 山田町第2回目練習会 参加人数 32名
	1月8日(月) 洋野町第3回目練習会 参加人数 43名
	1月12日(金) 大船渡市第4回目練習会 参加人数 56名
	1月13日(土) 山田町第3回目練習会 参加人数 35名
	洋野町第4回目練習会 参加人数 46名
	1月20日(土) 山田町第4回目練習会 参加人数 39名
	1月21日(日) 洋野町第5回目練習会 参加人数 45名
	1月22日(月) 大船渡市第5回目練習会 参加人数 53名
	1月26日(金) 洋野町第6回目練習会 参加人数 46名
	1月27日(土) 洋野町第7回目練習会 参加人数 48名
	1月28日(日) 洋野町公演当日 参加人数 48名 ボランティア 30名 観客数 702名
	2月2日(金) 大船渡市第6回目練習会 参加人数 55名
	2月3日(土) 大船渡市第7回目練習会 参加人数 56名
	山田町第5回目練習会 参加人数 37名
	2月4日(日) 大船渡市公演当日 参加人数 57名 ボランティア 24名 観客数 823名
	2月9日(金) 山田町第6回目練習会 参加人数 39名
	2月10日(土) 山田町第7回目練習会 参加人数 39名
	2月11日(日) 山田町公演当日 参加人数 39名 ボランティア 29名 観客数 656名

経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>国</td><td>3,816,000円</td></tr> <tr><td>県</td><td>1,264,000円</td></tr> <tr><td>取組実施主体</td><td>645,057円</td></tr> <tr><td>計</td><td>5,725,057円</td></tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>人件費</td><td>518,814円</td></tr> <tr><td>諸謝金</td><td>210,000円</td></tr> <tr><td>旅費</td><td>195,994円</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>439,594円</td></tr> <tr><td>印刷製本費</td><td>174,030円</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>4,482円</td></tr> <tr><td>使用料及び会場借料</td><td>652,675円</td></tr> <tr><td>広告宣伝費</td><td>121,500円</td></tr> <tr><td>委託費</td><td>3,390,364円</td></tr> <tr><td>その他の経費</td><td>17,604円</td></tr> <tr><td>計</td><td>5,725,057円</td></tr> </table>	国	3,816,000円	県	1,264,000円	取組実施主体	645,057円	計	5,725,057円	人件費	518,814円	諸謝金	210,000円	旅費	195,994円	消耗品費	439,594円	印刷製本費	174,030円	通信運搬費	4,482円	使用料及び会場借料	652,675円	広告宣伝費	121,500円	委託費	3,390,364円	その他の経費	17,604円	計	5,725,057円																									
国	3,816,000円																																																							
県	1,264,000円																																																							
取組実施主体	645,057円																																																							
計	5,725,057円																																																							
人件費	518,814円																																																							
諸謝金	210,000円																																																							
旅費	195,994円																																																							
消耗品費	439,594円																																																							
印刷製本費	174,030円																																																							
通信運搬費	4,482円																																																							
使用料及び会場借料	652,675円																																																							
広告宣伝費	121,500円																																																							
委託費	3,390,364円																																																							
その他の経費	17,604円																																																							
計	5,725,057円																																																							
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 86.4%</u> <p>【直接的な効果】</p> <p>1 児童・生徒参加者の目標値と達成率</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>会場</th> <th>募集 人数</th> <th>応募 者数</th> <th>達成率</th> <th>活動 回数</th> <th>合計参 加者数</th> <th>平均 出席率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>洋野町</td> <td><u>40名</u></td> <td><u>50名</u></td> <td>125%</td> <td>8回</td> <td>364名</td> <td>94.79%</td> </tr> <tr> <td>山田町</td> <td><u>40名</u></td> <td><u>50名</u></td> <td>100%</td> <td>8回</td> <td>299名</td> <td>95.83%</td> </tr> <tr> <td>大船渡市</td> <td><u>70名</u></td> <td><u>60名</u></td> <td>84%</td> <td>8回</td> <td>439名</td> <td>96.27%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td><u>150名</u></td> <td><u>150名</u></td> <td>100%</td> <td>8回</td> <td>1,102名</td> <td>95.63%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※山田町は児童15名に1名の参加</p> <p>2 児童・生徒参加者の感想値</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>会場</th> <th>とても良かった</th> <th>良かった</th> <th>普通</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>洋野町</td> <td>90%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>山田町</td> <td>95%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>大船渡市</td> <td>90%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>92%</td> <td>8%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※参加しての主な感想 ・1年間が待ち遠しい。</p>	会場	募集 人数	応募 者数	達成率	活動 回数	合計参 加者数	平均 出席率	洋野町	<u>40名</u>	<u>50名</u>	125%	8回	364名	94.79%	山田町	<u>40名</u>	<u>50名</u>	100%	8回	299名	95.83%	大船渡市	<u>70名</u>	<u>60名</u>	84%	8回	439名	96.27%	合計	<u>150名</u>	<u>150名</u>	100%	8回	1,102名	95.63%	会場	とても良かった	良かった	普通	洋野町	90%	10%	0%	山田町	95%	5%	0%	大船渡市	90%	10%	0%	合計	92%	8%	0%
会場	募集 人数	応募 者数	達成率	活動 回数	合計参 加者数	平均 出席率																																																		
洋野町	<u>40名</u>	<u>50名</u>	125%	8回	364名	94.79%																																																		
山田町	<u>40名</u>	<u>50名</u>	100%	8回	299名	95.83%																																																		
大船渡市	<u>70名</u>	<u>60名</u>	84%	8回	439名	96.27%																																																		
合計	<u>150名</u>	<u>150名</u>	100%	8回	1,102名	95.63%																																																		
会場	とても良かった	良かった	普通																																																					
洋野町	90%	10%	0%																																																					
山田町	95%	5%	0%																																																					
大船渡市	90%	10%	0%																																																					
合計	92%	8%	0%																																																					

- ・この期間は勉強でも頑張れる。
- ・送迎を頼むので親に優しくなれる。
- ・ライトを浴びるのが癖になる。

3 次年度も事業に参加したい希望値

会場	是非とも 参加したい	出来れば 参加したい	分からない	参加しない
洋野町	65%	21%	7%	7%
山田町	70%	13%	13%	6%
大船渡市	67%	15%	10%	8%
合計	67%	16%	10%	7%

4 事業に係わった延べ人数

会場	児童生徒	家族 地域住民	観劇者	劇団ゆう	合計
洋野町	360名	425名	702名	170名	1,657名(20名)
山田町	288名	420名	656名	140名	1,504名(20名)
大船渡市	432名	619名	823名	185名	2,059名(20名)
合計	1,080名	1,464名	2,181名	495名	5,220名(60名)

(内盛岡広域圏の児童・生徒)

劇団ゆうには盛岡広域圏から集まった子どもたちも含まれ、一緒に練習を重ね沿岸地域から参加した子ども達のリード役として公演に参加した。

【波及的な効果】

この事業は、家族や地域住民が孤立しつつある被災者を多く誘い、ストレッチなどで身体を動かしたり、大きな声で発声をしたり、参加者が練習に取り組む姿に心沸き立つようなエネルギーを感じて貰いたく呼びかけた結果、多くの被災者の皆さんを巻き込んだ事業にすることができた。

- ・ 衣装、当日のメイキャップのお手伝い等のお手伝いへの参加
- ・ 1家族当たり公演チラシ10枚以上の配布、ポスター1枚以上の掲示、入場券10枚以上の配布等

(1) 間接参加者の目標数値 (目標値＝直接参加者×7回間接参加)

会場	目標数	実人数	達成率
洋野町	<u>350名</u>	<u>425名</u>	121%
山田町	<u>280名</u>	<u>420名</u>	150%
大船渡市	<u>413名</u>	<u>619名</u>	149%
合計	<u>1,043名</u>	<u>1,464名</u>	140%

(2) 事業に間接的に係わったことでの感想

会場	とても良かった	良かった	普通
洋野町	63%	21%	17%
山田町	77%	16%	7%
大船渡市	59%	22%	19%
合計	66%	20%	14%

※ 参加しての感想

- ・子どもの喜ぶ姿を見られた
- ・家族でチラシ等配布活動をした
- ・家族でストレッチをした
- ・本番の舞台づくりの役にたった
- ・活動で旧友と再会できた
- ・かつての隣人を観劇に誘えた

(3) 事業に参加したことでお子さんに変化がありましたかの値

会場	変化して良くなった	変わらない	変化して悪くなった
洋野町	70%	30%	0%
山田町	80%	20%	0%
大船渡市	70%	10%	0%
合計	73%	27%	0%

※ どの様に変化したかの感想

- ・毎日が楽しそうなので親も嬉しい
- ・この時期は生活に張りがある
- ・大きな声で話すようになった
- ・毎日歌って踊っている

観客数の目標について

被災者の方々が、フルスペックの舞台で頑張る児童・生徒の姿を目の当たりにし、会場内にいる自分と同じ被災者の方々の存在を知ること、生きる力や自立する力を呼び起こし、社会活動への参加や再起へ繋がる一助となるべく観劇を呼びかけた。

発災直後から毎年継続開催することで、年々観客数が増えている。

以前に参加した経験のある児童・生徒が観客として多く来場してくれたことが特筆される。

(4) 観客数の目標値

会場	目標観劇数	一般観劇数	家族観劇数	合計観劇数	達成率
洋野町	<u>700名</u>	567名	135名	<u>702名</u>	100%
山田町	<u>600名</u>	548名	108名	<u>656名</u>	109%
大船渡市	<u>900名</u>	646名	177名	<u>823名</u>	91%
合計	<u>2,200名</u>	1,761名	420名	<u>2,181名</u>	99%

(5) 観客の年齢値

会場	小学生	中高生	20代	30代	40代	50代	60代	70代
洋野町	14%	11%	5%	18%	16%	9%	16%	11%
山田町	19%	10%	0%	10%	18%	8%	18%	17%
大船渡市	15%	5%	4%	9%	24%	10%	15%	18%
平均値	16%	9%	3%	12%	19%	9%	16%	15%

(6) 観客の市町村別比率値

洋野町	洋野町 67%	久慈市 9%	県内 3%
	階上町 3%	八戸市 10%	青森県 1% 宮城県 1%

	山田町	山田町 83%	宮古市 11%	県内 6%		
	大船渡市	大船渡市 72%	陸前高田 19%	県内 4%	宮城県 1%	
(7)	観劇の感想値 (アンケート添付)					
	会場	とても良かった	良かった	普通	悪かった	無回答
	洋野町	68%	11%	2%	0%	19%
	山田町	80%	15%	0%	0%	5%
	大船渡市	78%	13%	0%	0%	9%
	合計	75%	13%	0.6%	0%	11%
(8)	波及的成果について					
	ア 事業に直接、間接参加者の心の成果 (回答総数 329 名)					
	(ア) 孤立感や不安感が軽減された (途中数値)					
	① 改善した	70.22%				
	② どちらかといえば改善した	23.59%	①・②の合計	93.81%		
	③ 変わらなかった	6.17%				
	④ どちらかといえば改善した	0%				
	⑤ 悪化した	0%				
	(イ) 心身の健康改善につながった					
	① 改善した	75.13%				
	② どちらかといえば改善した	16.02%	①・②の合計	91.15%		
	③ 変わらなかった	8.83%				
	④ どちらかといえば改善した	0%				
	⑤ 悪化した	0%				
	(ウ) 家族の負担軽減につながった					
	① 改善した	63.74%				
	② どちらかといえば改善した	23.39%	①・②の合計	87.13%		
	③ 変わらなかった	12.86%				
	④ どちらかといえば改善した	0%				
	⑤ 悪化した	0%				
	(エ) 他人との交流が増えた					
	① 改善した	78.37%				
	② どちらかといえば改善した	15.13%	①・②の合計	93.50%		
	③ 変わらなかった	12.86%				
	④ どちらかといえば改善した	0%				
	⑤ 悪化した	0%				
	(オ) これからの活動に前向きになった					
	① 改善した	75.67%				
	② どちらかといえば改善した	20.54%	①・②の合計	96.21%		
	③ 変わらなかった	3.78%				
	④ どちらかといえば改善した	0%				
	⑤ 悪化した	0%				
	(カ) 今回初めてNPOの支援を受けた	22.22%				

	<p>イ 直接・間接参加者の心の成果（感想）</p> <p>事業は、被災沿岸地域の児童・生徒が、参加型文化芸術活動を通じて、心沸き立つような感動を体験し、その感動を更なる成長に繋げて行くことができる。</p> <p>多様な考え方や生き方を認め合い、繋がり、絆、協働の精神の育成を図るとともに、「心の豊かさ」・「心のゆとり」を生み、「わくわくする気持ち」が、心の復興を促し、生きる力になる。」と確信する。</p> <p>(ア) 直接参加者の感想メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が始まってからの毎日が早く過ぎてしまう。 ・ ストレッチやダンスで身体を動かすと元気になる。 ・ 学校はあまり好きじゃないけど、親がミュージカルに行かせないよと言うので、行くようになった。 ・ ミュージカルが終わるのが悲しい。 <p>(イ) 間接参加者の感想メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミュージカルの間、子どもが楽しそうなので親としても嬉しい。 ・ この時期は送迎やボランティア等もあるので生活に張りがある。 ・ 送迎して貰う関係で子どもが良い子になるので親子喧嘩が少なくなる。 ・ 田舎に育つ子どもがミュージカルの体験が出来たことは有意義だった。でも震災がなかったら、こんな体験の機会はなかったと思うととても複雑な気持ちになる。 <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <p>1 児童・生徒は、事業を体感、経験したことで、被災地での様々な活動に参加する意欲を持つようになった。</p>
30年度以降の活動計画	<p>1 洋野町、山田町、大船渡市を活動拠点とした事業を継続開催する。</p> <p>2 新たに宮古市と宮古市民ボランティアが資金を募り、12月16日に宮古市民会館で児童・生徒へのプレゼントとしてミュージカル公演を行う。</p> <p>3 内陸と被災沿岸地域との交流事業を奥州市胆沢文化創造センター、滝沢市ビッグループ滝沢を活動拠点として行っていく。</p> <p>4 疲弊しつつある沿岸全体の「心の豊かさ」、「真に幸せで自立、発展する沿岸地域」の実現のために、三陸沿岸を南北に人や文化、産業や経済行為が行き交う活動を継続的に行う。</p>
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>実績値が目標値を下回った取組もあるものの受益者アンケートの満足度が、高いことから、一定の成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 6
事業名	釜石市箱崎半島部8漁業集落の復興まちづくり
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人釜石東部漁協管内復興市民会議
実施期間	平成29年6月1日～平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 東日本大震災で被災した釜石市箱崎半島部（釜石東部漁協管内）の漁業集落の100年先を見据えた安心安全で、活力にあふれ、地域資源を活かした持続可能な復興まちづくりに向けて、県や市、関係団体と協働しながら「まちづくり・ひとづくり」を様々な分野で具現化する。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 漁業の学舎（ウミノガッコウ）推進事業 通年で概ね月に1度のペースで実施する。延べ300名以上が参加。</p> <p>2 復興まちづくり・ひとづくり事業 通年で月に1度のペースで定例会議を実施する。延べ500名以上参加。</p> <p>3 特産品の開発と販売促進事業 延べ2,000名以上（イベントでの来店者含む）</p> <p>【活動実績】</p> <p>東日本大震災で被災した釜石箱崎半島部（釜石東部漁協管内）の漁業集落の100年先を見据えた安心安全で、活力にあふれ、地域資源を活かした持続可能な復興まちづくりに向けて、県や市、及び関係団体と協働しながら「まちづくり・ひとづくり」を様々な分野で事業化し、具現化することを目的とし、次の3事業を実施した。</p> <p>1 漁業の学舎（ウミノガッコウ）推進事業</p> <p>(1) 目的</p> <p>箱崎半島部の主幹産業である漁業の再生と革新を目指すとともに、漁業体験ツアー（観光及び都市交流）と体験学習（担い手育成と学校教育）の実現を目的とする。「さかなのまち」を標榜する釜石市全体の方針にも大いに寄与できる。</p> <p>(2) 方法</p> <p>地域の漁家がインストラクターとなって、ウニ、ホタテ、ワカメなど様々な海産物をテーマとした漁業体験ツアーを実施して、漁業と三陸の海の魅力を発信することで、観光収入を得て生活の安定を図る。また、大学から小中学校等の体験学習を積極的に受け入れる体制を構築し、青少年の将来の職業選択肢の一つとして、漁業が組み込まれる土壌を形成する。</p> <p>(3) スケジュール</p>

6月11日(日) 漁業体験(ウニの殻剥き体験、参加者6名)

7月7日(金) 花巻市湯本中学生漁業体験受入(参加者48名)

7月17日(月) 漁業体験(大型定置網漁見学、悪天候により29日に延期)

7月29日(土) 漁業体験(大型定置網漁見学、悪天候により中止)

8月3日(木) 根浜海岸海開きイベント共催(参加者45名)

8月4日(金) 福岡県大野城市漁業体験受入(参加者15名)

8月20日(日) さんりくブルーアドベンチャー・ワンデイキャンプ(参加者40名)

8月27日(日) 釜石市寡婦協会交流浜バーベキュー会受入(参加者25名)

8月28日(月) 釜石東中学校漁業体験受入(参加者22名、教員含む)
(釜石東部漁協と共催)

8月29日(火) 釜石東中学校漁業体験受入(参加者22名、教員含む)
(釜石東部漁協と共催)

9月9日(土) さんりくブルーアドベンチャー・ワンデイキャンプ(参加者30名)

10月9日(月) 漁業体験(大型定置網漁見学、参加者30名)

12月4日(月) ワカメの種巻き(参加者5名)

1月5日(金) ワカメの芯抜き作業講習(小学生8名)

1月15日(月) 平成30年度根浜海岸海開き協議会(参加者8名)

2月24日(土) 漁業体験ツアー新聞掲載(5,000部で釜石市内全域配布)

3月4日(日) 漁業体験ツアー(ワカメの収穫と塩蔵、参加者13名)

3月5日(月) 漁業体験ワカメタンク上げ作業(参加者5名)

2 復興まちづくり・ひとづくり事業

(1) 目的

住民主体かつ官民連携で将来の持続可能な復興まちづくりとこれを担うひとづくりを目指す。

(2) 方法

県や市の担当者も必ず出席する定例理事協議会やワークショップで地区共通の課題解決を図るとともに、学識経験者や専門家の指導を得て、将来のまちづくりの核となる人材育成を行う。

また、ニュースレター(おはごき通信)の発行により、住民間の情報の共有化や問題解決に取り組み、誰もがまちづくりに参画できる土壌をつくる。

さらに、被災した高齢者の生活利便性の向上と外出促進対策等も兼ねてパソコン教室を開催した他、被災者の多くが暮らす仮設住宅団地で、専門家（NHK趣味の園芸講師）による園芸教室を行って、長期間の仮設生活に癒しをもたらし、地域コミュニティの維持を図っている。

(3) スケジュール

6月17日(土) 定例理事協議会・WS (参加者22名、市・県職員含む)

6月10日(土) 園芸教室 (コケ玉作り、参加者42名)

6月30日(金) 釜石市に事業報告

7月23日(日) 理事協議会・WS (参加者22名、市・県職員含む)

7月30日(日) 根浜海岸清掃作業協力 (参加者10名)

8月26日(土) 理事協議会・WS (参加者19名、市・県職員含む)

9月7日(木) 現地会議で活動発表 (陸前高田市、参加者約60名)

9月30日(土) 理事協議会・WS (参加者20名、市・県職員含む)

10月7日(土) meetup kamaishi フォーラム参加 (参加者3名)

10月29日(日) 理事協議会・WS (参加者13名、市・県職員含む)

11月3日(金) まちづくり片岸水上公園シンポジウム (参加者36名)

12月2日(土) 理事協議会・WS (参加者22名、市・県職員含む)

12月21日(木) 鶴住居川水門工事協議 (岩手県沿岸広域振興局と鈴木理事)

1月15日(月) 鶴住居地区認知症対策ワークショップ (参加者25名)

1月16日(火) パソコン教室 (参加者13名)

1月26日(金) パソコン教室 (参加者15名)

1月31日(水) パソコン教室 (参加者13名)

2月3日(土) パソコン教室 (参加者13名)

2月7日(水) パソコン教室 (参加者10名)

2月15日(木) パソコン教室 (参加者11名)

2月23日(金) パソコン教室 (参加者13名)

2月24日(土) 理事協議会・WS (参加者13名、市・県職員含む)

3 特産品の開発と販売促進事業

(1) 目的

地域の生活安定の為に収入と雇用をもたらす、浜の活性化に繋がる特産品を開発する。

(2) 方法

本法人会員であり、釜石東部漁業協同組合の女性部でもあるメンバーらが中心となって特産品の開発に取り組む商品開発研究会が担当し

	<p>ている。また各種イベントで販売会を開き好評を得た。</p> <p>(3) スケジュール</p> <p>7月 2日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 7名)</p> <p>7月 8日(金) 商品開発研究会活動 (参加者 5名)</p> <p>7月 29日(土) 商品開発研究会活動 (参加者 11名)</p> <p>7月 30日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 11名)</p> <p>8月 5日(土) 商品開発研究会活動 (参加者 8名)</p> <p>8月 6日(日) 釜石うみやま芸能祭に出店販売 (参加者 8名)</p> <p>8月 27日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 2名)</p> <p>9月 8日(金) 商品開発研究会定例会 (参加者 8名)</p> <p>9月 26日(火) 商品開発研究会活動 (参加者 7名)</p> <p>10月 1日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 10名)</p> <p>10月 2日(月) 商品開発研究会活動 (参加者 2名)</p> <p>10月 4日(水) 商品開発研究会活動 (参加者 6名)</p> <p>10月 15日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 6名)</p> <p>10月 20日(金) 商品開発研究会活動 (参加者 8名)</p> <p>10月 21日(土) 商品開発研究会活動 (参加者 11名)</p> <p>10月 25日(水) 商品開発研究会活動 (参加者 4名)</p> <p>10月 28～29日 山形県南陽市イベントに出店販売 (参加者 3名 岩手大学の依頼)</p> <p>11月 5日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 9名)</p> <p>11月 12日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 9名)</p> <p>11月 19日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 10名)</p> <p>11月 30日(木) 商品開発研究会活動 (参加者 4名)</p> <p>12月 10日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 14名)</p> <p>12月 1日(月) 商品開発研究会活動 (参加者 2名)</p> <p>12月 16日(土) 商品開発研究会活動 (参加者 6名)</p> <p>1月 13日(土) 商品開発研究会活動 (参加者 12名)</p> <p>1月 16日(火) 商品開発研究会活動 (参加者 4名)</p> <p>1月 18日(木) 商品開発研究会活動 (参加者 6名)</p> <p>1月 20日(土) 商品開発研究会活動 (参加者 6名)</p> <p>1月 21日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 7名)</p> <p>1月 20～21日 釜石味覚フェスティバルに出店販売 (参加者約 2,000名)</p> <p>3月 18日(日) 商品開発研究会活動 (参加者 8名)</p>
経費の内訳	【財源内訳】

	<table> <tbody> <tr> <td>国</td> <td>2,742,000 円</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>960,000 円</td> </tr> <tr> <td>取組実施主体</td> <td>412,435 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,114,435 円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">【経費内訳】</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>2,894,000 円</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>72,370 円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>339,948 円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>68,023 円</td> </tr> <tr> <td>使用料及び会場借料</td> <td>181,329 円</td> </tr> <tr> <td>募集広告費</td> <td>44,765 円</td> </tr> <tr> <td>委託費</td> <td>514,000 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,114,435 円</td> </tr> </tbody> </table>	国	2,742,000 円	県	960,000 円	取組実施主体	412,435 円	計	4,114,435 円	【経費内訳】		人件費	2,894,000 円	旅費	72,370 円	消耗品費	339,948 円	通信運搬費	68,023 円	使用料及び会場借料	181,329 円	募集広告費	44,765 円	委託費	514,000 円	計	4,114,435 円
国	2,742,000 円																										
県	960,000 円																										
取組実施主体	412,435 円																										
計	4,114,435 円																										
【経費内訳】																											
人件費	2,894,000 円																										
旅費	72,370 円																										
消耗品費	339,948 円																										
通信運搬費	68,023 円																										
使用料及び会場借料	181,329 円																										
募集広告費	44,765 円																										
委託費	514,000 円																										
計	4,114,435 円																										
<p>具体の成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 <ul style="list-style-type: none"> 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>(アンケート集計なし)</u> ※団体独自アンケートにおける満足度、「満足」「やや満足」以上の割合 95.5% <p>【直接的な効果】</p> <table> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 漁業の学舎（ウミノガッコウ）の推進事業</td> <td><u>300 名</u></td> <td><u>288 名</u></td> <td>96.0%</td> </tr> <tr> <td>2 復興まちづくり・ひとづくり事業</td> <td><u>500 名</u></td> <td><u>397 名</u></td> <td>79.4%</td> </tr> <tr> <td>3 特産品の開発と販売促進事業</td> <td><u>2,000 名</u></td> <td><u>2,000 名以上</u></td> <td>100 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>【波及的な効果】</p> <p>1 漁業の学舎（ウミノガッコウ）の推進事業</p> <p>漁業体験ツアー：19 回（乗船あり：13 回、乗船なし：6 回）</p> <p>(1) 漁業体験の参加者からは、「大変良かった」との評価を得た。また、リピーターが増えてきた。</p> <p>(2) 県内外の中学校の体験学習に貢献することができた。</p> <p>(3) 釜石寡婦協会（シングルマザー）の子どもたち対象のイベントに協力し、今後も継続したいとの依頼を受けることになった。</p> <p>(4) 市と協議を重ねてきた「漁業の学舎」の拠点となる公設民営の漁業体験等に活用される施設整備は、ラグビーワールドカップ関連施設の整備及び新たな観光ビジョン・水産ビジョンの施策の一つとしている事に連携し</p>		目標値	実績値	達成率	1 漁業の学舎（ウミノガッコウ）の推進事業	<u>300 名</u>	<u>288 名</u>	96.0%	2 復興まちづくり・ひとづくり事業	<u>500 名</u>	<u>397 名</u>	79.4%	3 特産品の開発と販売促進事業	<u>2,000 名</u>	<u>2,000 名以上</u>	100 %										
	目標値	実績値	達成率																								
1 漁業の学舎（ウミノガッコウ）の推進事業	<u>300 名</u>	<u>288 名</u>	96.0%																								
2 復興まちづくり・ひとづくり事業	<u>500 名</u>	<u>397 名</u>	79.4%																								
3 特産品の開発と販売促進事業	<u>2,000 名</u>	<u>2,000 名以上</u>	100 %																								

	<p>て、具体的に整備を推進することとなった。(建設予定地：根浜地区)</p> <p>2 復興まちづくり・ひとづくり事業</p> <p>理事協議会・WS 8回</p> <p>園芸教室 1回</p> <p>パソコン教室 7回</p> <p>(1) 行政と協働した結果、市の地域会議(鶴住居地区)や委員会への委員としての出席の機会が増え、本法人の提案や意見を公に出すこととなった。また、県や市の協力もあって、集会所や屯所の使い勝手が配慮されるなどの効果があった。今年度からの課題として、地域の高齢化や認知症対策に取り組みを始めた。</p> <p>(2) 園芸教室は、講師の都合で1回しか開催できなかったが、42名の参加で、釜石新聞にも取り上げられ、住民からさらなる開催を要望されるほどであった。</p> <p>(3) パソコン教室は、受講者全員が満足できる内容となり、今後も開催することとなった。また、釜石東中学校と鶴住居小学校の校長・副校長と生徒・児童を対象に同教室を開催する協議を開始した。</p> <p>(4) 本NPOは、今後、新たなステージで住民の抱える課題に取り組む責務を負っている。NPOの構成員に8地区の町内会長が全員入っている利点を活かして、これまで通り意欲的に取り組む。</p> <p>3 特産品の開発と販売促進事業</p> <p>(1) 今年度新たに商品化した「くきちゃんワカメの佃煮」、「しゅうりの甘辛煮」、「味付きベビーホタテ」などの特産品が好評を得た。</p>
30年度以降の活動計画	<p>1 本法人は、30年度以降もこれまでの目的と活動の基本方針に基づいて、事業を展開し、積極的に活動する。</p> <p>2 活動計画は、基本的に本年度と同じにする。ただし、復興の進捗に伴うニーズに、創造性をもって柔軟に対応する。</p>
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>実績値が目標値を下回った取組もあり、指定の受益者アンケートを実施していないものの、団体独自で行ったアンケートの満足度が非常に高いことから、一定の成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 7																				
事業名	身体を動かすことから始める、街づくり、人づくり事業																				
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人総合型りくぜんたかた																				
実施期間	平成29年6月1日 ~ 平成30年3月31日																				
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 被災地において、老若男女が参加できる教室を定期的に行い、また移動手段のない方々には出前教室として訪問するなど、運動する場や機会を提供することにより、復興するための街づくり、人づくりを行う。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 『玉入れタイムレース』6月～3月、仮設住宅、災害公営住宅、各事業所、イベント等で行う。</p> <p>2 『各種教室』各月2回（対象：子どものからだ作り教室、ノルディックウォーキング教室、スポーツ吹矢教室、ピラティス教室）</p> <p>3 けんこうフェスティバル、小学生夏休み塾（水泳、太鼓）、『第6回陸前高田まるごと運動会』（ベストリレー、綱引き等）、高齢者体力テスト、小学生冬休み塾（水泳、太鼓、スキー）</p> <p>【活動実績】</p> <p>1 『玉入れタイムレース』（6～3月）参加総計69チーム、441名</p> <p>2 『各種教室』</p> <p>(1) 子どものからだ作り教室 計20回 延べ243名</p> <p>(2) ノルディックウォーキング教室 計19回（降雪のため1回中止） 延べ179名</p> <p>(3) スポーツ吹矢教室 計20回 延べ131名</p> <p>(4) ピラティス教室 計2回 延べ33名</p>																				
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr> <td>国</td> <td>2,807,000円</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>983,000円</td> </tr> <tr> <td>取組実施主体</td> <td>421,659円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,211,659円</td> </tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table border="0"> <tr> <td>人件費</td> <td>3,336,831円</td> </tr> <tr> <td>諸謝金</td> <td>324,500円</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>18,692円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>18,971円</td> </tr> <tr> <td>使用料及び会場借料</td> <td>511,261円</td> </tr> <tr> <td>その他の経費</td> <td>1,404円</td> </tr> </table>	国	2,807,000円	県	983,000円	取組実施主体	421,659円	計	4,211,659円	人件費	3,336,831円	諸謝金	324,500円	旅費	18,692円	消耗品費	18,971円	使用料及び会場借料	511,261円	その他の経費	1,404円
国	2,807,000円																				
県	983,000円																				
取組実施主体	421,659円																				
計	4,211,659円																				
人件費	3,336,831円																				
諸謝金	324,500円																				
旅費	18,692円																				
消耗品費	18,971円																				
使用料及び会場借料	511,261円																				
その他の経費	1,404円																				

	計	4,211,659 円		
具体の成果	【成果目標の達成状況】			
	・ 県全体の事業の達成目標			
	受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合			
	県目標値 70% → <u>本事業 85.3%</u>			
	【直接的な効果】			
		目標値	実績値	達成率
	1 玉入れタイムレース	<u>32 チーム</u>	<u>69 チーム</u>	215%
	2 子どものからだ作り教室	<u>20 回</u>	<u>20 回</u>	100%
	3 ノルディックウォーキング教室	<u>20 回</u>	<u>19 回</u>	95%
	4 スポーツ吹矢教室	<u>20 回</u>	<u>20 回</u>	100%
5 ピラティス教室	<u>2 回</u>	<u>2 回</u>	100%	
(1) 6月21日	『けんこうフェスティバル』（ニュースポーツ体験、高齢者体力テスト）、34名、スポーツドーム			
(2) 7～8月	小学生夏休み塾 水泳教室：計4回、延べ99名、大船渡市Y Sセンター、太鼓教室：計11回、延べ48名、小さな積み木の家他			
(3) 9月24日	『第6回陸前高田まるごと運動会』（ベストリレー、綱引き等）、市立高田東中学校グラウンド、156名			
(4) 10月11日	高齢者体力テスト：15名、スポーツドーム			
(5) 1月	小学生冬休み塾 水泳教室：計4回、延べ89名、大船渡市Y Sセンター、太鼓教室：計5回、延べ35名、小さな積み木の家集会所、スキー教室：1回、19名、越路スキー場			
(6) 3月	高齢者体力テスト、7名、コミュニティホール			
(7) 小学生春休み塾	水泳教室（3/21、22、27）：計3回、延べ66名、大船渡市Y Sセンター（28日はY Sセンタープールの漏水により中止）			
	<p>事業については、計画以上に行うことができた。特に『玉入れタイムレース』は昨年（6月～3月）32チーム198名の参加だったのが、今年度は69チーム、441名と倍増し、多くの笑顔に出会うことができた。中には、以前仮設住宅でやったことがあり、他の人を誘ってくれる人たちや、車イスの方がやりたいと参加してくれたこともあった。この時、「楽しかった」「わくわくした」と感じた方が、チラシを見て教室に参加してくれた。</p>			
	【波及的な効果】			

	<p>1 身体を動かすことにより心身の健康を取り戻し、自分から活動しようという前向きな気持ちになってほしいと実施したが、「孤立感や不安感の軽減」86%、「これからの生活に向けて前向きに活動できるようになった」89%、「心身の健康改善につながった」94%という結果であり、本事業が被災者の心身の健康回復に役立ったと判断される。</p> <p>2 心身ともに健康になることで、復興への取り組みに対して前向きになり、地域やまわりの人への心遣いもできるようになると実施したが、「避難者同士や地域住民との交流が図られた」82%、「住んでいる地域・地区に活気が出てきた」79%、「自治会の活動の手助けになった」77%という結果であり、本事業が地域のコミュニティ作りに貢献したと考える。</p> <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <p>1 小学生対象の教室では、子どもだけでなく保護者も学区を越えて交流し、様々な情報交換を行う事により地域の活性化につながっている。</p> <p>2 震災直後は運動に対して消極的だった地域の方々も、玉入れタイムレースでの訪問を継続して行う事で、身体を動かすことに積極的になった。</p>
30 年度以降の活動計画	<p>1 仮設住宅の集約に伴い、再びコミュニティ作りをスタートさせる必要となるため、その一助となるよう玉入れタイムレースでの訪問をさらに行いたいと考えている。人々が集まり共通の体験をすることにより会話が始まる。さらに定期的に教室を行うことにより、身体を動かすことの楽しさ、心地よさを感じてもらい、仲間とのコミュニケーションやストレスの解消に活かしてもらえるようにする。</p> <p>2 校庭にあった仮設住宅が、次年度にやっと撤去されるが、子どもたちは6年間以上校庭が使えない状況であったため、スクールバスでの登下校となり体力の低下が被災地共通の懸案となっている。幼児や小学生が楽しく学びながら運動できるよう教室の充実を図る。</p> <p>3 地域の老若男女が元気でいられるよう、市や各団体と連携を取りながら次年度も通年での継続的な活動を行う。</p>
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p>実績値が目標値を下回る取組があるものの、目標値を大幅に上回った取組もあること及び受益者アンケートの満足度が高いことから、一定の成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 8												
事業名	薪が紡ぐ、地域・人・コミュニティづくり												
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人吉里吉里国												
実施期間	平成29年6月1日 ～ 平成30年3月31日												
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 森林教室・林業学校などを開催し、森林環境教育を通して町の次代を担う後継者の育成を行う。</p> <p>2 薪を活用したイベント・セミナーの開催により、被災者の心と体の健康の増進を図り、地域住民の世代間交流機会を増やすことで、地域住民の暮らしの安心を回復し、コミュニティの形成を促進する。</p> <p>3 集落営林型の自伐林業を展開し震災により被災した自然環境を回復し、水産業の発展に寄与するとともに、雇用の確保と被災者の生活支援に繋げる。</p> <p>4 内外交流人口を増やし、地域活性化を促進する。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 薪割り体験</p> <p>2 震災講話会</p> <p>3 薪を活用したイベント等</p> <p>4 森林整備</p> <p>【活動実績】</p> <table> <tr> <td>1 薪割り体験</td> <td>19回</td> <td>408名</td> </tr> <tr> <td>2 震災講話会</td> <td>18回</td> <td>429名</td> </tr> <tr> <td>3 薪を活用したイベント等</td> <td>5回</td> <td>785名</td> </tr> <tr> <td>4 森林整備</td> <td>1回</td> <td>8名</td> </tr> </table>	1 薪割り体験	19回	408名	2 震災講話会	18回	429名	3 薪を活用したイベント等	5回	785名	4 森林整備	1回	8名
	1 薪割り体験	19回	408名										
	2 震災講話会	18回	429名										
	3 薪を活用したイベント等	5回	785名										
	4 森林整備	1回	8名										
	実施日	内容	内容または参加団体（交流人数）										
	6月1～3日	4	ロープワーク実地研修（8名）										
	6月6日	1 2	大学（50名）										
	6月14日	1 2	企業（33名）										
	7月10日	1 2	企業（18名）										
7月28日	1 2	高校（9名）											
8月3日	1 2	大学（17名）											
8月19日	3	薪の湯まつり（139名）											
8月21日	1 2	福祉財団（28名）											
8月23日	1 2	中高校（24名）											
8月24日	1 2	大学（17名）											
8月26日	1 2	企業（14名）											
8月28日	1 2	大学留学生（15名）											

	<table> <tbody> <tr><td>9月1日</td><td>1</td><td>2</td><td>企業(29名)</td></tr> <tr><td>9月3日</td><td>1</td><td>2</td><td>大学(18名)</td></tr> <tr><td>9月28~29日</td><td>1</td><td>2</td><td>中学(57名)</td></tr> <tr><td>10月18日</td><td>1</td><td>2</td><td>企業(19名)</td></tr> <tr><td>10月27日</td><td>2</td><td></td><td>企業(34名)</td></tr> <tr><td>10月28~29日</td><td>3</td><td></td><td>薪まつり(389名)</td></tr> <tr><td>11月25日</td><td>1</td><td>2</td><td>企業(14名)</td></tr> <tr><td>12月10日</td><td>1</td><td>2</td><td>企業(18名)</td></tr> <tr><td>12月12日</td><td>3</td><td></td><td>山神まつり(85名)</td></tr> <tr><td>2月7日</td><td>3</td><td></td><td>任意団体(22名)</td></tr> <tr><td>2月22日</td><td>1</td><td>2</td><td>大学(15名)</td></tr> <tr><td>3月2日</td><td>1</td><td></td><td>大学(6名)</td></tr> <tr><td>3月11日</td><td>3</td><td></td><td>3.11集い~灯火~(150名)</td></tr> <tr><td>3月28日</td><td>1</td><td></td><td>大学(7名)</td></tr> <tr><td colspan="3"></td><td>合計 1,235名</td></tr> </tbody> </table>	9月1日	1	2	企業(29名)	9月3日	1	2	大学(18名)	9月28~29日	1	2	中学(57名)	10月18日	1	2	企業(19名)	10月27日	2		企業(34名)	10月28~29日	3		薪まつり(389名)	11月25日	1	2	企業(14名)	12月10日	1	2	企業(18名)	12月12日	3		山神まつり(85名)	2月7日	3		任意団体(22名)	2月22日	1	2	大学(15名)	3月2日	1		大学(6名)	3月11日	3		3.11集い~灯火~(150名)	3月28日	1		大学(7名)				合計 1,235名
9月1日	1	2	企業(29名)																																																										
9月3日	1	2	大学(18名)																																																										
9月28~29日	1	2	中学(57名)																																																										
10月18日	1	2	企業(19名)																																																										
10月27日	2		企業(34名)																																																										
10月28~29日	3		薪まつり(389名)																																																										
11月25日	1	2	企業(14名)																																																										
12月10日	1	2	企業(18名)																																																										
12月12日	3		山神まつり(85名)																																																										
2月7日	3		任意団体(22名)																																																										
2月22日	1	2	大学(15名)																																																										
3月2日	1		大学(6名)																																																										
3月11日	3		3.11集い~灯火~(150名)																																																										
3月28日	1		大学(7名)																																																										
			合計 1,235名																																																										
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table> <tbody> <tr><td>国</td><td>1,555,000円</td></tr> <tr><td>県</td><td>345,000円</td></tr> <tr><td>取組実施主体</td><td>433,396円</td></tr> <tr><td>計</td><td>2,333,396円</td></tr> </tbody> </table> <p>【経費内訳】</p> <table> <tbody> <tr><td>人件費</td><td>1,676,356円</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>108,291円</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>28,501円</td></tr> <tr><td>使用料及び会場借料</td><td>518,568円</td></tr> <tr><td>その他の経費</td><td>1,680円</td></tr> <tr><td>計</td><td>2,333,396円</td></tr> </tbody> </table>	国	1,555,000円	県	345,000円	取組実施主体	433,396円	計	2,333,396円	人件費	1,676,356円	消耗品費	108,291円	通信運搬費	28,501円	使用料及び会場借料	518,568円	その他の経費	1,680円	計	2,333,396円																																								
国	1,555,000円																																																												
県	345,000円																																																												
取組実施主体	433,396円																																																												
計	2,333,396円																																																												
人件費	1,676,356円																																																												
消耗品費	108,291円																																																												
通信運搬費	28,501円																																																												
使用料及び会場借料	518,568円																																																												
その他の経費	1,680円																																																												
計	2,333,396円																																																												
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 94.7%</u> <p>【直接的な効果】</p> <table> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標参加者延べ数</td> <td><u>1,000人</u></td> <td><u>1,235人</u></td> <td>123.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【波及的な効果】</p> <p>地域内の変化の様子や参加者の声から</p> <p>1 仮設団地に住む地域や自治会から孤立していた高齢の男性が、当法人の主</p>		目標値	実績値	達成率	目標参加者延べ数	<u>1,000人</u>	<u>1,235人</u>	123.5%																																																				
	目標値	実績値	達成率																																																										
目標参加者延べ数	<u>1,000人</u>	<u>1,235人</u>	123.5%																																																										

	<p>催すイベントへ参加したことにより、地域住民と交流し始め、震災後初めて再会できた人もいた。</p> <p>2 10月に開催した薪まつりでは、昨年に比べ、地域住民の参加数が増加した。地域内で内外交流ができる機会は年々減っており、数少ない貴重なイベントである。</p> <p>3 「地域の交流イベントを開いてくれるのはありがたい」「他地域からの人の流入が生じることで地域に活気が生まれている」「子どもの遊び場がまったくないので、子連れで出かけられる先があるのは嬉しい」等の意見がアンケート結果に出されていたことから、地域住民からイベント開催を望まれており、かつ、地域の活性化、復興への一助となっていると判断できる。</p> <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <p>1 ボランティア受入れをきっかけに大槌を知った学生が、この春から首都圏からIターンで大槌町内の企業へ就職し、今は当時知り合った地元住民との再会と交流を楽しみながら生活しており、内外交流促進事業の成果である。</p>
30年度以降の活動計画	<p>来年度も昨年に引き続き、森林整備活動、間伐材を有効活用した薪作りと地域への普及活動、次代を担う人財育成に関する活動、コミュニティの再生に向けた活動を継続する。</p>
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>目標を上回る実績値であり、受益者アンケートの満足度も高いことから、優れた成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 9
事業名	文化芸術による新たなコミュニティ形成事業
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
実施期間	平成29年6月1日 ～ 平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 岩手県内の芸術文化団体や関係者のネットワークを生かし、東日本大震災被災地での市民参加による文化芸術活動の育成及び文化芸術による「心の復興」活動を行い、被災地での文化芸術による新たなコミュニティの形成をめざす。</p> <p>2 被災地への文化支援、次世代の文化芸術の育成、文化芸術における啓発活動等を行うとともに、沿岸被災地と内陸部・県外との地域間交流に努め、持続可能な文化芸術によるコミュニティ形成のための環境づくりを行う。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 市民参加によるコミュニティ形成事業</p> <p>(1) 沿岸各地の市民参加型の演劇・音楽の調査研究 都道府県アンケート 50箇所送付 実施団体アンケート 50箇所送付</p> <p>(2) みやこ市民劇の立ち上げ支援 指導者派遣 30回</p> <p>2 次世代育成によるコミュニティ形成事業</p> <p>(1) 子どもアーティストのアウトリーチ育成と交流推進 指導者派遣 1回</p> <p>(2) 子ども劇団の育成と交流推進 指導者派遣 15回</p> <p>3 美術を通じたコミュニティ形成事業</p> <p>(1) 沿岸での市民協同型アート教室・展示発表の支援 美術ワークショップ 3回 展示発表 1回</p> <p>4 言葉や文学などを通じた思いを伝える活動</p> <p>(1) 震災短歌の募集 歌集作成部数 500部</p> <p>(2) 震災文学の朗読劇や演劇化によるコミュニティ形成推進 打合せ回数 2回</p> <p>5 文化による支援を啓発する活動</p> <p>(1) いわて文化復興支援フォーラム 入場予定者数 80名</p> <p>(2) 提言書（報告書）の発行 発行部数 500部</p>

6 その他コミュニティの隙間を埋める活動

- (1) 災害公営住宅や新しい団地等のコミュニティ形成に寄与するための文化芸術指導者の派遣
派遣回数 10回

7 上記を支える活動

- (1) 運営会議
10回程度(月1～2回)
- (2) 情報提供事業(ホームページ等)
ホームページ・SNSでの情報公開
- (3) ワンコイン募金
目標総額 100,000円
- (4) 運営力の強化
活動継続のための組織強化を図る。

【活動実績】

1 市民参加によるコミュニティ形成事業

- (1) 沿岸各地の市民参加型の演劇・音楽の調査研究
都道府県アンケート 送付件数 47 回答件数 35
実施団体アンケート 送付件数 87 回答件数 46
- (2) みやこ市民劇の立ち上げ支援
公演日：2/11～2/12
公演および稽古場所：宮古市民文化会館
講師：坂田裕一、二戸市民文士劇実行委員会
入場者数：計 1,659名
演出指導日 10/20、10/21、10/27、10/28、11/3、11/4、11/10、11/11、
11/25、12/3、12/8、12/9、12/15、12/16、12/22、1/8、
1/12、1/13、1/19、1/20、1/25、1/26、1/27、2/7、2/8、
2/9、2/10、2/11、2/12 全 29回
殺陣指導日 12/16、1/20、1/27 全 3回
衣装メイク指導日 11/11、12/9、2/10、2/11、2/12 全 5回
参加人数 150名

2 次世代育成によるコミュニティ形成事業

- (1) 子どもアーティストのアウトリーチ育成と交流推進
ジュニアアンサンブルみやこ第3回発表会において、花巻・秋田から子どものソリストを招聘し演奏交流を実施。
公演日 3/21
場所：宮古市民文化会館大ホール
入場者数 70名
参加人数 40名
- (2) 子ども劇団の育成と交流推進
公演日 10/15

	<p>公演および稽古場所 宮古市民文化会館</p> <p>講師 島山泉、丸岡千奈美、土岐美野、金野侑、小林七緒、山井真帆</p> <p>入場者数 170名</p> <p>指導日 6/17、6/24、7/9、7/15、8/5、8/20、8/26、8/27、9/2、9/3、 9/16、9/17、9/18、9/24、10/7、10/8、10/9、10/13、10/14、 10/15 全20回</p> <p>参加人数 17名</p> <p>3 美術を通じたコミュニティ形成事業</p> <p>(1) 沿岸での市民協同型アート教室・展示発表の支援</p> <p>○美術ワークショップの実施</p> <p>実施日 [前期] 1/5、1/6 [後期] 3/27</p> <p>実施場所 [前期] 田老公民館 [後期] kenzi コ lab (小林氏の絵画教室)</p> <p>講師 森吉健、小林健司</p> <p>参加人数 [前期] 1/5 25名 1/6 14名 [後期] 3/27 10名</p> <p>○「おさかな絵画展」の開催</p> <p>開催日 2/3、2/4、2/10、2/11、2/24、2/25、3/10、3/11、3/17、3/18、 3/24、3/25</p> <p>オープン時間は全日 13:00～17:00</p> <p>実施場所 kenzi コ lab (小林氏の絵画教室)</p> <p>4 言葉や文学などを通じた思いを伝える活動</p> <p>(1) 震災短歌の募集</p> <p>応募受付期間 8/11～12/8</p> <p>応募総数 98編 (うち歌集掲載 最優秀1編・優秀10編・入選19編・ 佳作14編・一首選11首)</p> <p>選考委員 八重嶋勲、吉田史子、池田克典、斎藤純</p> <p>挿絵作成 辛遊理</p> <p>歌集作成部数 500部</p> <p>(2) 震災文学の朗読劇や演劇化によるコミュニティ形成推進</p> <p>打合せ実施日 12/13</p> <p>公演予定日 平成31年3月</p> <p>公演予定場所 盛岡市、二戸市</p> <p>構成 坂田裕一、ただじゅん、新井浩介、こむろこうじ</p> <p>演出 大谷賢治郎</p> <p>出演者 坂元貞美、古舘一也、庄崎真知子 ほか</p> <p>5 文化による支援を啓発する活動</p> <p>(1) いわて文化復興支援フォーラム</p> <p>実施日 3/11</p> <p>実施場所 もりおか町家物語館 浜藤ホール</p> <p>チラシ作成 佐藤桐華</p> <p>第一部出演者 二階堂芳子、鑑浩史、山井真帆、永井志穂、鈴木牧子</p>
--	--

	<p>第二部パネラー 佐東範一、溝口昭彦、こむろこうじ 全体司会 二階堂芳子 入場者数 76名</p> <p>(2) 提言書（報告書）の発行 発行日 3/28 発行部数 400部 寄稿者 佐藤葉子、小林健司、八重嶋勲、佐々木芳江、坂田裕一</p> <p>6 その他コミュニティの隙間を埋める活動</p> <p>(1) 災害公営住宅や新しい団地等のコミュニティ形成に寄与するための文化芸術指導者の派遣 実施日 3/27 実施場所 二戸市民文化会館 指導者 坂田裕一 参加人数 4名</p> <p>7 上記を支える活動</p> <p>(1) 運営会議 開催日 6/14、7/5、7/21、8/10、9/12、10/4、11/1、12/6、1/10、2/2、3/6 全11回 会場 いわてアートサポートセンター風のアトリエ</p> <p>(2) 情報提供事業（ホームページ等） ホームページやSNS等で情報を公開した。</p> <p>(3) ワンコイン募金 総額 11,725円</p> <p>(4) 運営力の強化 活動継続のための組織強化を図るため、運営会議等で財源確保のための情報交換等を行った。</p>																								
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table data-bbox="464 1429 882 1592"> <tr> <td>国</td> <td>3,286,000円</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>1,151,000円</td> </tr> <tr> <td>取組実施主体</td> <td>493,360円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,930,360円</td> </tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table data-bbox="464 1693 882 2031"> <tr> <td>人件費</td> <td>2,882,031円</td> </tr> <tr> <td>諸謝金</td> <td>527,200円</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>611,622円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>68,658円</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>355,000円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>87,485円</td> </tr> <tr> <td>使用料及び会場借料</td> <td>212,388円</td> </tr> <tr> <td>委託費</td> <td>172,800円</td> </tr> </table>	国	3,286,000円	県	1,151,000円	取組実施主体	493,360円	計	4,930,360円	人件費	2,882,031円	諸謝金	527,200円	旅費	611,622円	消耗品費	68,658円	印刷製本費	355,000円	通信運搬費	87,485円	使用料及び会場借料	212,388円	委託費	172,800円
国	3,286,000円																								
県	1,151,000円																								
取組実施主体	493,360円																								
計	4,930,360円																								
人件費	2,882,031円																								
諸謝金	527,200円																								
旅費	611,622円																								
消耗品費	68,658円																								
印刷製本費	355,000円																								
通信運搬費	87,485円																								
使用料及び会場借料	212,388円																								
委託費	172,800円																								

	その他の経費 計	13,176 円 4,930,360 円		
具体の成果	【成果目標の達成状況】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 77.8%</u> 			
	【直接的な効果】			
		目標値	実績値	達成率
	1	市民参加によるコミュニティ形成事業		
	(1)	沿岸各地の市民参加型の演劇・音楽の調査研究		
		都道府県アンケート	<u>50 箇所送付</u>	<u>47 箇所送付</u> 94%
		実施団体アンケート	<u>50 箇所送付</u>	<u>87 箇所送付</u> 174%
	(2)	みやこ市民劇の立ち上げ支援		
		指導者派遣回数	<u>30 回</u>	<u>37 回</u> 123%
	2	次世代育成によるコミュニティ形成事業		
	(1)	子どもアーティストのアウトリーチ育成と交流推進		
		指導者派遣回数	<u>1 回</u>	<u>1 回</u> 100%
	(2)	子ども劇団の育成と交流推進		
		指導者派遣回数	<u>15 回</u>	<u>20 回</u> 133%
	3	美術を通じたコミュニティ形成事業		
	(1)	沿岸での市民協同型アート教室・展示発表の支援		
		美術ワークショップ	<u>3 回</u>	<u>3 回</u> 100%
		展示発表	<u>1 回</u>	<u>1 回</u> 100%
	4	言葉や文学などを通じた思いを伝える活動		
	(1)	震災短歌の募集		
	歌集作成部数	<u>500 部</u>	<u>500 部</u> 100%	
(2)	震災文学の朗読劇や演劇化によるコミュニティ形成推進			
	打合せ回数	<u>2 回</u>	<u>1 回</u> 50%	
5	文化による支援を啓発する活動			
(1)	いわて文化復興支援フォーラム			
	入場予定者数	<u>80 名</u>	<u>76 名</u> 95%	
(2)	提言書（報告書）の発行			
	発行部数	<u>500 部</u>	<u>400 部</u> 80%	
6	その他コミュニティの隙間を埋める活動			
(1)	災害公営住宅や新しい団地等のコミュニティ形成に寄与するための文化芸術指導者の派遣			
	派遣回数	<u>10 回</u>	<u>1 回</u> 10%	
7	上記を支える活動			
(1)	運営会議			
		<u>10 回</u>	<u>11 回</u> 110%	

	<p>(2) ワンコイン募金 <u>100,000 円</u> <u>11,725 円</u> 11%</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>1 みやこ市民劇は、150 人を超える参加者とほぼ満席の 1,659 人の入場者数（集客率 92.8%）となり大成功であった。観客アンケートの 96%以上の市民が継続開催を望み、172 人の市民が次回スタッフ&キャストとして参加したいと答えた。</p> <p>2 参加者においても 93%が継続開催を望んでいる。</p> <p>3 市民参加劇で「文化芸術によるコミュニティづくり」を、との目標は、次年度以降の継続的取り組みの中で実現可能となった。</p> <p>4 4年前から開催している二戸市民文士劇実行委員会から衣装・小道具・殺陣等の指導と協力をいただき、地域間交流も大きく進み、今後の相互交流の可能性が膨らんだ効果は大きい。</p> <p>5 被災地からの思いの発信は、短歌の公募で 100 人以上の方から応募があり、入選歌は新聞紙上やテレビ・ラジオで複数回取り上げられ、間接的効果としても高い成果をあげた。</p> <p>6 市民参加の舞台のアンケート調査を実施し、市民参加の舞台の効果と課題がわかった。岩手県は全国の中で群を抜いて市民参加劇が数多く実施されていることが明らかになった。</p> <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <p>1 市民参加の舞台アンケートの結果を文化復興フォーラムや提言書等で報告し、それをもとに今後の市民参加の舞台のあり方が各地で議論されるようになってきた。</p> <p>2 フォーラムでの三陸国際芸術フェスティバルの発表が契機となり、大船渡地区での実施のみならず、県内の沿岸全域での実施気運が徐々に盛り上がり、30 年度は宮古・下閉伊地区での一部実施、全域の実行委員会開催の兆しが見えてきた。</p>
30 年度以降の活動計画	<p>1 文化芸術によるコミュニティ形成は端を発したばかりであり、30 年度以降は、本年度のみやこ市民劇や、今回場所を絞って実施した美術ワークショップの経験や、市民参加の舞台アンケートによる効果と課題に踏まえた対応事業を計画するとともに、まだ市民参加の舞台を実現していない陸前高田市等への波及も検討する。</p> <p>2 思いを伝える活動は、「エッセイ」の公募、発信型演劇公演を実現させるとともに、朗読劇による作品展開する。</p> <p>3 演劇や文学以外のジャンルの充実を図る。</p>
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p>

	□E：成果が得られなかった
	実績値が目標値を下回る取組があるものの、目標値を大幅に上回った取組もあること及び受益者アンケートの満足度がある程度高いことから、一定の成果が得られたと評価する。

整理番号	(1) - 10																																							
事業名	みんなで作るコミュニティシネマ事業																																							
補助事業者と役割分担	みやこ映画生活協同組合																																							
実施期間	平成29年7月1日 ~ 平成30年3月31日																																							
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 映画上映会&ワークショップ 皆で集まるきっかけ作りとしての映画上映会を実施。映画での感動と楽しい空間の共有の場づくり。 上映後は映画上映方法についての、レクチャーとワークショップを行い、次回の上映会を住民参加で自ら企画してみる。</p> <p>2 企画上映会 前回のワークショップで企画した上映会を実施する。準備から運営まで可能な限り住民参加・住民主体として行う。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 映画上映会+お茶っこサロン+ワークショップ 宮古市内の災害公営住宅・公営住宅公民館等で6地区×各1回実施する。 参加者見込み数6回(6地区)×10名=60名</p> <p>2 住民企画上映会+お茶っこサロン ワークショップを実施した6地区の災害公営住宅等で各2回実施する。 参加者見込み数12回(6地区)×20名=240名</p> <p>【活動実績】</p> <p>1 映画上映会+お茶っこサロン&ワークショップ 延べ回数8回 延べ参加者数125人</p> <table border="0"> <tr> <td>8/9(水)</td> <td>鴨崎災害公営住宅 集会所</td> <td>参加人数7人</td> </tr> <tr> <td>8/10(木)</td> <td>近内災害公営住宅 集会所</td> <td>参加人数9人</td> </tr> <tr> <td>9/4(月)</td> <td>津軽石災害公営住宅 集会所</td> <td>参加人数18人</td> </tr> <tr> <td>9/5(火)</td> <td>田老地区 三王自治会研修センター</td> <td>参加人数26人</td> </tr> <tr> <td>10/4(水)</td> <td>日の出町 集会所</td> <td>参加人数12人</td> </tr> <tr> <td>11/17(金)</td> <td>鍬ヶ崎公民館</td> <td>参加人数31人</td> </tr> <tr> <td>11/28(火)</td> <td>本町災害公営住宅 集会所</td> <td>参加人数9人</td> </tr> <tr> <td>12/20(水)</td> <td>佐原災害公営住宅 集会所</td> <td>参加人数13人</td> </tr> </table> <p>2 住民企画上映会+お茶っこサロン 延べ回数18回 延べ参加者数276人</p> <table border="0"> <tr> <td>9/20(水)</td> <td>近内災害公営住宅 集会所</td> <td>参加者数8人</td> </tr> <tr> <td>9/29(金)</td> <td>鴨崎災害公営住宅 集会所</td> <td>参加者数8人</td> </tr> <tr> <td>10/16(月)</td> <td>津軽石災害公営住宅 集会所</td> <td>参加者数11人</td> </tr> <tr> <td>10/18(水)</td> <td>田老地区 三王自治会研修センター</td> <td>参加者数24人</td> </tr> <tr> <td>10/25(水)</td> <td>近内地区センター</td> <td>参加者数12人</td> </tr> </table>	8/9(水)	鴨崎災害公営住宅 集会所	参加人数7人	8/10(木)	近内災害公営住宅 集会所	参加人数9人	9/4(月)	津軽石災害公営住宅 集会所	参加人数18人	9/5(火)	田老地区 三王自治会研修センター	参加人数26人	10/4(水)	日の出町 集会所	参加人数12人	11/17(金)	鍬ヶ崎公民館	参加人数31人	11/28(火)	本町災害公営住宅 集会所	参加人数9人	12/20(水)	佐原災害公営住宅 集会所	参加人数13人	9/20(水)	近内災害公営住宅 集会所	参加者数8人	9/29(金)	鴨崎災害公営住宅 集会所	参加者数8人	10/16(月)	津軽石災害公営住宅 集会所	参加者数11人	10/18(水)	田老地区 三王自治会研修センター	参加者数24人	10/25(水)	近内地区センター	参加者数12人
8/9(水)	鴨崎災害公営住宅 集会所	参加人数7人																																						
8/10(木)	近内災害公営住宅 集会所	参加人数9人																																						
9/4(月)	津軽石災害公営住宅 集会所	参加人数18人																																						
9/5(火)	田老地区 三王自治会研修センター	参加人数26人																																						
10/4(水)	日の出町 集会所	参加人数12人																																						
11/17(金)	鍬ヶ崎公民館	参加人数31人																																						
11/28(火)	本町災害公営住宅 集会所	参加人数9人																																						
12/20(水)	佐原災害公営住宅 集会所	参加人数13人																																						
9/20(水)	近内災害公営住宅 集会所	参加者数8人																																						
9/29(金)	鴨崎災害公営住宅 集会所	参加者数8人																																						
10/16(月)	津軽石災害公営住宅 集会所	参加者数11人																																						
10/18(水)	田老地区 三王自治会研修センター	参加者数24人																																						
10/25(水)	近内地区センター	参加者数12人																																						

	<p>10/31(火) 鴨崎災害公営住宅 集会所 参加者数 6人</p> <p>11/16(木) 田老地区 田老福祉センター 参加者数 20人</p> <p>11/30(木) 日の出町 集会所 参加者数 13人</p> <p>12/11(月) 日の出町 集会所 参加者数 12人</p> <p>12/19(火) 津軽石公民館 参加者数 10人</p> <p>1/23(火) 佐原災害公営住宅 集会所 参加者数 10人</p> <p>1/26(金) 鍬ヶ崎公民館 参加者数 35人</p> <p>1/31(水) 本町災害公営住宅 集会所 参加者数 12人</p> <p>2/ 9(金) 鍬ヶ崎公民館 参加者数 16人</p> <p>2/27(火) 佐原災害公営住宅 集会所 参加者数 11人</p> <p>2/28(水) 本町災害公営住宅 集会所 参加者数 13人</p> <p>3/ 5(月) 田老地区 三王自治会研修センター 午前回 参加者数 12人</p> <p>田老地区 三王自治会研修センター 午後回 参加者数 20人</p> <p>3/ 9(金) 鍬ヶ崎公民館 参加者数 23人</p>																								
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table> <tr> <td>国</td> <td>1,760,000円</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>616,000円</td> </tr> <tr> <td>取組実施主体</td> <td>264,208円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,640,208円</td> </tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table> <tr> <td>人件費</td> <td>1,646,822円</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>11,008円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>36,036円</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>27,508円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>10,800円</td> </tr> <tr> <td>使用料及び会場借料</td> <td>978,988円</td> </tr> <tr> <td>消費税返還額</td> <td>-70,954円 (消費税の仕入控除税額確定による)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,640,208円</td> </tr> </table>	国	1,760,000円	県	616,000円	取組実施主体	264,208円	計	2,640,208円	人件費	1,646,822円	旅費	11,008円	消耗品費	36,036円	印刷製本費	27,508円	通信運搬費	10,800円	使用料及び会場借料	978,988円	消費税返還額	-70,954円 (消費税の仕入控除税額確定による)	計	2,640,208円
国	1,760,000円																								
県	616,000円																								
取組実施主体	264,208円																								
計	2,640,208円																								
人件費	1,646,822円																								
旅費	11,008円																								
消耗品費	36,036円																								
印刷製本費	27,508円																								
通信運搬費	10,800円																								
使用料及び会場借料	978,988円																								
消費税返還額	-70,954円 (消費税の仕入控除税額確定による)																								
計	2,640,208円																								
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 76.5%</u> <p>【直接的な効果】</p> <table> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 上映&ワークショップ</td> <td><u>6地区</u></td> <td><u>8地区</u></td> <td>133.3%</td> </tr> <tr> <td>2 企画上映会</td> <td><u>12回</u></td> <td><u>18回</u></td> <td>150.0%</td> </tr> <tr> <td>3 延べ参加者数</td> <td><u>300人</u></td> <td><u>401人</u></td> <td>133.7%</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	実績値	達成率	1 上映&ワークショップ	<u>6地区</u>	<u>8地区</u>	133.3%	2 企画上映会	<u>12回</u>	<u>18回</u>	150.0%	3 延べ参加者数	<u>300人</u>	<u>401人</u>	133.7%								
	目標値	実績値	達成率																						
1 上映&ワークショップ	<u>6地区</u>	<u>8地区</u>	133.3%																						
2 企画上映会	<u>12回</u>	<u>18回</u>	150.0%																						
3 延べ参加者数	<u>300人</u>	<u>401人</u>	133.7%																						

	<p>【波及的な効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 みんなで映画を楽しみ、孤独感・ストレス解消、気持ちのリフレッシュができ心身の健康につながった。 2 引きこもりがちな災害公営住宅から、外に出るきっかけづくりができた。アンケート「孤立感や不安感が軽減された」欄で79.2%の参加者が「改善した」「どちらかといえば改善した」と回答。 アンケート「心身の健康改善につながった」欄で76.5%の参加者が「改善した」「どちらかといえば改善した」と回答。 アンケート「これからの生活に向けて前向きに活動できるようになった」欄で79.8%の参加者が「改善した」「どちらかといえば改善した」と回答。 3 公営住宅入居者や、地域の方々等、これまで交流の少なかった人たちが、同じ場所に集まり、映画や近況について語り合い、また自分たちで作品を決めるための話し合いをする事によって参加者同士の交流が図られた。 アンケート「避難者同士や地域住民との交流が図られた」欄で75.5%の参加者が「改善した」「どちらかといえば改善した」と回答。 4 住民が協力して会場設営等に主体的に関わり、声をかけあい参加を促すなど、住民同士のつながりや輪が生まれた。 アンケートにも単なる映画を楽しんだ場というだけではなく「友だちが出来た」「皆と心が一つになった」「みんなの笑顔をみて話すのが楽しい」などの意見もあり、住民同士の交流が深まって来ている。 <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の民生委員や自治会の方々の協力・参加もあり、地域全体に声かけをしていただき、災害公営住宅入居者だけではなく、地域の方々との交流もできた。「こんなにこの集会所に集まった事はない」という感想もあった。 2 住民の皆様から、次回の会場や上映コンテンツやアイディアの提案等をいただき、支援者と受け手ではない一体感ができた地域もあった。 3 活動を通じて、市内の傾聴ボランティア団体から一緒にできる事があればと提案いただき、お茶っこサロンでお手伝いしていただくなど、今後も継続して一緒に活動していけるつながりが出来た。 4 無料ではなく自分たちでお金を払ってでも良いので、定期的の実施して欲しいという積極的な要望があり、本事業をきっかけに自分達で楽しみを作っていくという気持ちが感じられた。
30 年度以降の活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 小規模の支援上映会の継続実施 コミュニティ形成には時間がかかることから、次年度以降も、公営住宅等の心のケア、交流の場づくりは必要な活動だと考えており、行政や支援団体と情報交換をしながら、引き続き映像を使っての支援事業を実施していく。今回は宮古市内のみの実施だったが、岩手県沿岸広域で実施していきたい。 2 沿岸地域でのスクリーン体験の場の創造 岩手県沿岸から映画館が無くなった現在、公共ホール等を利用した世代を問わず映画を楽しめる場、スクリーン体験でき交流できる場を岩手県沿岸広域で

	<p>展開していく。</p> <p>3 自主上映活動者(団体)の育成 映画上映会実施するためのワークショップなど開催し、地域の人が自主的に上映会を開催できるようなサポートを行い、その活動を通して、人たちのつながりや輪を広めていく活動をしていく。</p>
<p>評 価</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>目標値を上回る実績であること及び受益者アンケートの満足度がある程度高いことから、一定の成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 11
事業名	コミュニティの復興に寄与する実験工房の運営 ～「FabLab～Fab ラジ～」by のだむラジヲ～
補助事業者と 役割分担	のだむラジヲ開局準備会
実施期間	平成 29 年 6 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日
事業内容と スケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 復興過程において、外部支援者との交流活動を基盤に育まれた村内の様々な諸活動が、村の持続可能な力になるよう支援するハブ拠点として、モノづくり、コトづくり、オトづくりを創造する拠点「FabLab～Fab ラジ～」を創設し、運営に取り組む。</p>
事業内容と スケジュール	<p>【実施計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 モノ Fab 工房（2 回） 2 コト Fab 工房（1 回） 3 オト Fab 工房（2 回） 4 Fab カフェ（原則、毎週末） 5 Fab ラジ工房フェスタの開催（2 月頃） 6 のだむラジヲ放送（月 1 回） 7 ニュースレターの発行、全戸配布（年 5 回発行） <p>【活動実績】</p> <p>1 本事業は、復興過程の中で外部支援者との交流活動を基盤に育まれた村内の様々な諸活動が、村の持続可能な力となるよう支援するハブ拠点として、モノづくり、コトづくり、オトづくりを創造する拠点「FabLab～Fab ラジ～」を創設し、運営に取り組んだ。</p> <p>(1) 事業の背景・目的</p> <p>野田村では、発災直後から多数のボランティアが活動し、チーム北リアス、大阪大学などの外部支援者と村民の交流活動が現在も継続し、復興に向けて力添えとなっている。</p> <p>そのような中、昨年度は、コミュニティ復興活動としてのラジオ番組制作、放送活動（「復興ラジオ」）、コミュニティ活動の拠点づくりを村民、外部支援者、行政が協働で実践し、村民のアイデンティティの回復とさまざまなコミュニティ活動の活性化に寄与した。本事業は、真の復興に向けて、これまでの復旧、復興過程の中で育まれてきた諸活動を、さらに発展的、創造的、持続的な活動へと昇華させるため、復興ラジオから「復興創造ラジオ」をめぐり「FabLab～Fab ラジ～」に取り組むことを目的として実施した。</p> <p>FabLab とは、実験的な市民工房の総称であり、国際的なネットワークを通じて世界各地にある FabLab と技術の交換や情報の発信をすることができた。野田村では、モノだけでなく、コト、オトを実験的に試みる拠点として「FabLab～Fab ラジ～」を設けて、運営した。モノ Fab（村の新たなモノづく</p>

	<p>り生む実験)、コト Fab (村の新たな行事を生む実験)、オト Fab (村の音楽、映像づくりを生む実験) に取り組み、のだむラジヲを通じて村内外に発信した。</p>
<p>事業内容とスケジュール</p>	<p>(2) 事業内容</p> <p>「FabLab～Fab ラジ～」は、「モノ Lab 工房」、「コト Lab 工房」、「オト Lab 工房」の3つの活動を展開した。</p> <p>「モノ Fab 工房」は、震災を契機に木工(だらすこ工房)や、織物(SAORI 織)といった製作活動を始めた諸団体と、「コト Fab 工房」は、プチよ市やマルシェ(産業まつり)など新たなイベントを仕掛けている人材と、「オト Fab 工房」は、コーラスや吹奏楽など震災前からある既存活動団体と、それぞれと連携し、活動する。そして、諸活動の報告、告知を「のだむラジヲ」の放送を通じて村内外に発信する。</p> <p>さらに、モノ、コト、オトの諸活動が相互連携することで、創造活動が活発化し、持続発展可能な村をめざす。本事業での具体的な事業内容は以下のとおりである。</p> <p>ア モノ Fab 工房</p> <p>3Dプリンター、レーザーカッター等を備えた工房をスタジオに併設し、モノづくりを試みたい村民だれもが利用できるオープンラボを開発する。モノづくり諸団体と連携し「モノづくり」ワークショップを開催した。</p> <p>県立久慈工業高等学校の協力により、『久慈工業高等学校・実習室』を会場に、モノづくりワークショップを開催した。</p> <p>内容 最新のモノづくりの道具紹介(3Dプリンター、レーザーカッター) レーザーカッターでモノづくり体験(3Dのんちゃんづくり)</p> <p>講師 高校教諭2名</p> <p>場所 県立久慈工業高等学校 実習室</p> <p>イ コト Fab 工房</p> <p>まちなかバルやコミュニティ音楽会、100円商店街など新たなイベント活動の開催支援や既存イベントへの支援活動、新たなコトづくりのヒントを学ぶ勉強会を開催した。</p> <p>○日時 平成29年11月4日(土) 午後6時～午後8時</p> <p>内容 まちなかバルやコミュニティ音楽会</p> <p>100円商店街など新たなイベント活動の開催支援や既存イベントへの支援活動、新たなコトづくりのヒントを学ぶ勉強会を開催した。</p> <p>場所 リメンバーホープビレッジねま～る</p> <p>○日時 平成29年12月2日(土) 午後6時～午後8時</p> <p>内容 まちなかバルやコミュニティ音楽会</p> <p>100円商店街など新たなイベント活動の開催支援や既存イベントへの支援活動、新たなコトづくりのヒントを学ぶ勉強</p>

	<p>会を開催した。</p> <p>場所 リメンバーホープビレッジねま〜る</p> <p>○日時 平成30年1月20日(土) 午後6時〜午後8時</p> <p>内容 まちなかバルやコミュニティ音楽会</p> <p>100円商店街など新たなイベント動の開催支援や既存イベントへの支援活動、新たなコトづくりのヒントを学ぶ勉強会を開催した。</p> <p>場所 リメンバーホープビレッジねま〜る</p> <p>ウ オトFab工房</p> <p>作曲支援ソフトを導入したパソコン等を設置し、村内の音楽活動団体や外部の映像活動団体と連携して、ラジオのジングル作成や村のプロモーションビデオの製作をめざす。専門家を招いて勉強会を開催し、ノウハウを学んだ。</p> <p>○日時 平成30年1月20日(土) 午後3時〜午後5時</p> <p>講師 大学教授、放送局関係者2名</p> <p>場所 リメンバーホープビレッジねま〜る</p> <p>参加者 18名(野田村民)</p> <p>○日時 平成30年2月9日(金) 午後6時〜午後8時</p> <p>講師 大学教授、放送局関係者2名</p> <p>場所 リメンバーホープビレッジねま〜る</p> <p>参加者 24名(野田村民)</p> <p>エ Fabカフェ</p> <p>上記のワークショップや勉強会の開催時以外にも、いつでも村民がFabLabに訪れて創造活動に取り組めるようカフェを開いた。</p> <p>原則、毎週末</p> <p>オ Fabラジ工房フェスタの開催</p> <p>各工房の取り組みを共有し、村内外に発信するため、のだむラジヲフェスタを開催した。</p> <p>○日時 平成30年2月10日(土) 午前11時〜午後4時</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コトづくり(商店29店舗の協力により、商店回遊スタンプラリーの実施) ・ コトづくり(商店スタンプ会の協力により、福釣り〔景品〕の実施) ・ モノづくり(モノづくり体験の実施/オリジナルランプづくり) ・ モノづくり(モノづくり体験の実施/マリンローズアクセサリーづくり) ・ オトづくり(オトづくりワークショップの実施) ・ オトづくり(のだむラジヲ放送体験の実施) <p>講師 大学教授、放送局関係者2名</p> <p>場所 リメンバーホープビレッジねま〜る及び村内商店街</p>
--	--

	<p>カ のだむラジオ放送</p> <p>月1回の定期放送を実施し、各 Fab 工場の活動予告や報告、活動人の声を村内に届ける。</p> <p>平成29年7月1日(土) 活動場所：ねま～るスタジオ 平成29年8月6日(日) 活動場所：ねま～るスタジオ 平成29年9月2日(土) 活動場所：ねま～るスタジオ 平成29年10月7日(土) 活動場所：ねま～るスタジオ 平成29年11月4日(土) 活動場所：ねま～るスタジオ 平成29年12月2日(土) 活動場所：ねま～るスタジオ 平成30年1月20日(土) 活動場所：ねま～るスタジオ 平成30年2月10日(土) 活動場所：ねま～るスタジオ 平成30年3月10日(土) 活動場所：ねま～るスタジオ 平成30年3月25日(日) 活動場所：ねま～るスタジオ</p> <p>キ 広報活動</p> <p>ニューズレターの発行、全戸配布(2回発行) 野田村内 1,649世帯に配布</p>																										
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>国</td><td>1,343,000円</td></tr> <tr><td>県</td><td>457,000円</td></tr> <tr><td>取組実施主体</td><td>215,445円</td></tr> <tr><td>計</td><td>2,015,445円</td></tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>人件費</td><td>480,000円</td></tr> <tr><td>諸謝金</td><td>19,200円</td></tr> <tr><td>旅費</td><td>421,960円</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>222,101円</td></tr> <tr><td>印刷製本費</td><td>336,552円</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>71,720円</td></tr> <tr><td>使用料及び会場借料</td><td>422,062円</td></tr> <tr><td>その他の経費</td><td>41,850円</td></tr> <tr><td>計</td><td>2,015,445円</td></tr> </table>	国	1,343,000円	県	457,000円	取組実施主体	215,445円	計	2,015,445円	人件費	480,000円	諸謝金	19,200円	旅費	421,960円	消耗品費	222,101円	印刷製本費	336,552円	通信運搬費	71,720円	使用料及び会場借料	422,062円	その他の経費	41,850円	計	2,015,445円
国	1,343,000円																										
県	457,000円																										
取組実施主体	215,445円																										
計	2,015,445円																										
人件費	480,000円																										
諸謝金	19,200円																										
旅費	421,960円																										
消耗品費	222,101円																										
印刷製本費	336,552円																										
通信運搬費	71,720円																										
使用料及び会場借料	422,062円																										
その他の経費	41,850円																										
計	2,015,445円																										
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>(アンケート集計なし)</u> <p>【直接的な効果】</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 モノ Fab 工房</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	実績値	達成率	1 モノ Fab 工房	2回	1回	50%																		
	目標値	実績値	達成率																								
1 モノ Fab 工房	2回	1回	50%																								

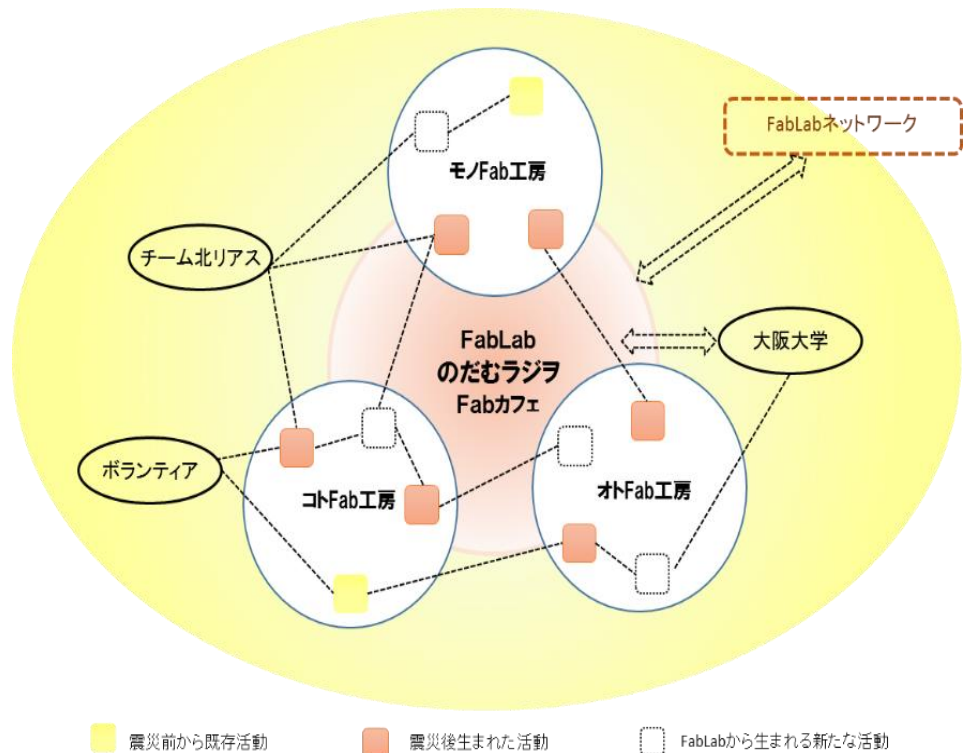
2	コト Fab 工房	1 回	3 回	300%
3	オト Fab 工房	2 回	2 回	100%
4	Fab カフェ	毎週末	毎週末	100%
5	Fab ラジ工房フェスタの開催	1 回	1 回	100%
6	のだむラジヲ放送月	1 回	10 回	111%
7	ニュースレターの発行	5 回	2 回	40%

【波及的な効果】

- 1 「FabLab～Fab ラジ～」の活動を通じて、「村内の諸活動が活性化したこと」と「新たな人材発掘やモノ、コト、オトづくりが創出されたこと」である。
- 2 「FabLab～Fab ラジ～」が媒介となり、「モノ、コト、オトづくりの相互連携、村内外とのネットワークが育まれること」が見込まれた。
- 3 ハード的な復興事業は概ね完成しつつある野田村において、村の中心部に「FabLab～Fab ラジ～」が位置することで、様々な村民活動の見える化が図られことは、村民が震災後の新たな暮らしを取り巻く社会環境に、ある種の意味を見いだす機会となった。
- 4 のだむラジヲ開局準備会が、「FabLab～Fab ラジ～」の活動を通じて、村内のさまざまな活動の媒介役となり、村民主体の持続可能な活動へと結実し、村内に定着させることができた。

【その他事業によって得られた成果等】

FabLab～Fab ラジ ネットワークイメージ



30 年度以降 の 活 動 計 画	1 NPO法人格を取得するための準備を整わせ（申請予定）、本事業を通じて村 内諸団体の活動を継続的に支援していく中間支援団体として活動する。
評 価	被災地の復興・被災者支援に関して、 <input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった
	実績値が目標値を下回る取組があるものの、目標値を大幅に上回った取組もあ ること及び受益者アンケートの集計が無く満足度が測定できなかったことから、 一定の成果が得られたと評価する。

整理番号	(1) - 12
事業名	滝沢市在住の内陸避難者を対象とした自助活動への移行支援事業
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人いなほ
実施期間	平成29年6月1日 ～ 平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 東日本大震災で被災し、岩手県滝沢市に在住する内陸避難者を対象にこれまで実施してきたサロン活動・交流会などを、滝沢市在住の内陸避難者が立ち上げた自助グループ若潮会が主体となって企画運営できるよう3ヶ年計画を立て、運営支援を行う。</p> <p>2 主に体調面などから外出することが困難な方への戸別訪問を実施する。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 若潮会サロン活動 お茶のみ、料理教室、作品作り教室等を滝沢市内5か所で50回開催</p> <p>2 若潮会交流会 世代間交流やバスツアーを3回開催</p> <p>3 作品展 内陸避難者が作成した作品の展示会を1回開催</p> <p>4 戸別訪問活動 1か月当たり30世帯を訪問（7月～3月）計270回</p> <p>【活動実績】</p> <p>1 若潮会サロン活動 期間中51回開催 延べ640名参加</p> <p>(1) 滝沢市市民福祉センター会場（岩手県滝沢市中鵜飼） 8回実施 参加者128名</p> <p>(2) 岩姫台集会場（岩手県滝沢市大崎地区） 9回開催 参加者94名</p> <p>(3) 男の井戸端会議（岩手県滝沢市牧野林地ベルフ牧野林店内） 9回開催 参加者46名</p> <p>(4) 75歳以上限定サロン（岩手県滝沢市大崎地区） 10回開催 参加者151名</p> <p>(5) ものづくりサロン（小岩井地区他） 15回開催 参加者221名</p> <p>2 若潮会交流会 期間中6回開催 延べ184名参加</p> <p>(1) 7月25日 みんなで楽しむ演芸会（滝沢市市民福祉センター）</p> <p>(2) 8月7日 魅惑のマジックショー&フルーツのしらべ （ビックルーフ滝沢）</p>

	<p>(3) 11月 2日 復興応援!! 紅葉狩りツアー (岩泉町他)</p> <p>(4) 11月 19日 若潮会×大学生 秋の料理教室交流会 (滝沢市岩姫台集会所)</p> <p>(5) 3月 14日 若潮会遠足 in 松川温泉 (八幡平市他)</p> <p>(6) 3月 16日 若潮会交流会 (下鶴飼集会所)</p> <p>3 作品展 内陸避難者が作成した作品 (手芸・絵画等) の展示会を1回開催 12月 15日～12月 17日 出展数 477点 来場者数 368名</p> <p>4 戸別訪問活動 延べ 386件実施 6月 48件 7月 34件 8月 22件 9月 30件 10月 32件 11月 42件 12月 62件 1月 33件 2月 34件 3月 49件</p>																								
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>国</td><td>2,256,000円</td></tr> <tr><td>県</td><td>677,000円</td></tr> <tr><td>取組実施主体</td><td>451,490円</td></tr> <tr><td>計</td><td>3,384,490円</td></tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>人件費</td><td>2,008,902円</td></tr> <tr><td>旅費</td><td>215,740円</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>304,796円</td></tr> <tr><td>印刷製本費</td><td>521,532円</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>115,562円</td></tr> <tr><td>使用料及び会場借料</td><td>206,150円</td></tr> <tr><td>その他の経費</td><td>11,808円</td></tr> <tr><td>計</td><td>3,384,490円</td></tr> </table>	国	2,256,000円	県	677,000円	取組実施主体	451,490円	計	3,384,490円	人件費	2,008,902円	旅費	215,740円	消耗品費	304,796円	印刷製本費	521,532円	通信運搬費	115,562円	使用料及び会場借料	206,150円	その他の経費	11,808円	計	3,384,490円
国	2,256,000円																								
県	677,000円																								
取組実施主体	451,490円																								
計	3,384,490円																								
人件費	2,008,902円																								
旅費	215,740円																								
消耗品費	304,796円																								
印刷製本費	521,532円																								
通信運搬費	115,562円																								
使用料及び会場借料	206,150円																								
その他の経費	11,808円																								
計	3,384,490円																								
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 71.5%</u> <p>【直接的な効果】</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サロン開催</td> <td><u>50回</u></td> <td><u>51回</u></td> <td>102%</td> </tr> <tr> <td>若潮会交流会</td> <td><u>3回</u></td> <td><u>6回</u></td> <td>200%</td> </tr> <tr> <td>作品展</td> <td><u>1回</u></td> <td><u>1回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>戸別訪問</td> <td><u>270件</u></td> <td><u>386件</u></td> <td>143%</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	実績値	達成率	サロン開催	<u>50回</u>	<u>51回</u>	102%	若潮会交流会	<u>3回</u>	<u>6回</u>	200%	作品展	<u>1回</u>	<u>1回</u>	100%	戸別訪問	<u>270件</u>	<u>386件</u>	143%				
	目標値	実績値	達成率																						
サロン開催	<u>50回</u>	<u>51回</u>	102%																						
若潮会交流会	<u>3回</u>	<u>6回</u>	200%																						
作品展	<u>1回</u>	<u>1回</u>	100%																						
戸別訪問	<u>270件</u>	<u>386件</u>	143%																						

	<p>【波及的な効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 当法人が中心となり被災者と企画を進めることで、被災者も企画の進め方について学ぶきっかけに繋がった。 2 企画を一緒に考えたことで、イベントへの参加意欲がより高まり、積極的に動く人が増え、満足度の高いサロン・交流会となった。 3 準備、後片付けを一緒に行うことで、自分たちの活動に積極的に参加する意識づけになった。 4 サロン、交流会の回数を増やしてほしいとの要望が被災者から出るなど意欲の向上が見られた。 5 サロンや交流会に参加していただくことにより、地元の学生や地域の方と繋がるきっかけになった。 6 普段サロンや交流会に参加できない方でも、作品展に手作り作品を出品することによって生きがいつくりにつながった。 7 普段サロンや交流会に参加できない方に、戸別訪問を通じてアプローチをすることで生活の中での不安や悩みの生活相談を実施することで孤立防止につながった。 <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 若潮会の活動をきっかけに、学生や地域の方からイベントのアイデア提案をもらうようになり、学生や地域の方の積極的な参画につながった。 2 サロン等に地域の方々に参加いただいたことをきっかけに、地域で孤立が懸念される方が継続的に交流会などに参加されるなど、地域の被災者の孤立防止につながった。
30 年度以降の活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 企画や運営方法を学ぶきっかけ作りや参加意欲の向上は図れたが、今後とも寄り添いながら運営の主体を被災者に段階的に転換していく。更なる被災者の参画を高め、より被災者主導の取り組みに移行出来るよう支援していく。 2 震災から 7 年が経ち、健康状態やライフスタイルが変わってきており、今まで通りの関わり方ではなく、個々のニーズに合わせたきめ細かな支援をしていく。
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>目標値を上回る実績であり、受益者アンケートの満足度もある程度高いことから、一定の成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 13
事業名	コミュニティのエンパワーメント事業
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人陸前たがだ八起プロジェクト
実施期間	平成29年6月1日 ～ 平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 モビリア仮設住宅は市内で最後まで残る仮設住宅であり、新たに移り住んで来る被災者がコミュニティにとけ込んでいくことができるようにしていく。</p> <p>2 再建された方々も地域コミュニティになじめていないことから、モビリア仮設住宅を含んだ地域と地域を繋ぐコミュニティ形成のきっかけづくり、交流の場づくりの後押しを行う。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 モビリア仮設住宅支援（内向きの支援）</p> <p>(1) モビリア仮設住宅サポートセンター運営 モビリア仮設自治会からのコミュニティサポートの依頼もある事から下記の実施を行う。</p> <p>① 住民悩み事相談（随時）</p> <p>② モビリア自治会サポート（自治会総会年1回、理事会年4回程度）資料作成、総会理事会参加</p> <p>③ モビリア区長情報共有（週1回程度）</p> <p>(2) ボランティアコーディネート</p> <p>① ボランティアコーディネート（随時）</p> <p>② 草刈りボランティア（隣市、法人）</p> <p>③ 学校ボランティア（教育受け入れ）等</p> <p>(3) 集会所を利用した居場所づくり</p> <p>① モビリア仮設住宅では3つの集会所がある、しかしながら誰もいなど利用しにくい状況になる事から、平日の日中常駐しながら、集いあえる環境づくりを行う。</p> <p>2 モビリア仮設住宅を中心とした地域コミュニティづくり（外向きの支援）</p> <p>(1) 健康維持管理プログラム、「モビリア倶楽部（軽体操）」週一度程度実施</p> <p>① モビリア仮設集会所内で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タオルを使ったストレッチ ・ ゴムバンドを使ったストレッチ ・ ヨガ、ラジオ体操等 ・ 後にお茶会30分程度取り入れ、シットィングバレー、スポーツ吹き矢、室内ボーリング等の実施 ・ 暖かい時期には屋外でグラウンドゴルフの練習、年複数回市内大会に参加 <p>(2) やりがい生きがいプログラム、「ふれあい畑」の実施（農繁期 おおむね4</p>

月～11月の週1回実施)

- ① モビリア場内の敷地を利用して、ボランティア(外部、地域問わず)との交流を持ちながら農作業に従事してコミュニティ作りを行う。
- ② 地域交流コミュニティ支援プログラム「大人の遠足、お買い物ツアー」期間中2回程度実施(春、秋)

モビリア仮設住宅を中心とした周辺地域では、被災から免れた住宅や自力再建住宅、防災集団移転住宅、災害公営住宅、仮設住宅の住民や、再建のめどが立たない市街地からの移住者が混在しており、隣人が誰なのか知らない人たちが増えてきており、それぞれの入居スタイルに沿って目に見えない壁(格差)ができています。特に高齢被災者は外へ出る機会も極端に少なくなってきたおり、外に出る機会を創出し交流を図るプログラムを行う。

3 外と内をつなぐ支援

モビリア仮設住宅支援(内向きの支援)とモビリア仮設住宅を中心とした地域コミュニティづくり(外向きの支援)では、以前にモビリア仮設に入居されていた方をキーマンとして内と外をつなぐ役割を担っていただき、地域住民とモビリア仮設を巻き込んで地域コミュニティの活性化を図る。

【活動実績】

1 モビリア仮設住宅支援(内向きの支援)

(1) モビリア仮設住宅サポートセンター運営 週10人程度。

- ・ 水道の断水問題の対応、期間中5回程度対応
- ・ 場内の見回りポスティング、最低2回/月
- ・ 場内環境整備、ゴミ拾い、倒木伐採作業、都度実施
- ・ PCの操作説明等

(2) ボランティアコーディネート

総数18団体

- ① 上尾市のボランティア団体 7回(6/3, 4 7/22, 23 10/21 1/27 3/11)
- ② 一関市の自治会 1回(6/18)
- ③ 水沢市の高校 4回(8/24, 25 10/26, 27)
- ④ 一関市の高校 1回(7/26)
- ⑤ 陸前高田市の中学校 2回(1/27, 12/26)
- ⑥ 事業のボランティア団体 1回(6/2)
- ⑦ 花巻市の中学校 1回(6/23)
- ⑧ 新潟県の高校 1回(6/24)
- ⑨ 花巻市の中学校 1回(7/6)
- ⑩ 企業 1回(7/28)
- ⑪ 奥州市の中学校 1回(9/7)
- ⑫ 花巻市の中学校 1回(9/8)
- ⑬ 水沢市の高校 1回(9/21)
- ⑭ 盛岡市の高校 1回(9/23)

	<p>⑮ 金ヶ崎町の中学校 1回 (9/27)</p> <p>⑯ 紫波町の中学校 1回 (10/25)</p> <p>⑰ 支援学校 1回 (11/14)</p> <p>⑱ 大学 3回 (7月、9月、3月)</p> <p>(3) 集会所を利用した居場所づくり</p> <p>1日4～5人程度を目標としてモビリア東集会所北集会所と北周囲所を開放し可能な限り集会所に常駐し気軽に出入りできる環境づくりを行い、モビリア仮設自治会からの要請を受け10月からは北集会所を中心とした居場所づくりを行った。</p> <p>2 地域交流コミュニティ支援プログラム</p> <p>(1) 健康維持管理プログラム、「モビリア倶楽部(軽体操)」</p> <p>毎週火曜日、モビリア北集会所にて実施 (ただし、お盆と年末年始除外)</p> <p>44回実施 参加総数 325人</p> <p>(2) やりがい生きがいプログラム、「ふれあい畑」</p> <p>農繁期の4月～11月の毎週水曜日曜日実施 (ただし、お盆時期除く)</p> <p>30回実施 延べ 235人</p> <p>(3) 地域交流プログラム「大人の遠足、お買い物ツアー」</p> <p>期間中3回程度実施 (春、秋)。</p> <p>① 7/22 石巻方面 総数 70名</p> <p>仮設住宅 4名</p> <p>災害公営住宅 7名</p> <p>住宅再建他 50名</p> <p>(ボランティアスタッフ 9名参加)</p> <p>② 10/21 中尊寺方面 総数 57名</p> <p>仮設住宅 4名</p> <p>災害公営住宅 8名</p> <p>住宅再建他 40名</p> <p>(ボランティアスタッフ 5名参加)</p> <p>③ 1/27 黒崎温泉 総数 45名</p> <p>仮設住宅 1名</p> <p>災害公営住宅 7名</p> <p>住宅再建他 34名</p> <p>(ボランティアスタッフ 3名参加)</p> <p>3 外と内をつなぐ支援</p> <p>(1) お茶っこ会 5回開催 約100名参加</p> <p>防災集団移転先、新しく再建された両替地区 2回</p> <p>森崎地区 2回</p> <p>新田地区地区 1回</p> <p>(2) 「黙祷と献花の集い」を開催 (3/11) 36名参加</p> <p>モビリア展望台にて、八起プロジェクトとモビリア自治会の共同開催</p>
--	---

経費の内訳	【財源内訳】 国 2,256,000 円 県 790,000 円 取組実施主体 338,974 円 計 3,384,974 円 【経費内訳】 人件費 2,200,000 円 諸謝金 74,000 円 旅費 167,898 円 消耗品費 377,762 円 印刷製本費 158,511 円 通信運搬費 104,293 円 使用料及び会場借料 302,510 円 計 3,384,974 円																																																																			
	【成果目標の達成状況】 ・ 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 89.6%</u> 【直接的な効果】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">目標値</th> <th style="text-align: center;">実績値</th> <th style="text-align: center;">達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 モビリア仮設住宅支援（内向きの支援）</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> (1) モビリア仮設住宅</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> サポートセンター運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> ① 住民悩み事相談（随時）</td> <td style="text-align: center;"><u>随時</u></td> <td style="text-align: center;"><u>週 10 人程度</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td> ② モビリア自治会サポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 自治会総会</td> <td style="text-align: center;"><u>年 1 回</u></td> <td style="text-align: center;"><u>年 1 回</u></td> <td style="text-align: center;">100%</td> </tr> <tr> <td> 理事会</td> <td style="text-align: center;"><u>年 4 回</u></td> <td style="text-align: center;"><u>年 5 回</u></td> <td style="text-align: center;">125%</td> </tr> <tr> <td> ③ モビリア区長情報共有</td> <td style="text-align: center;"><u>週 1 回</u></td> <td style="text-align: center;"><u>週 1 回</u></td> <td style="text-align: center;">100%</td> </tr> <tr> <td> (2) ボランティアコーディネート</td> <td style="text-align: center;"><u>随時</u></td> <td style="text-align: center;"><u>28 回</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td> ① ボランティアコーディネート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> ② 草刈りボランティア（隣市、法人）</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> ③ 学校ボランティア（教育受け入れ）等</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> (3) 集会所を利用した居場所づくり</td> <td style="text-align: center;"><u>随時</u></td> <td style="text-align: center;"><u>随時</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>2 モビリア仮設住宅を中心とした地域コミュニティづくり（外向きの支援）</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> (1) 健康維持管理プログラム「モビリア倶楽部（軽体操）」</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> ① モビリア仮設集会所内で実施</td> <td style="text-align: center;"><u>週 1 回</u></td> <td style="text-align: center;"><u>44 回</u></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	実績値	達成率	1 モビリア仮設住宅支援（内向きの支援）				(1) モビリア仮設住宅				サポートセンター運営				① 住民悩み事相談（随時）	<u>随時</u>	<u>週 10 人程度</u>	-	② モビリア自治会サポート				自治会総会	<u>年 1 回</u>	<u>年 1 回</u>	100%	理事会	<u>年 4 回</u>	<u>年 5 回</u>	125%	③ モビリア区長情報共有	<u>週 1 回</u>	<u>週 1 回</u>	100%	(2) ボランティアコーディネート	<u>随時</u>	<u>28 回</u>	-	① ボランティアコーディネート				② 草刈りボランティア（隣市、法人）				③ 学校ボランティア（教育受け入れ）等				(3) 集会所を利用した居場所づくり	<u>随時</u>	<u>随時</u>	-	2 モビリア仮設住宅を中心とした地域コミュニティづくり（外向きの支援）				(1) 健康維持管理プログラム「モビリア倶楽部（軽体操）」				① モビリア仮設集会所内で実施	<u>週 1 回</u>	<u>44 回</u>
	目標値	実績値	達成率																																																																	
1 モビリア仮設住宅支援（内向きの支援）																																																																				
(1) モビリア仮設住宅																																																																				
サポートセンター運営																																																																				
① 住民悩み事相談（随時）	<u>随時</u>	<u>週 10 人程度</u>	-																																																																	
② モビリア自治会サポート																																																																				
自治会総会	<u>年 1 回</u>	<u>年 1 回</u>	100%																																																																	
理事会	<u>年 4 回</u>	<u>年 5 回</u>	125%																																																																	
③ モビリア区長情報共有	<u>週 1 回</u>	<u>週 1 回</u>	100%																																																																	
(2) ボランティアコーディネート	<u>随時</u>	<u>28 回</u>	-																																																																	
① ボランティアコーディネート																																																																				
② 草刈りボランティア（隣市、法人）																																																																				
③ 学校ボランティア（教育受け入れ）等																																																																				
(3) 集会所を利用した居場所づくり	<u>随時</u>	<u>随時</u>	-																																																																	
2 モビリア仮設住宅を中心とした地域コミュニティづくり（外向きの支援）																																																																				
(1) 健康維持管理プログラム「モビリア倶楽部（軽体操）」																																																																				
① モビリア仮設集会所内で実施	<u>週 1 回</u>	<u>44 回</u>	-																																																																	
具体の成果																																																																				

(2) やりがい生きがいプログラム	週1回	30回	100%
①「ふれあい畑」の実施（農繁期 おおむね4月～11月の週一回実施）			
② 地域交流コミュニティ支援プログラム「大人の遠足、お買い物ツアー」			
	2回	3回	150%
3 外と内をつなぐ支援	2回	5回	250%

【波及的な効果】

- 多岐にわたる寄り添い支援を行い、モビリア仮設住宅の安心安全の提供に努め、住民やモビリア自治会からも役員会の参加を求められるなど信頼関係を培えた。
- 協力関係にあるR e V A～復興ボランティアチーム上尾はじめ、企業の方々や各種教育関係機関とモビリア仮設住宅を中心とした地域にてイベント参加や草刈り作業を行い環境美化作業や地域住民との交流を図り、繋がりを持ち地域活性化の一助となった。
- ボランティアには可能な限り、震災当時の出来事や現状などをお話しする時間を設け、震災の風化防止につなげる事にも寄与した。
- バスを貸し切りとして昼食を共にし、買い物をするツアーは、利用者から大変好評を得ており、知人友人に震災後初めて会う方も少なくない。

近況を報告し合うなどし、外に出る開放感も得られ、参加者は高齢者のみならず家族も徐々に増えつつ有り、参加する事に対し生きがいを感じている方も多い。

モビリア仮設住民と地域住民同士の異なる居住地をつなぎ、自分たちで手作りのお菓子を持ち寄るなど参加意欲も高く、外出機会を創出した事で、引きこもりの住民が減った。

- モビリア仮設住民のみならず、小友町、広田町の地域を中心とした地域や、様々な理由で立ち寄りの方々も少なくなく交流の場として確立した。

1日平均15人前後の方が立ち寄り、滞在時間が毎日2～6時間の方も4、5人と増えた。

- イベントに参加されている方々の中から、「麻雀したいので集まろう」等の声上がり、当初は月1・2度イベントに組み入れながら行っていたが、年明けには自発的に週1度ペースで行うようになった。

特に独居男性数人が集うようになってきた事で、生きがいや居場所づくりの効果がでてきた。

NPO等による復興・被災者支援の取組に関する満足度についてのアンケートより

1 心の復興

- ・ 孤立感や不安感が軽減された ⇒ 94%が軽減された
みんなと会えてよかった
- ・ 心身の健康改善につながった ⇒ 97%が改善につながった
久しぶりの方に合えることができた

- ・家族の負担軽減につながった ⇒ 94%が軽減された
自分だけの悩み事だったのではないと知る
- ・他人との交流が増えた。 ⇒ 96%が増えた
- ・これからの生活に向けて前向きに活動できるようになった
⇒ 73%
いろいろ教えられることができた
知らないことなどの話をきいたりした

2 きっかけづくり

仮設、公営住宅、自立再建、集団移転、元のお住まいの方などがイベントに参加して、新たな生活環境下でのコミュニティの確立に繋げる。

参加者の属性

仮設住宅	3.5%
災害公営住宅	16.0%
住宅（再建含む）	85.0%

【その他事業によって得られた成果等】

アンケート結果

- ・ 色々な人達と会えるのが楽しみ。ずっと続けてほしい。
- ・ みんなで集まって、ひとつのことをすることにより孤独感が緩和される。
- ・ 八起プロジェクト自体が地域を明るくしており、事業・行事への参加により参加者への生きがいを提供してくれている。
- ・ いっしょにいて楽しい。これからも継続してほしい。他の地域の人達と会えるので。
- ・ 震災前知る事のなかった人々と知り合い交流出来た。
- ・ 皆様からいろいろ教わることが多いのがうれしいです。
- ・ 無料なので参加しました。
- ・ 皆様からいろいろ教わるが多いのがうれしいです。
- ・ 見なれた顔がいて楽しいです。
- ・ 遠足等、友人やその他知っている人と久々会えて楽しい。大人の遠足楽しみにしています。できるならずっと続けてほしいです。
- ・ 一緒に活動すると笑顔になります。
- ・ 毎回誠意あふれるお世話、ご活動下さり深く感謝を申し上げます。
- ・ 旅行や料理教室等に参加しています。まだ続けてほしいです。
- ・ 色々元気が出ます。
- ・ 一生懸命お世話して下さいととっても楽しいです。これからもがんばってほしい。
- ・ 地域の人との交流ができる。知人が増える。
- ・ 月1回の遠足が楽しみ。
- ・ 地域の人達と仲良く交流し楽しく過ごさせて頂いております。これからもよろしくお願い致します。

アンケート結果からこの事業に参加する事を生き甲斐としている方が居ると

	感じており、確実なコミュニティ形成の一助となっている。
30 年度以降の活動計画	<p>1 取り巻く環境はあまり変わっていないと推測され、コミュニティへの不安は残ると思われる。造成された土地の引き渡しは平成 30 年度までには目途がつくものの、自宅の再建までは最低 2 年を要する。比較的復興が進んでいる東部地区への移住者の流入は増える見込みであるが、元来より居住している方は受け入れ体制に不安を抱いている状況で有るため、新しい地域コミュニティの構築も継続して行っていく必要がある。</p> <p>2 活動拠点のモビリア仮設住宅団地は集約拠点にもなっているため、平成 30 年以降は他の仮設住宅からの新たな入居者が増える見込みである。住民のコミュニティづくり対策がすぐには進まない状況から、今後も住民に寄り添い、共に歩みながら、復興に取り組み、引き続き同様のコミュニティの構築支援の継続を行う。</p>
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>目標値以上の実績値であり、受益者アンケートの満足度も高いことから、優れた取組と評価する。</p>

整理番号	(1) - 14
事業名	若者の力を活かした地元支援活動の促進と、持続可能な担い手育成プロジェクト
補助事業者と役割分担	一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
実施期間	平成29年6月1日～平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地元の若者がボランティア活動を行う機会を創ることで、地域に必要とされる支援活動を継続する原動力とする。 2 ボランティアをきっかけとして地域と関わり、地元の良さを再確認する経験を積み重ねることが、結果として地元愛を育むこととなり、その若者たちが次代の「復興まちづくり」を行う地域活動人材として活躍し、若者たちが誇りを持てるまちづくりへと繋げる。 <p>【実施計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 若者が主体的に地域活動に関わる場づくり 2 若者が主体となったコミュニティ企画やボランティア活動の実施（小中高生、出身大学生） 3 子どもが主体となった仮設団地のコミュニティ企画「かまっこまつり」の実施（小学生） 4 若者の活動を支えるファンコミュニティとの連携 <p>【活動実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 若者が主体的に地域活動に関わる場づくり 若者が地域活動やボランティアへ参加しやすい体制構築、定例ミーティングの実施（高校生、出身大学生） <u>合計 28 回</u> <p>6月 2回（6/2、6/19） 7月 4回（7/5、7/15、7/21、7/26） 8月 6回（8/1、8/2、8/12、8/23、8/24、8/30） 9月 6回（9/12、9/14、9/17、9/20、9/25、9/30） 10月 1回（10/4） 11月 2回（11/1、11/15） 12月 1回（12/9） 1月 3回（1/6、1/14、1/29） 2月 2回（2/4、2/22） 3月 1回（3/16）</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 若者が主体となったコミュニティ企画やボランティア活動の実施（小中高生、出身大学生） <p>6/ 4 根浜海岸 避難道整備（高校生1名） 7/ 6 地域貢献ボランティア活動 湯本中学校 44名 7/15 根浜グランピア企画 文京学院大学 10名</p>

<p>事業内容とスケジュール</p>	<p>7/17 根浜海岸一斉清掃活動 89名 7/22 アメリカの高校生と友達になろう企画 ラグカフェ 5名 7/23 日米高校生交流会 釜石市内 3名 7/25 郷土芸能を通じた国際交流（市内小学生）12名 8/ 3 わんぱく子ども広場 IN 根浜（小学生）8名 8/ 4 くりりん祭（小学生）36名 8/ 6 釜石よいさ運営ボランティア 18名 8/10～12 自然体験キャンプ（※台風の影響により8/27に延期） 8/12 マグネットイベント 10名 8/20 海あそび企画① 10名 8/27 自然体験日帰りキャンプ 5名 9/ 3 釜石はまゆりトライアスロン大会 釜石市内 6名 9/ 9 海あそび企画② 10名 9/30-10/22 Meetup Kamaishi2017 運営ボランティア（釜石市内）35名 10/ 4 地域貢献ボランティア活動 石鳥谷中学校 140名 10/12 地域貢献ボランティア活動 盛岡第三高校 83名 10/22 くりりん祭 37名 10/25 地域貢献ボランティア活動 滝沢中学校 160名 10/26-27 富士見丘高校 教育旅行 118名 10/28 鶴住居あそび場「うの〇」オープニングイベント 11/ 3 ミャンマー環境・防災技術交流プログラム 35名 11/12 チョロギ掘りボランティア 3名 11/23 海浜植物再生プロジェクトボランティア 5名 12/ 2 若者交流会 鶴住居町 16名 12/ 3 仮設住宅清掃ボランティア 鶴住居町 21名 12/ 5 弘前実業高校 海浜環境再生ボラ&MTG 16名 12/23 スポーツおにごっこ企画 6名 1/ 7 鶴住居日向復興住宅もちつき企画 12名 2/ 4 韋駄天競争 8名 2/16～19 明海大学・高校生合同ボラ活動（同世代交流、雪かき）23名 3/14 さんりく子どものまち 運営ボランティア 8名 3/11～12 3.11復興のあかりボランティア 50名</p> <p>3 子どもが主体となった仮設団地のコミュニティ企画「かまっこまつり」の実施（小学生）</p> <p>12/ 9 かまっこまつり作戦会議 12/23 かまっこまつり準備 12/ 4～ 7 かまっこまつり準備作業 12/ 8 かまっこまつり本番</p> <p>4 若者の活動を支えるファンコミュニティとの連携</p> <p>(1) 活動報告会の実施</p> <p>6/29 聖学院大学 釜石学講義（埼玉県） 120名</p>
--------------------	---

<p>事業内容とスケジュール</p>	<p>8/19 釜石コンパス（釜石高校） 20名 9/ 2 環境教育学会公開シンポジウム IN 岩手大学（盛岡） 80名 10/11 子供・若者育成支援のための地域連携推進事業ブロック研修会（青森県） 150名 10/30 未来パスポート（大槌高校） 20名 11/ 5 明海大学 報告会（千葉県） 30名 11/21 岩手大学教育学部附属小学校 報告会（盛岡市） 80名 12/14 摂南大学 活動報告会（大阪府） 50名 12/16 富士見市社会福祉協議会 報告会（埼玉県） 120名 12/16 東京さんつな会 報告会（東京都） 30名 1/10 釜石市教育研究所全体会（釜石市内） 200名 1/17 明星大学姜ゼミ 報告会（東京都） 45名 1/25 岩手大学教育学部附属小学校 最終発表会（盛岡） 80名 2/ 1～ 2 JCN 現地会議 in 東京・大阪 200名 2/ 8 杏林大学 報告会（釜石市内） 18名 2/28 日本エコツーリズムセンター 報告会（東京都） 60名 (2) 地元の若者が主体となったコミュニティ企画と、実現を後押しするファンコミュニティとのマッチング 6/26 摂南大学との連携協定締結に伴う学校訪問（大阪府） 6/30 スポンサー訪問 [(株)ニチレイマグネット、(株)中川ケミカル] 富士見市社協サマープログラムMTG（東京都） 7/ 1 明星大学にてゼミ合宿プログラムMTG（東京都） 7/29～30 びゅうトラベル子ども交流サマーキャンプ 8/26 横田教授@慶應義塾大学MTG 11/ 6 聖学院大学MTG 11/ 8 東北物販イベント参加@上野駅 11/ 7 富士見市社会福祉協議会MTG（埼玉県） 11/21 SORA MTG 12/15 獨協大学MTG 12/16 明星大学MTG 1/13 岩手大学地域貢献プログラム受け入れ (3) まちあるきプログラムづくりWSの実施 9回 (7/9、7/22、8/20、9/10、9/19、9/26、9/29、10/1、10/8) (4) オリジナルDMの発送 9/25 主に県外向けに 244 通 12/25 主に県外向けに 400 通 5 先進事例の視察および各種研修への参加 (1) 研修への参加（中高生世代交流等） (2) 伴走者研修への参加 6/24 ボランティアコーディネーション力研修（大阪） 7/ 2 日本災害復興学会 現地研修（大槌町） 釜石高校生5名</p>
--------------------	--

<p>事業内容とスケジュール</p>	<p>7/14 L G B T研修（釜石市） 釜石高校生1名 11/15 安全ミーティング（東京都）</p> <p>6 高校と連携したボランティアマッチングの体制構築</p> <p>(1) 定期的な情報交換の実施 【新規】</p> <p>6/21 ボランティアおよびサービスラーニングについてMTG（釜石高校）</p> <p>6/28 釜石高校生徒会とのボランティア活動MTG（釜石高校）</p> <p>7/ 8 サービスラーニング説明会の実施（釜石高校）</p> <p>12/ 4 サービスラーニング経過報告（釜石高校）</p> <p>3/13 サービスラーニング成果報告、次年度について（釜石高校）</p> <p>(2) 高校と連携したボランティア募集の実施 【新規】</p> <p>(3) コミュニティサービスラーニング、P B L（Project Based Learning）手法を用いた地域課題解決の実践 【新規】</p> <p>6/21 顔合わせ、地域の課題抽出 [釜石高校]</p> <p>7/ 8 課題の深掘り及びテーマの絞り込み [青葉ビル]</p> <p>8/ 7～8 サービスラーニング合宿の実践</p> <p>11/20 鶴住居小学校訪問、高校生による企画提案 [鶴住居小学校] 大学生と打ち合わせ、作業の実施 [鶴住居公民館]</p> <p>2/26 前日リハーサル</p> <p>2/27 高校生による講座の実施 [鶴住居小学校]</p> <p>その他、オンラインミーティング等を期間中に6回実施</p>																								
<p>経費の内訳</p>	<p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr> <td>国</td> <td>2,961,000円</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>962,000円</td> </tr> <tr> <td>取組実施主体</td> <td>518,755円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,441,755円</td> </tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table border="0"> <tr> <td>人件費</td> <td>3,423,853円</td> </tr> <tr> <td>諸謝金</td> <td>99,305円</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>716,014円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>72,719円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>42,064円</td> </tr> <tr> <td>使用料及び会場借料</td> <td>47,000円</td> </tr> <tr> <td>委託費</td> <td>40,800円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,441,755円</td> </tr> </table>	国	2,961,000円	県	962,000円	取組実施主体	518,755円	計	4,441,755円	人件費	3,423,853円	諸謝金	99,305円	旅費	716,014円	消耗品費	72,719円	通信運搬費	42,064円	使用料及び会場借料	47,000円	委託費	40,800円	計	4,441,755円
国	2,961,000円																								
県	962,000円																								
取組実施主体	518,755円																								
計	4,441,755円																								
人件費	3,423,853円																								
諸謝金	99,305円																								
旅費	716,014円																								
消耗品費	72,719円																								
通信運搬費	42,064円																								
使用料及び会場借料	47,000円																								
委託費	40,800円																								
計	4,441,755円																								

<p>具体の成果</p>	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 <ul style="list-style-type: none"> 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 100.0%</u> (※回収数が少ないため、参考値とする) <p>【直接的な効果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 若者との定例ミーティング</td> <td><u>30回</u></td> <td><u>28回</u></td> <td><u>93%</u></td> </tr> <tr> <td>2 ボランティア活動等の実施</td> <td><u>17回</u></td> <td><u>35回</u></td> <td><u>205%</u></td> </tr> <tr> <td>活動報告会の実施</td> <td><u>3回</u></td> <td><u>16回</u></td> <td><u>533%</u></td> </tr> <tr> <td>3 研修への参加</td> <td><u>3回</u></td> <td><u>1回</u></td> <td><u>33%</u></td> </tr> <tr> <td>4 生徒会が主体となった募集</td> <td><u>10回</u></td> <td><u>24回</u></td> <td><u>240%</u></td> </tr> <tr> <td>サービスラーニングへの参加</td> <td><u>10名</u></td> <td><u>11名</u></td> <td><u>110%</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>1 若者が主体的に地域活動に関わる場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若者との定例ミーティングを 28 回実施した。 ・ 地域貢献を目的としたボランティア活動を 35 回実施、1,043 名参加 <p>2 若者の活動を支えるファンコミュニティとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動報告会を 16 回実施、約 1,300 名へ活動をアピールした。 ・ コミュニティを支える関係維持を目的にオリジナルDMを 644 通発送 <p>3 先進事例の視察および各種研修への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動に特化した研修へ参加し、他地域の実践者（主に関西方面）と情報交換を行った。 <p>4 高校と連携したボランティアマッチングの体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校との定期的な情報交換を実施した。 ・ 釜石高校の生徒会と連携したボランティア募集の体制を構築し、生徒会が主体となったボランティア募集を 24 回実施した。 ・ 大学、高校と連携したコミュニティサービスラーニング事業へ 11 名（高校生 5 名、大学生 6 名）が参加し、1泊2日の合宿型を軸として、地域課題をテーマにした2つのアクションプラン「地元郷土料理を活用した釜石の魅力発信」「小学生を対象とした地域課題講座」を作成した。 ・ 「小学生対象を対象とした地域課題講座」については、実現可能性の高いプラン内容であったことから、継続して企画内容のブラッシュアップを行い、鶴住居小学校さんの協力を頂き、4年生約40名を対象とした45分の地域課題講座を行った。 <p>【波及的な効果】</p> <p>1 地元の若者が地域に関わる機会を多く生み出すことで、遠方から訪れる支援者に頼りきっていた活動の一部を地元の若者が担う流れを創ることが出来た。</p>		目標値	実績値	達成率	1 若者との定例ミーティング	<u>30回</u>	<u>28回</u>	<u>93%</u>	2 ボランティア活動等の実施	<u>17回</u>	<u>35回</u>	<u>205%</u>	活動報告会の実施	<u>3回</u>	<u>16回</u>	<u>533%</u>	3 研修への参加	<u>3回</u>	<u>1回</u>	<u>33%</u>	4 生徒会が主体となった募集	<u>10回</u>	<u>24回</u>	<u>240%</u>	サービスラーニングへの参加	<u>10名</u>	<u>11名</u>	<u>110%</u>
	目標値	実績値	達成率																										
1 若者との定例ミーティング	<u>30回</u>	<u>28回</u>	<u>93%</u>																										
2 ボランティア活動等の実施	<u>17回</u>	<u>35回</u>	<u>205%</u>																										
活動報告会の実施	<u>3回</u>	<u>16回</u>	<u>533%</u>																										
3 研修への参加	<u>3回</u>	<u>1回</u>	<u>33%</u>																										
4 生徒会が主体となった募集	<u>10回</u>	<u>24回</u>	<u>240%</u>																										
サービスラーニングへの参加	<u>10名</u>	<u>11名</u>	<u>110%</u>																										

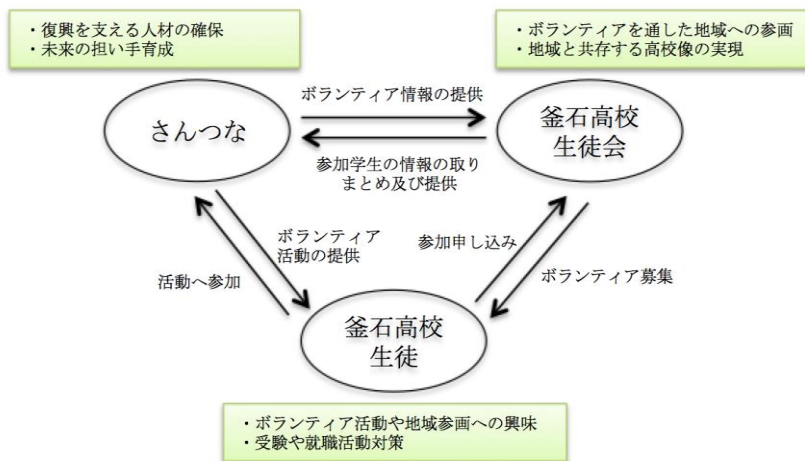
また、地域側にも高校生を始めとした地域の若者がボランティア活動へ参加することへの理解がより一層高まった。

- 2 釜石高校との連携体制が明確になったことにより、効率的に多くの若者を取り込むことが出来るようになった。
- 3 ボランティア活動に参加する高校生の中には、大学受験等に有利に働く効果を期待して活動に参加する生徒が一定数いるが、一度のみならず複数回参加するリピーターが約7割いることから、活動を通して地域と関わることによって、やりがいや自己有用感を得たり、地元地域への興味だったりを感じながら活動していることが伺える。
- 4 関わった若者たちの変化として「自分も復興に携わっていいんだ」という気づきを得たことで、支援活動の良き理解者として活動に繰り返し参加してくれたり、友人を巻き込んでくれたりと良い流れを作り出せている。
当団体では、地域住民の“やりたい想い”と、それを支える域外のファンコミュニティとのマッチングを行うことで、一つ一つ実現に導くコーディネートを行ってきた。地域の若者が主体となった地域貢献プランも、それを支える外部コミュニティと接続することで飛躍的に成果が向上するし、お互いに関わり合いを持つことで、お互いが育ち合う良好な関係値を生み出すことへと繋がっている。
- 5 ボランティア活動をきっかけとして地域住民と多様な交流が生まれ、足元にある資源や地域を主語に行動する大人たちのかっこよさに気づき、結果として若者たちが郷土愛を育むことにつながり、復興や未来のまちづくりを担うという意識が少しずつ芽生えている。

【その他事業によって得られた成果等】

- 1 次年度以降の活動は、学校教育と地域が良好な連携体制を構築しつつ若者の育ちをサポートすることが重要だが、サービスラーニング事業を通して、市内小学校・教育委員会と具体的な連携のイメージが共有できた。

ボランティア募集における
釜石高校生徒会との連携イメージ



<p>30 年度以降の活動計画</p>	<p>1 地域を活用した学びの安定的な提供～教員は転勤等で入れ替わるが、地域は基本的に変わらない。地域には課題が山積しており多様な学びの機会が広がっている。</p> <p>[子どもを取り巻く環境] ～生きづらさを抱える子どもたちの第3の居場所 それらを受けて、地域を活用した学びを安定的に提供するマネジメント組織の設立に向けた議論を次年度から開始する。</p> <p>[フェーズ1] 未就学～高校卒業までを貫いた地域での人材育成のビジョン策定 地域を活用した「いのちの教育」プログラムの構築</p> <p>[フェーズ2] 施設や地域を活用したアクティブラーニング型プログラムの教育現場への提供</p> <p>[フェーズ3] 津波伝承施設の指定管理 教育旅行の受け入れ</p> <p>2 地元教育現場や地域と連携したプログラムづくりを行う。いずれは教育旅行等による地域外利用も視野には入れているが、まずは地元教育現場が地域での本物の学びを求める存在となることが肝であることから、上記のステップを次年度から実践する。</p>
<p>評価</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <p>実績値が目標値を下回る取組があるものの、目標値を大幅に上回った取組もあること、また受益者アンケートの回収数が少なく、満足度が測定できなかったことから、一定の成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 15
事業名	『枠を超えた新たなコミュニティ作り』勉強会
補助事業者と 役割分担	一般社団法人 KEEN ALLIANCE
実施期間	平成29年6月1日 ~ 平成30年3月31日
事業内容と スケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 被災地におけるこれからのコミュニティの担い手発掘と育成のため、若い世代を中心とした継続的な意見交換会開催及びコーディネートを行う。数回行われる意見交換会のうちには、コミュニティ活動を実践してきた人を招き、学びを深める。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 若者のコミュニティ参加支援勉強会 3回開催予定 想定参加者延べ60名</p> <p>2 意見交換会及び新規取組みへ向けた検討会 7回開催予定 想定参加者延べ105名</p> <p>【活動実績】</p> <p>1 若者のコミュニティ参加支援勉強会</p> <p>① 第1回目勉強会 6/27 実施 参加者約150名</p> <p>② 第2回目勉強会 7/12 実施 参加者約150名</p> <p>③ 第3回目勉強会 9/28 実施 参加者約150名</p> <p>2 意見交換会及び新規取組みへ向けた検討会</p> <p>① 第1回目意見交換会 8/ 3 実施 参加者14名</p> <p>② 第2回目意見交換会 8/ 8 実施 参加者 9名</p> <p>③ 第3回目意見交換会 9/21 実施 参加者18名</p> <p>④ 第4回目意見交換会 11/ 3 実施 参加者 7名</p> <p>⑤ 第5回目意見交換会 1/23 実施 参加者 8名</p> <p>⑥ 第6回目意見交換会 2/17 実施 参加者 7名</p> <p>⑦ 第7回目意見交換会 3/10 実施 参加者 6名</p>
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <p>国 338,000円</p> <p>県 118,000円</p> <p>取組実施主体 51,002円</p> <p>計 507,002円</p> <p>【経費内訳】</p> <p>人件費 455,000円</p> <p>旅費 8,150円</p> <p>消耗品費 22,252円</p>

	会場賃料 21,600 円 計 507,002 円												
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 71.4%</u> <p>【直接的な効果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 若者のコミュニティ参加支援勉強会</td> <td><u>3回</u></td> <td><u>3回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>2 意見交換会及び新規取組みへ向けた検討会</td> <td><u>7回</u></td> <td><u>7回</u></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【波及的な効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 若者のコミュニティ参加支援勉強会 当初計画では岩手県内の大学生を交えての勉強会を予定していたが、地元高校と連携できることになり総合学習の1つとして実施した。 高校生が今まではあまり接点の無かった地域に入り込むきっかけ作りに寄与できた。 回数は予定通り、参加人数は予定より大幅増となった。 意見交換会及び新規取組みへ向けた検討会 未来を担う人材を発掘するために、地域や現代社会でどのような事が起きているのかを学び合う機会を作ることができた。 <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 若者（高校生）が地域に出たことにより、地域側でも協働して地域づくりを推進していこうとする意識啓発に繋がった。 		目標値	実績値	達成率	1 若者のコミュニティ参加支援勉強会	<u>3回</u>	<u>3回</u>	100%	2 意見交換会及び新規取組みへ向けた検討会	<u>7回</u>	<u>7回</u>	100%
	目標値	実績値	達成率										
1 若者のコミュニティ参加支援勉強会	<u>3回</u>	<u>3回</u>	100%										
2 意見交換会及び新規取組みへ向けた検討会	<u>7回</u>	<u>7回</u>	100%										
30 年度以降の活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 次年度も被災地の高校生と地域とを絡めた取り組みを行う計画づくりを行う。 人材発掘・育成の分野は単年度で成果を見るよりも継続していく中でより高い成果が発揮されるので、実施方法について本事業での反省を踏まえ取り組んでいく。 												
評価	被災地の復興・被災者支援に関して、 <input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった												
	目標値どおりの実績であり、受益者アンケートの満足度もある程度高いことから、一定の成果が得られたと評価する。												

整理番号	(1) - 16
事業名	つながる花と緑の力で復興まちづくり
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人 Green Fields
実施期間	平成29年6月30日 ~ 平成30年3月20日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 被災地に新しくできた街に人々が集い、緑あふれる美しい豊かな街として市民の手で復興するために、ワークショップやイベントなどを通じてコミュニティ再生のノウハウを学び、「心・繋がる・花と緑の力」で被災者、行政、地域住民が協働する、集いの場と組織づくり、人材育成を促す事業を行う。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 ワークショップ (各回30名程度)</p> <p>2 イベント (イルミネーション点灯式、花みどりフォーラム)</p> <p>【活動実績】</p> <p>事前打ち合わせ 6月</p> <p>1 ワークショップ</p> <p>釜石 5回の講座を実施し110名が参加</p> <p>キャッセン大船渡 5回の講座を開催し120名が参加</p> <p>(1) ハンギングバスケット、寄せ植え制作とコミュニティガーデンの基礎を学ぶワークショップ</p> <p>① 7月22日 釜石かまりば前 参加者30名 スタッフ3名</p> <p>② 7月29日 キャッセン大船渡 参加者15名 スタッフ2名</p> <p>③ 9月4日 キャッセン大船渡</p> <p>(2) 樹木の手入れと剪定を学び花緑のまちづくりを考えるワークショップ</p> <p>① 9月5日 釜石情報交流センター</p> <p>参加者12名 スタッフ2名 コーディネーター1名</p> <p>(3) ハーブについて学び花緑のまちづくりを考えるワークショップ</p> <p>① 10月24日 釜石かまりば前 大町災害公営住宅集会所</p> <p>参加者10名 スタッフ1名 コーディネーター1名</p> <p>(4) 球根とビオラ、秋のタネを植えるワークショップ</p> <p>① 11月2日 キャッセン大船渡</p> <p>参加者16名 スタッフ2名</p> <p>(5) 球根とビオラ、秋のタネを植えるワークショップ</p> <p>① 12月14日 釜石かまりば前大町災害公営住宅集会所</p> <p>参加者30名 スタッフ2名</p> <p>(6) クリスマス飾りワークショップ</p> <p>① 12月14日 キャッセン大船渡</p> <p>参加者25名 スタッフ2名 コーディネーター1名</p>

	<p>(7) クリスマス飾りワークショップ ① 2月1日 キャッセン大船渡 参加者33名 スタッフ2名 コーディネーター1名</p> <p>(8) アレンジメント教室等、冬の楽しみワークショップ ① 2月27日 釜石かまりば前大町災害公営住宅集会所 参加者24名 スタッフ3名</p> <p>2 イベント (1) 12月 大船渡 イルミネーション点灯式 参加者30名 (2) 3月16日 キャッセン大船渡 花みどりフォーラム「花づくり、人づくり、街づくり」 参加者40名 スタッフ2名 コーディネーター1名</p>																								
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>国</td><td>1,210,000円</td></tr> <tr><td>県</td><td>410,000円</td></tr> <tr><td>取組実施主体</td><td>196,312円</td></tr> <tr><td>計</td><td>1,816,312円</td></tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>人件費</td><td>434,250円</td></tr> <tr><td>諸謝金</td><td>124,800円</td></tr> <tr><td>旅費</td><td>493,358円</td></tr> <tr><td>消耗品</td><td>637,676円</td></tr> <tr><td>印刷製本費</td><td>40,350円</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>47,688円</td></tr> <tr><td>使用料及び会場借料</td><td>38,190円</td></tr> <tr><td>計</td><td>1,816,312円</td></tr> </table>	国	1,210,000円	県	410,000円	取組実施主体	196,312円	計	1,816,312円	人件費	434,250円	諸謝金	124,800円	旅費	493,358円	消耗品	637,676円	印刷製本費	40,350円	通信運搬費	47,688円	使用料及び会場借料	38,190円	計	1,816,312円
国	1,210,000円																								
県	410,000円																								
取組実施主体	196,312円																								
計	1,816,312円																								
人件費	434,250円																								
諸謝金	124,800円																								
旅費	493,358円																								
消耗品	637,676円																								
印刷製本費	40,350円																								
通信運搬費	47,688円																								
使用料及び会場借料	38,190円																								
計	1,816,312円																								
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 83.1%</u> <p>【直接的な効果】</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 ワークショップ</td> <td><u>10回</u></td> <td><u>10回</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>2 イベント</td> <td><u>2回</u></td> <td><u>2回</u></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>1 コミュニティガーデン講座 (1) 釜石 実施回数は予定通りだったが、雨天の場合を想定して、2回目の会場を少し離れた室内にしたため、参加者が少なかった。大町災害公営住宅の方</p>		目標値	実績値	達成率	1 ワークショップ	<u>10回</u>	<u>10回</u>	100%	2 イベント	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%												
	目標値	実績値	達成率																						
1 ワークショップ	<u>10回</u>	<u>10回</u>	100%																						
2 イベント	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%																						

	<p>が集会所を手配してからは順調に参加者が増加し、110名となった。 釜石市の協力で花壇も借りることができ、活動の幅が広がった。</p> <p>(2) キャッセン大船渡 大船渡広報で告知を行ってからは、毎回30名の定員を超える申込みがあったが、材料の都合上、人数を限定しなければならなかった。計120名の参加があった。</p> <p>2 イベント 点灯式では30名の参加者があり、子供達が木に飾るクリスマス飾り作りを楽しんだ。冬にキャッセン大船渡を訪れる市民や観光客の目を楽しませ、街を彩ることが出来た。 フォーラムでは40名の参加があり、花と緑のまちづくりについて県外の事例を学んだ。隣市の陸前高田市からの参加者もあり、波及効果があった。</p> <p>【波及的な効果】</p> <p>1 アンケートの結果 87%が孤独感や不安感が軽減された 83%が避難者同士や地域住民との交流が図れた 86%がこれからの生活に向けて前向きになった 88%が心身の健康改善につながった 82%が住んでいる地域、地区に活気が出た 88%が今後も支援を受けたい</p> <p>と回答した。ワークショップにおいて、コミュニティガーデンの基礎を学び実践作業を行うことで、コミュニティの作り方、運営の仕方を学び、思いを共有する仲間が交流することで活動の広がりができた。</p> <p>2 ワークショップ等において活発な意見交換がなされたことで、今後、住民主体の花壇維持運営組織が形作られることに繋がっていくことが期待される。</p> <p>3 市、災害公営住宅の住民、地元NPO、企業など様々な担い手が交流することにより、住民主体の花壇整備から、「花と緑の力」による復興の街作りにつなげるきっかけ作りとなった。</p> <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <p>1 花壇などが住民の手で綺麗に管理されることにより、その場所が明るくなり、ゴミなどのポイ捨てなどがあまり見られなくなった。 2 ワークショップに参加した人だけでなく、「花と緑」が多く住民や観光や仕事で訪れる人達とのコミュニケーションと癒しの場となり、他の地域での開催の希望も出てきた。</p>
30年度以降の活動計画	<p>1 事業で植えた花を觀賞するお花見会を実施したい。 2 釜石市で開催されるワールドカップに向け「おもてなしの花飾り」などを推進し、大船渡市では持続可能な花と緑のまち作りなどを推進する市民中心のグループを立ち上げ、自主的な活動を行えるようにサポートする。</p>

<p>評 価</p>	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p>
<p>評 価</p>	<p>目標どおりの取組実績であること及び受益者アンケートの満足度が高いことから、優れた成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 17
事業名	岩手の食と手しごとを普及拡大し風評克服
補助事業者と役割分担	一般社団法人 SAVE IWATE
実施期間	平成29年6月1日 ～ 平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 被災者の方々による手しごとを継続し、製品の量と質をさらに高めることで、販売に結び付け、被災者の生きがい、意欲向上を目指す。 震災後に広がった支援購買も減退する中、岩手の食と手しごとの良さを紹介し、地元製品の販売に結び付け、風評被害の克服を目指す。 活動実施にあたっては多方面の協力者と連携しながら、岩手ファンの獲得拡大と岩手の幅広い製品の販路回復に波及させる。 <p>【実施計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 手しごと製品等の改善 復興ぞうきん等の手しごと製品の質の向上を図る。 和グルメ等の品質管理の改善やパッケージデザインの刷新をする。 岩手の物産の展示販売等の実施 足利、静岡、鎌倉、横浜等において、展示販売を実施する。 復興支援イベント等の開催 東京都で復興支援イベント等を開催する。 <p>【活動実績】</p> <ol style="list-style-type: none"> 手しごと製品等の改善 復興ぞうきんについては、製品種類に応じた縫い方やタグの付け方ができて いるか、担当者が製作者一人一人に声をかけながら指導した。 また、大量の発注に対応できるよう、梱包方法の改善等にも取り組んだ。 和グルメ等については、商品のレベルアップのため、パッケージデザインを 刷新するとともに、生産工程、商品としての仕上げ、商品在庫管理、原材料の 管理の改善を行った。 PR資料としてミニカタログを作成し、全国の支援者等に配布した。 岩手の物産展示販売会の開催 首都圏等において、岩手の物産を展示販売するイベントの実施や、首都圏の 小売店等に商品のPR活動を行いながら、沿岸の事業者のPRや被災地の状況 の展示を行うことで、風評被害の克服や震災の記憶の風化防止に取り組んだ。 (1)10月21日(土) 足利市鑿阿寺(来場者300人) (2)11月2日(木)～5日(日) 静岡市駿府公園 (参加者：4日間延べ184万人(イベント全体)) (3)11月25日(土)26日(日) 鎌倉建長寺 (参加者：2日間延べ1万人(イベント全体))

	<p>(4)2月22日(木) 東京都内企業の社内販売会(参加者:200人) (5)2月23日(金) 東京都内企業の社内販売会(参加者:150人) (6)3月23日(金) 東京駅地下通路内マルシェ</p> <p>3 復興支援イベントの開催 東京都内において、震災復興のためのプロジェクトから誕生した商品を販売する物産展を実施した。 また、岩手の支援活動をされている漫画家の協力を得て、復興支援のためのチャリティイベントを開催し、これまでの支援活動を紹介するとともに、継続支援の必要性を伝えた。</p> <p>(1)12月7日(木) チャリティイベント開催(東京都内書店) (2)3月22日(木) 物産展開催(東京都)</p>																										
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>国</td><td>4,397,000円</td></tr> <tr><td>県</td><td>1,539,000円</td></tr> <tr><td>取組実施主体</td><td>660,405円</td></tr> <tr><td>計</td><td>6,596,405円</td></tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>人件費</td><td>2,753,628円</td></tr> <tr><td>旅費</td><td>809,584円</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>687,514円</td></tr> <tr><td>印刷製本費</td><td>91,220円</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>320,457円</td></tr> <tr><td>募集広告費</td><td>227,232円</td></tr> <tr><td>使用料及び会場借料</td><td>1,065,700円</td></tr> <tr><td>委託費等</td><td>641,070円</td></tr> <tr><td>計</td><td>6,596,405円</td></tr> </table>	国	4,397,000円	県	1,539,000円	取組実施主体	660,405円	計	6,596,405円	人件費	2,753,628円	旅費	809,584円	消耗品費	687,514円	印刷製本費	91,220円	通信運搬費	320,457円	募集広告費	227,232円	使用料及び会場借料	1,065,700円	委託費等	641,070円	計	6,596,405円
国	4,397,000円																										
県	1,539,000円																										
取組実施主体	660,405円																										
計	6,596,405円																										
人件費	2,753,628円																										
旅費	809,584円																										
消耗品費	687,514円																										
印刷製本費	91,220円																										
通信運搬費	320,457円																										
募集広告費	227,232円																										
使用料及び会場借料	1,065,700円																										
委託費等	641,070円																										
計	6,596,405円																										
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 69.3%</u> <p>【直接的な効果】</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 商品のレベルアップ</td> <td><u>4点</u></td> <td><u>5点</u></td> <td>120%</td> </tr> <tr> <td>2 物産の展示販売等開催</td> <td><u>4回</u></td> <td><u>6回</u></td> <td>150%</td> </tr> <tr> <td>3 復興イベント等開催</td> <td><u>2回</u></td> <td><u>2回</u></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【波及的な効果】</p>		目標値	実績値	達成率	1 商品のレベルアップ	<u>4点</u>	<u>5点</u>	120%	2 物産の展示販売等開催	<u>4回</u>	<u>6回</u>	150%	3 復興イベント等開催	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%										
	目標値	実績値	達成率																								
1 商品のレベルアップ	<u>4点</u>	<u>5点</u>	120%																								
2 物産の展示販売等開催	<u>4回</u>	<u>6回</u>	150%																								
3 復興イベント等開催	<u>2回</u>	<u>2回</u>	100%																								

	<p>1 復興ぞうきんについては約 30 人、着物リメイクでは約 10 人、くるみかごでは 4 人の被災者の方々の収入アップに寄与した。また、復興商品を販売するための常設販売店を運営することで、3 人の被災者の雇用を維持した。</p> <p>新しい配色や縫い柄を工夫するなど、被災者も楽しんで製作しており、手しごとへの意欲の向上が見られた。</p> <p>2 和グルミについては、三陸沿岸を中心に約 200 人の生産者の収入増に寄与した。</p> <p>3 商品のレベルアップやパッケージのリニューアルに取り組んだことで販売力が向上し、被災者の方々の雇用や収入支援につながった。</p>
30 年度以降の活動計画	復興ぞうきん等の手しごとと作品の製品の開発を継続的に実施するとともに、岩手の物産を展示販売するイベント等についても継続して実施していく。
評 価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p> <hr/> <p>目標値以上の活動実績であるが、受益者アンケートの満足度が目標値に及ばなかったことから、一定の成果が得られたと評価する。</p>

整理番号	(1) - 18
事業名	市民主体の復興まちづくりを支援するための中間支援拠点運営事業
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人陸前高田まちづくり協働センター
実施期間	平成29年6月1日～平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 陸前高田市において、NPO等及び個人が主体となって行う復興まちづくり活動に対して、団体運営・事業運営のノウハウや情報の提供、人材育成のための研修、住民の復興まちづくりへの参加機会の提供等を行う中間支援拠点を運営し、当地の市民が主体となった復興まちづくりの推進を図る。</p> <p>2 担い手同士を繋ぎ、分野や組織を超えた連携・協働を推進することで、より広範囲で細やかな復興課題の解決を図る。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 復興支援、被災者支援等に取り組む団体・個人への相談支援 NPO、地縁組織、個人等年間のべ1,500人の利用を見込む</p> <p>(1) 来所・電話・メール等による各種相談に対し、法人や任意団体の立ち上げ、組織の経営や運営、事業の企画・運営・実施に関するアドバイス、各種助成金情報の提供等、活動を行う上で必要となる支援を行う。 また、被災者支援のために必要となる各団体や地域の情報の提供もニーズに合わせて随時実施する。</p> <p>(2) 会議・研修・企画の会場として、同センターに併設の会議室の貸出を行う。 なお、当業務の実施に当たっては常に利用者のニーズ把握に努め、業務内容の充実を図る。</p> <p>① 相談は、1件を1つの取扱件数とし、同日で同じ人から2つの相談を受ける場合もある。</p> <p>② 継続した対応が必要な場合は、相談者と協議のうえ、期限を決め（目安は2週間以内）、次回の対応日を約束する。</p> <p>③ 受付シートをPCで作成し、対応や判断の状況を明らかにする。</p> <p>2 復興支援、被災者支援に取り組む団体等の情報発信 NPO、地縁組織、個人等年間延べ1,500人の利用を見込む。</p> <p>(1) 陸前高田まちづくり協働センターのホームページにて、団体の活動に役立つ助成金や研修等の情報を発信し、復興に向けて動いているまちの様子の紹介を通して、支援活動を通じてできた市外とのつながりの維持・拡大を図る。</p> <p>(2) インターネットにアクセスできない住民に対しては広報紙等の紙媒体を用いた情報発信を行う等、状況と受益者のニーズに即した情報の提供を行う。</p> <p>(3) 同センター内に情報コーナーを設置し、各団体の活動に関する情報を収</p>

集し、利用者の望むタイムリーな情報の提供に努める。

3 住民参加型会議のサポート（話し合い支援）

(1) 被災地域に住む住民自らが自分たちの暮らす地域の復興を描き、自ら行動することができる自立した地域コミュニティの再生に向けて、住民による話し合いの場を創出し、住民一人ひとりが復興まちづくりに参加できる機会の提供に努めながら、行政やNPO等と地域をつなぎ、多様な担い手による協働の復興まちづくりの推進を図る。

(2) この活動では、①地域の住民組織の協力のもと当団体が主催するワークショップ（まちづくり市民会議）と、②団体・地域・行政等からのワークショップ運営補助、ファシリテーター派遣依頼に基づき実施する話し合い支援の二種を行う。

①の活動は月に1回程度行い、15人×6月、参加者90人を見込む。

②の活動は年間10件、1回の参加者10人×10件で100人を見込む。

4 復興まちづくりの担い手育成

復興まちづくりの担い手育成、土壌づくりに向けて、まちづくりに関する基本知識、組織運営や事業運営に関するノウハウ、他地域におけるモデル事例を、講座や研修会の開催を通して広く市民に提供するとともに、各NPOの団体職員のスキルアップを図り、より効果的な復興支援、被災者支援につなげる。

各回15人の参加×4回の実施で60人参加を見込む。

5 復興まちづくりの活動を行うNPO等の活動状況調査

当市で活動するNPO等の活動状況をヒアリングやアンケートにより調査し、復興支援、被災者支援の活動の可視化を図ることにより各団体が行う活動の分野、範囲、受益者を可視化し、効果的な連携・協働の促進につなげるとともに、結果をホームページ等で公開することで市民からの信頼向上にもつなげる。

市内で活動するNPO等40団体程度を対象とする。

6 復興まちづくりのネットワーク事業

市内で復興支援、被災者支援及びまちづくりに取り組む団体の連携促進を図るために、活動団体のネットワーク構築を実施する。

陸前高田に拠点を置いて活動するNPO等30団体の参加を見込む

(1) ネットワーク事業は市内で活動するNPO等により結成する「陸前高田市NPO協会」との協働で取り組み、復興課題やまちづくりの課題解決につながるアクションをNPO、行政、事業者等の連携により実施できる体制構築を図る。

(2) 会員であるNPO等に対して交流の機会を設定するほか、行政や事業者等との協議の場を持ち、協働事業の創出を促す。

(3) NPO等の活動を通して広く市民に復興まちづくりへの参加機会を提供し、担い手の増加を図る。

【活動実績】

1 復興支援、被災者支援等に取り組む団体・個人への相談支援

実施日：平成 29 年 6 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日まで常時

(9 月までは日祝以外の平日、10 月以降は土日祝以外の平日に活動)

- (1) 来所・電話・メール等による各種相談に対し、法人や任意団体の立ち上げ、組織の経営や運営、事業の企画・運営・実施に関するアドバイス、各種助成金情報の提供等、活動を行う上で必要となる支援を行った。
- (2) 被災者支援のために必要となる各団体や地域の情報の提供もニーズに合わせて対応した。
- (3) 会議・研修・企画の会場として、同センターに併設の会議室の貸出を行った。
- (4) 相談に対応する職員のスキルアップや情報収集のため、市外で開催された研修会等に参加した。

6 月 27 日 中間支援スタッフ対象

「日本の NPO の役割と意味」

釜石市情報交流センター 10 名

8 月 23 日 大船渡市市民活動支援センター主催「学ぼう会～チラシのつくり方」

大船渡市市民活動支援センター 15 名

9 月 15 日 中間支援スタッフ対象

「助成金申請書のアドバイスの仕方」

大船渡市市民活動支援センター 10 名

12 月 14 日 大船渡市市民活動支援センター主催「学ぼう会～NPO の出口戦略とは」

大船渡市市民活動支援センター 8 団体 9 名

2 月 14 日 「平成 29 年度岩手県高齢者等サポート拠点職員等研修事業とともに支え合う地域づくり～地域での支え合いを推進するために～」

釜石市情報交流センター 39 名

2 月 19 日 大船渡市市民活動支援センター主催「学ぼう会～NPO 法人設立から解散」

大船渡市市民活動支援センター 10 名

2 月 21 日 いちのせき市民活動センター主催「自治会長サミット」

いちのせき市民活動センター 23 名

2 復興支援、被災者支援に取り組む団体等の情報発信

実施日：平成 29 年 6 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日まで常時（9 月までは日祝以外の平日、10 月以降は土日祝以外の平日に活動）

- (1) 陸前高田まちづくり協働センターのホームページにて、団体の活動に役立つ助成金や研修等の情報を発信した。また、復興に向けて動いているまちの様子を SNS で定期的に発信し、支援活動を通じてできた市内外のつながりの維持・拡大に務めた。

(2) 同センター内に情報コーナーを設置し、各団体の活動に関する情報を収集し、利用者の望むタイムリーな情報の提供に努めた。

(3) 地元紙東海新報上での団体紹介を6月から3月の10か月間、月2回行い、市民へのNPO等の周知拡大を図った。

3 住民参加型会議のサポート（話し合い支援）

被災地域に住む住民自らが自分たちの暮らす地域の復興を描き、自ら行動することができる自立した地域コミュニティの再生に向けて、住民による話し合いの場を創出し、住民一人ひとりが復興まちづくりに参加できる機会の提供に努めた。

(1) 高田地区市民会議 全9回 参加者計151人

6月2日 第1回開催 参加者19人

7月11日 第2回開催 参加者11人

8月24日 第3回開催 参加者6人

10月26日 第4回開催 参加者8人

11月27日 第5回開催 参加者13人

12月14日 第6回開催 参加者13人

1月19日 第7回開催 参加者28人

2月9日 第8回開催 参加者29人

2月21日 第9回開催 参加者24人

(2) 依頼による話し合い支援（ファシリテーター派遣）

対応件数11件 参加者424人

7月9日 高校生対象のワークショップサポート 参加者40人

9月3日 高台移転者のまちづくり懇談会サポート 参加者150人

9月7日 東日本大震災支援全国ネットワーク現地会議 inいわてのグループファシリテーター 参加者53人

11月19日 景観シンポジウムのコーディネーター 参加者50人

1月16日 支援者と行政による中田災害公営住宅に関する会議のファシリテーター、参加者17人

2月11日 大型災害公営住宅自治会交流会のグループファシリテーター 参加者70人

2月14日 「幸福を考えるワークショップ」のグループファシリテーター 参加者10人

2月20日 中田災害公営住宅に関する会議から派生のコミュニティ形成に関する会議のファシリテーター 参加者15人

3月8日 新市街地に対するグループインタビュー 高校生5人参加

3月8日 新市街地に対するグループインタビュー 社会人7人参加

3月9日 新市街地に対するグループインタビュー 子育てしている人、高齢者7人参加

4 復興まちづくりの担い手育成

復興まちづくりの担い手育成、支援に関わる担い手同士のネットワークづくりを目的に「まちづくりコーディネーター育成講座」を開催。前期は

NPO職員など支援者向けに、後期は住民を対象とした。講座内容は「まちづくり概論」、「話し合いの仕方」、「企画（事業計画）立案」、「広報の考え方とチラシの作り方」の4テーマで実施した。

当初計画では全4回を予定し、参加者のべ60人を見込んでいたが、実施前に支援団体に対してヒアリングをした結果を踏まえて内容を修正し、前期は6回の組み立てとして実施した。

前期を日中に開催したため仕事を持つ人は参加できなかったことから、夜学として後期4回を追加で開催した。

(1) 前期5回 参加者延べ105人

7月5日 第1回開催 参加者23人

7月19日 第2回開催 参加者24人

8月9日 第3回開催 参加者17人

8月30日 第4回開催 参加者18人

(2) 後期4回 参加者延べ20人

10月11日 第1回開催 参加者6人

10月28日 第2回開催 参加者4人

11月15日 第3回開催 参加者4人

12月2日 第4回開催 参加者6人

(3) NPO法人アットマーククリアスNPOサポートセンター、大船渡市市民活動支援センターの中間支援団体との共催で改正個人情報保護法に関する勉強会を開催した。

6月5日開催 陸前高田市・釜石市・大船渡市等から54人参加

(4) 主催した以外に依頼により研修の実施や補助を行った。

① 団体の内部研修の補助 3回 子育て支援NPOに対して実施

10月25日、11月1日、11月17日

② 依頼による研修の提供

9月28日、会議ファシリテーションの研修

11月18日、会議ファシリテーションの研修

5 復興まちづくりの活動を行うNPO等の活動状況調査

当市で活動するNPO等の活動状況をヒアリングやアンケートにより調査し、復興支援、被災者支援の活動を可視化を図ることを目的に実施。

①団体の基礎情報 ②活動によって得られた成果、効果、変化等 ③現在団体が抱えている課題、必要とする支援 の3つに分け、それぞれ選択または記述で回答する形式をとった。集計結果を当団体ホームページにて公開。

(1) 団体基礎情報

「活動分野」、「活動の対象者・受益者」、「活動の頻度・回数」、「主な活動地区」、「活動拠点・活動場所」

(2) 活動によって得られた成果、効果、変化等

「団体の活動によってどんな課題が解決されたのか」、「団体の活動によって地域にどんな変化をもたらされたのか」、「連携・協働で実施している事業の有無」、「連携・協働パートナー」、「連携・協働の形態」、「今後

の活動の展望」

(3) 現在団体が抱えている課題、必要とする支援

「組織・団体に関する課題」、「事業・活動に関する課題」、「NPO支援で期待するサービス」

6 復興まちづくりのネットワーク事業

ネットワーク事業は市内で活動するNPO等により結成する「陸前高田市NPO協会」との協働で取り組み、復興課題やまちづくりの課題解決につながるアクションをNPO、行政、事業者等の連携により実施できる体制構築を図った。

(1) 陸前高田NPO協会

ア 幹事会の運営 計10回開催

6月13日 第1回幹事会 参加7団体9人

7月11日 第2回幹事会 参加7団体8人

8月9日 第3回幹事会 参加6団体9人

9月12日 第4回幹事会 参加7団体9人

10月10日 第5回幹事会 参加6団体7人

11月14日 第6回幹事会 参加7団体8人

12月12日 第7回幹事会 参加8団体10人

1月9日 第8回幹事会 参加7団体8人

2月13日 第9回幹事会 参加7団体8人

3月15日 第10回幹事会

イ 事業報告会、会員懇親会を11月21日に開催

ウ 陸前高田市まちづくり総合計画に関する意見交換ワークショップを1月12日、17日に開催

(2) NPO法人アットマークリアスNPOサポートセンター、大船渡市市民活動支援センター、NPO法人いわて連携復興センターと共に三陸地域及び県内の復興まちづくりに関する情報共有（中間支援ミーティング）を行い広域連携に取り組んだ。計10回実施

6月26日 釜石で実施

7月25日 陸前高田で実施

8月25日 大船渡で実施

9月19日 釜石で実施

10月30日 陸前高田で実施

11月27日 大船渡で実施

12月18日 釜石で実施

1月29日 陸前高田で実施

2月19日 大船渡で実施

3月28日 釜石で実施

(3) 特定非営利活動法人アットマークリアスNPOサポートセンター、大船渡市市民活動支援センター、特定非営利活動法人いわて連携復興センターとの共催で、三陸沿岸の広域連携を目的としたNPOフォーラムを11月22

	<p>日に釜石で開催した。</p> <p>(4) コミュニティづくりを支援する団体による定例の情報共有会に参加し、復興まちづくりの支援に関する意見交換、情報収集、発信に取り組んだ。</p> <p>(5) 被災者支援を行う団体、行政等による定例の情報共有会に参加し、被災者支援に関する情報共有、意見交換等を行った。</p>																																								
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table> <tr> <td>国</td> <td>2,111,000 円</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>739,000 円</td> </tr> <tr> <td>取組実施主体</td> <td>316,872 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,166,872 円</td> </tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table> <tr> <td>人件費</td> <td>2,504,630 円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>84,225 円</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>3,680 円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>130,232 円</td> </tr> <tr> <td>使用料及び会場借料</td> <td>341,274 円</td> </tr> <tr> <td>委託費等</td> <td>102,831 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,166,872 円</td> </tr> </table>	国	2,111,000 円	県	739,000 円	取組実施主体	316,872 円	計	3,166,872 円	人件費	2,504,630 円	消耗品費	84,225 円	印刷製本費	3,680 円	通信運搬費	130,232 円	使用料及び会場借料	341,274 円	委託費等	102,831 円	計	3,166,872 円																		
国	2,111,000 円																																								
県	739,000 円																																								
取組実施主体	316,872 円																																								
計	3,166,872 円																																								
人件費	2,504,630 円																																								
消耗品費	84,225 円																																								
印刷製本費	3,680 円																																								
通信運搬費	130,232 円																																								
使用料及び会場借料	341,274 円																																								
委託費等	102,831 円																																								
計	3,166,872 円																																								
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 82.0%</u> <p>【直接的な効果】</p> <table> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 復興支援、被災者支援等に取り組む団体・個人への相談支援 拠点の総利用者数</td> <td><u>1,500 人</u></td> <td><u>2,603 人</u></td> <td>173%</td> </tr> <tr> <td>2 復興支援、被災者支援に取り組む団体等の情報発信 拠点の総利用者数</td> <td><u>1,500 人</u></td> <td><u>2,603 人</u></td> <td>173%</td> </tr> <tr> <td>3 住民参加型会議のサポート（話し合い支援） 主催ワークショップ</td> <td><u>6 回</u></td> <td><u>9 回</u></td> <td>150%</td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>90 人</u></td> <td><u>151 人</u></td> <td>167%</td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>10 件</u></td> <td><u>11 件</u></td> <td>110%</td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>100 人</u></td> <td><u>424 人</u></td> <td>424%</td> </tr> <tr> <td>4 復興まちづくりの担い手育成 講座開催回数</td> <td><u>4 回</u></td> <td><u>10 回</u></td> <td>250%</td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>60 人</u></td> <td><u>125 人</u></td> <td>208%</td> </tr> <tr> <td>5 復興まちづくりの活動を行う NPO 等の活動状況調査</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		目標値	実績値	達成率	1 復興支援、被災者支援等に取り組む団体・個人への相談支援 拠点の総利用者数	<u>1,500 人</u>	<u>2,603 人</u>	173%	2 復興支援、被災者支援に取り組む団体等の情報発信 拠点の総利用者数	<u>1,500 人</u>	<u>2,603 人</u>	173%	3 住民参加型会議のサポート（話し合い支援） 主催ワークショップ	<u>6 回</u>	<u>9 回</u>	150%		<u>90 人</u>	<u>151 人</u>	167%		<u>10 件</u>	<u>11 件</u>	110%		<u>100 人</u>	<u>424 人</u>	424%	4 復興まちづくりの担い手育成 講座開催回数	<u>4 回</u>	<u>10 回</u>	250%		<u>60 人</u>	<u>125 人</u>	208%	5 復興まちづくりの活動を行う NPO 等の活動状況調査			
	目標値	実績値	達成率																																						
1 復興支援、被災者支援等に取り組む団体・個人への相談支援 拠点の総利用者数	<u>1,500 人</u>	<u>2,603 人</u>	173%																																						
2 復興支援、被災者支援に取り組む団体等の情報発信 拠点の総利用者数	<u>1,500 人</u>	<u>2,603 人</u>	173%																																						
3 住民参加型会議のサポート（話し合い支援） 主催ワークショップ	<u>6 回</u>	<u>9 回</u>	150%																																						
	<u>90 人</u>	<u>151 人</u>	167%																																						
	<u>10 件</u>	<u>11 件</u>	110%																																						
	<u>100 人</u>	<u>424 人</u>	424%																																						
4 復興まちづくりの担い手育成 講座開催回数	<u>4 回</u>	<u>10 回</u>	250%																																						
	<u>60 人</u>	<u>125 人</u>	208%																																						
5 復興まちづくりの活動を行う NPO 等の活動状況調査																																									

		<u>40 団体</u>	<u>23 団体</u>	57%
6	復興まちづくりのネットワーク事業			
		<u>30 団体</u>	<u>33 団体</u>	110%
	※以下、各事業の詳細			
	1 復興支援、被災者支援等に取り組む団体・個人への相談支援			
	(1) 総利用者数	2,603 人		
	直接利用	735 人		
	間接利用	789 人		
	貸室等利用	1,079 人		
	(2) 相談件数	138 件		
	NPO	66 件		
	地域	8 件		
	個人	15 件		
	行政	19 件		
	企業	30 件		
	(3) 案件別対応			
	設立相談	1 件		
	組織運営	1 件		
	事業運営	91 件		
	照会	45 件		
	(4) 貸会議室利用	167 件 1,079 人		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援拠点の総利用者数 2,603 人に対して、復興まちづくり活動を促進するために必要な知識・ノウハウ・情報・活動場所等を提供、アドバイスした。 ・ NPO、地縁組織、行政、企業等年間のべ 1,500 人の拠点利用の見込に対し、総利用者数は 2,603 人となった。 		
	2 復興支援、被災者支援に取り組む団体等の情報発信			
	(1) ホームページ等での情報発信			
	ア	総アクセス数 7,569 件		
	イ	更新回数 ホームページ 157 回 ブログ 43 回		
	ウ	復興の様子の発信 10 回：SNSにて毎月 11 日に市内の様子を写真で発信		
	エ	地元紙東海新報での団体紹介：NPO法人、任意団体等 18 団体を紹介		
		<p>NPO、地縁組織、行政、企業等年間のべ 1,500 人の拠点利用を見込んだが、総利用者数は 2,481 人と想定よりも多くの団体や個人に利用された。</p>		
	3 住民参加型会議のサポート（話し合い支援）			

	<p>(1) 市内高田地区を対象に実施した高田地区市民会議は全9回、のべ151人の地区住民が参加し、地域課題の抽出と共有、課題解決に向けた取り組みの検討と実施を支援した。</p> <p>(2) 企画では被災により再構築中のコミュニティづくり、住民間の交流促進を目的に「新春カラオケ祭り」と題したイベントと、「うごく七夕写真展」を開催。カラオケ祭り当日は運営側、来場者あわせて200名以上の住民が参加し、各々交流を図った。</p> <p>(3) 高田地区市民会議は、1回15人の参加×6月で延べ90名の参加を見込んだが、全9回延べ151人の参加と想定より多くの参加を得ることができた。</p> <p>(4) 依頼によるファシリテーター派遣は年間10件100人程度を見込んでいたが、NPO、地域、行政等からの依頼による対応件数は11件、対応した話し合いの参加者数は計424人であった。</p> <p>4 復興まちづくりの担い手育成</p> <p>(1) 当初計画では全4回60人を予定していたが、実施前に支援団体に対してヒアリングをした結果を踏まえて、前期（日中）6回、後期（夜）4回に修正し、参加者は延べ125人だった。</p> <p>(2) 特定非営利活動法人アットマークリアスNPOサポートセンター、大船渡市市民活動支援センターとの共催で改正個人情報保護法に関する勉強会を開催し、陸前高田市・釜石市・大船渡市等から54人が参加した。</p> <p>(3) 主催した以外に依頼により研修の実施や補助を3件5回実施した。</p> <p>5 復興まちづくりの活動を行うNPO等の活動状況調査</p> <p>(1) 対象団体：特定非営利活動法人、任意団体等30団体</p> <p>(2) 回収：23団体（回収率76.6%）</p> <p>(3) 集計結果の概要は以下のとおり</p> <p><団体基礎情報></p> <p>① 受益者は「広く市民を対象」としているの回答が13.4%で最多、次いで「小・中学生」11.5%、「高齢者」9.6%。大きな偏りは見られなかった。</p> <p>② 活動のための拠点を持っている団体が回答の36.1%で最多。活動拠点があるためか、活動の頻度を「常時」と答えた団体は46.4%と半数近かった。</p> <p><活動によって得られた成果、効果、変化等></p> <p>① 活動により解決された課題としては、「コミュニティづくり」、「被災者の孤独感の解消」、「社会的弱者の孤立の解消」、「生活課題の解消」、「健康・ストレスの解消」、「生きがい・やりがいの創出」等があげられた。</p> <p>② 活動により地域にもたらした変化の質問では、「つながり・交流ができた」、「被災者の意識が前向きになった」、「主体性の向上」や「参加機会の提供」等があげられた。</p> <p>③ 連携・協働については「している」の回答が86.3%。連携・協働</p>
--	--

のパートナーは「他のNPO」が最多で21.3%、ついで「行政」が20%だった。

<現在団体が抱えている課題、必要とする支援>

- ① 組織・団体に関する課題は「人材の不足」が最多で21.2%、ついで「資金の不足」、「団体の広報・PRの不足」が多かった。
- ② 事業・活動に関する課題も同様に「人材の不足」が最多の20.8%、ついで「資金の不足」、「事業の広報・PRの不足」と続いた。
- ③ NPO支援で期待するサービスの質問に対する回答は、行政や企業、商業者、地域との「連携・協働を促進する企画」が多く、ついで「人材育成のための講座・研修会の開催」、「組織運営、事業運営に役立つ情報の収集・発信・提供」が続いた。

6 復興まちづくりのネットワーク事業

- (1) 陸前高田NPO協会は当初30団体の参加を見込んでいたが、加盟は28団体だった。
- (2) 陸前高田NPO協会の事務局として幹事会を運営。幹事会は計10回開催した。
- (3) 会員の交流と連携促進を図るために事業報告会と会員懇親会を開催し、17団体20人が参加した。
- (4) 陸前高田市まちづくり総合計画に関する意見交換ワークショップを開催し、1回目12団体13人、2回目13団体14人が参加した。
- (5) NPO法人アットマークリアスNPOサポートセンター、大船渡市市民活動支援センター、NPO法人いわて連携復興センターと共に三陸地域及び県内の復興まちづくりに関する情報共有（中間支援ミーティング）を毎月、計10回実施。
- (6) NPO法人アットマークリアスNPOサポートセンター、大船渡市市民活動支援センター、NPO法人いわて連携復興センターとの共催で、三陸沿岸の広域連携を目的としたNPOフォーラムを開催し、陸前高田市・釜石市・大船渡市および岩手県内外から約70人が参加した。

【波及的な効果】

1 NPO等市民による復興まちづくり活動の促進、担い手育成

- (1) 主催講座の前期をNPO等団体職員が業務として参加しやすい平日の日中に設定したことで多くの団体職員が参加し、つながる機会が提供できた。現場で日々活動する職員は他の団体や機関との接点が少なく互いの活動を知らないでいたが、この機会があったことで現場レベルでの連携を促進することができた。
- (2) 受益者アンケートでは、「現在またはこれから行う復興・被災者支援の取組の課題解決・スキルアップにつながった」との設問には93.75%から「改善した」または「どちらかといえば改善した」との回答を得られた。
- (3) 釜石市や大船渡市の中間支援団体と情報共有を図ったことで、当団体の事業だけではフォローできないノウハウを得ることができ、市内の団体の

	<p>団体運営のスキルアップを図る事ができた。</p> <p>2 市民の主体的な復興まちづくりへの参加促進</p> <p>(1) 被災規模が大きく住民がいまだ移動中の高田地区において最も大きな課題はコミュニティをどうつくるかにあるが、話し合いの場を設けたことにより地域の課題解決に住民自らが主体的に関わる意識の向上を図る事が出来た。</p> <p>(2) 市民会議発の2つの企画を実施するために実行委員を各町内会・自治会へ呼びかけて募り、普段役を持たない住民の地域づくりへの参加が促進されたと共に、住民同士の交流を促進することができた。</p> <p>(3) 自分たちが企画、準備、運営をしたイベントで200人以上の参加者が集まり盛況で終える事が出来たことで、企画側として関わった住民の地域づくりに対する自信と意欲が高まった。</p> <p>3 地縁型コミュニティと志縁型コミュニティの交わり、協働の仕組み構築</p> <p>(1) 災害公営住宅におけるコミュニティづくりを目的に花壇づくりをしたいが土を整備するノウハウや機材を持っていなかった住民と、それを提供できる支援団体をつなぎ、コミュニティづくりの活動が実施できるようになった。</p> <p>(2) 相互の情報を仲介することで、地域はやりたいと思ってもノウハウや機材がないためにできずにいたことができるようになり、地域がNPO等の資源を活用する新たなつながりができた。</p> <p>(3) 行政や商業者に対してNPO等支援団体のことが知られるようになり、相互のやり取りや協働の機会が増え、組織の垣根を越えて復興まちづくりへ向けた協働が促進された。</p>
30年度以降の活動計画	<p>復興まちづくりに取り組むNPO等を対象に実施した調査の結果、組織運営、事業運営ともに人材不足と資金不足を課題に挙げる団体が多く、事業の運営にあたってはそもそもNPOやその活動に対する周囲の理解が十分ではないと感じている回答も多かった。支援セクターに期待されているサービスでは、団体の組織運営や事業運営に関する情報、人材育成の機会提供、地域や行政、商業者等との連携機会の提供であることがわかった。調査の結果を踏まえて</p> <p>1 中間支援拠点「陸前高田まちづくり協働センター」事業所を運営し相談支援を継続するとともに、人材育成とNPOに対する周囲の理解の促進、市民の復興まちづくり活動への参加促進の関連性を高め、「知って・つながり・参加する」循環を生み出すような仕組みづくりを意識した活動を展開する。</p> <p>2 学びと参加が思うようにつながらないと感じることも多くあったので、それぞれが循環する仕組みがあることで活動の人手不足を解消し、復興まちづくりへの市民の主体的な関わりを増やす。</p>
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p>

	<input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた
	<input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった
	実績値が目標値を下回る取組があるものの、目標値を大幅に上回った取組もあること及び受益者アンケートの満足度が高いことから、一定の成果が得られたと評価する。

整理番号	(1) - 19
事業名	復興支援NPOなんでも出前相談会
補助事業者と役割分担	特定非営利活動法人シニアパワーいわて
実施期間	平成29年6月1日～30年3月31日
事業内容とスケジュール	<p>【事業概要】</p> <p>1 これまで5年間にわたり復興支援事業の一環として、沿岸被災地のNPO法人が抱える総務や経理事務等の相談会を開催し、参加者は延べ213団体、334人、446件の成果を上げた。</p> <p>過年度まで、相談者に会場まで来ていただいて具体的な相談に応ずるという形で取組んできたが、今年度は相談を希望する団体の事務所等に出向いて相談に応じるという方法を新たに設けて実施する。</p> <p>【実施計画】</p> <p>1 実施回数 上期 下期 2回</p> <p>2 開催会場 宮古、釜石、大船渡、陸前高田の4市</p> <p>3 参加者目標 1会場当り5法人 参加者4会場延40名</p> <p>4 相談担当者 総務1名 経理1名のペアとする。</p> <p>5 新たな取組 訪問相談をメニューに追加</p> <p>【活動実績】</p> <p>事業実施に当たって、担当者会議を開催し、過年度の「NPOなんでも相談会」に寄せられた質問事項等について、スタッフ相互間における共通認識を確認するとともに、相談者のニーズにより対応し得るような体制で臨んだ。</p> <p>1 事前準備等</p> <p>(1) 内部協議</p> <p>① 本事業に係るミーティングで前年度の反省と今年度事業の運営にかかる協議（理事長ほか有志による事前会議）</p> <p>② 相談員スタッフの全体会議で今年度事業に係る周知徹底</p> <p>ア 希望団体を訪問の上、相談を受けるというメニューの追加</p> <p>イ 貸借対照表の公表等を柱とするNPO法一部改正</p> <p>ウ NPO新会計基準の一部改正</p> <p>エ コンプライアンス</p> <p>(2) 開催要領</p> <p>開催日時、場所、相談会の運営方法、相談対応者、参加申し込み、広報等について検討を重ね、「相談会実施要領」を作成した。</p> <p>(3) 広報</p> <p>報道機関に、PR資料（チラシ・ポスター）を送付、広報に努めた。</p> <p>CANPAN</p>

	<p>岩手日報 掲載回数 29年7月 30年2月 広報 復興釜石新聞 東海新報社 NPO活動交流センター 管内のNPO法人への告知を要請 岩手連携復興支援センター 同上</p> <p>2 相談会の実績</p> <p>1回目 参加者 24 団体（うち個人 2 名）32 名 うち出前相談 6 団体 7月 25～26 日 陸前高田市コミュニティホール 7月 27～28 日 大船渡合同庁舎 8月 7～8 日 釜石合同庁舎 8月 9～10 日 宮古合同庁舎</p> <p>2回目 参加者 19 団体（個人参加は無し）25 名 うち出前相談 6 団体 1月 25～26 日 宮古合同庁舎 1月 29～30 日 釜石合同庁舎 2月 19～20 日 大船渡合同庁舎 2月 26～27 日 陸前高田市コミュニティホール ※出前相談会の会場として、大槌のマストの会議室借用（無料）</p> <p>3 実施方法等 申込み時点で、相談事項や質問内容を収集し、それらを基にして助言等を実施した。</p> <p>4 時間配分は次のとおり 初 日 相談会 午後 13 時～17 時 2 日目 相談会 午前 9 時～15 時</p>																						
経費の内訳	<p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>国</td><td>806,000 円</td></tr> <tr><td>県</td><td>282,000 円</td></tr> <tr><td>取組実施主体</td><td>121,676 円</td></tr> <tr><td>計</td><td>1,209,676 円</td></tr> </table> <p>【経費内訳】</p> <table border="0"> <tr><td>人件費</td><td>668,500 円</td></tr> <tr><td>旅費</td><td>447,250 円</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>53,632 円</td></tr> <tr><td>印刷製本費</td><td>14,900 円</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>18,994 円</td></tr> <tr><td>使用料及び会場借料</td><td>6,400 円</td></tr> <tr><td>計</td><td>1,209,676 円</td></tr> </table>	国	806,000 円	県	282,000 円	取組実施主体	121,676 円	計	1,209,676 円	人件費	668,500 円	旅費	447,250 円	消耗品費	53,632 円	印刷製本費	14,900 円	通信運搬費	18,994 円	使用料及び会場借料	6,400 円	計	1,209,676 円
国	806,000 円																						
県	282,000 円																						
取組実施主体	121,676 円																						
計	1,209,676 円																						
人件費	668,500 円																						
旅費	447,250 円																						
消耗品費	53,632 円																						
印刷製本費	14,900 円																						
通信運搬費	18,994 円																						
使用料及び会場借料	6,400 円																						
計	1,209,676 円																						
具体の成果	<p>【成果目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県全体の事業の達成目標 受益者アンケートにおいて取組に対する満足度が「どちらかといえば改善した」以上の割合 県目標値 70% → <u>本事業 79.3%</u> 																						

	<p>【直接的な効果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数（上期）</td> <td><u>4 会場</u></td> <td><u>4 会場</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>開催回数（下期）</td> <td><u>4 会場</u></td> <td><u>4 会場</u></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>参加者数（上期）</td> <td><u>20 法人</u> <u>40 名</u></td> <td><u>24 法人</u> <u>32 名</u></td> <td>120%</td> </tr> <tr> <td>参加者数（下期）</td> <td><u>20 法人</u> <u>40 名</u></td> <td><u>19 法人</u> <u>25 名</u></td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【波及的な効果】</p> <p>1 被災地のNPO法人は、総じて小規模な団体が多く、経理専門の担当者を持つことができないケースや短期間で退職する例が多くあり、このような課題を抱えている団体に助言指導を行うことにより、当該NPO法人が事業活動に専念でき、ひいては被災地の復興促進に間接的に寄与している。</p> <p>2 相談会参加者へのアンケート調査においては、行政事務的な部分や基盤づくりのサポートを受けられたことは有意義であり、課題解決とスキルアップにつながるといった意見や会計の疑問点の指導のみならず法律改正等の指導が受けられありがたいといった意見があった。</p> <p>また、中小NPOにとっての地元での相談会は有意義であり、出張指導を続けて欲しいといった意見もあり、被災地のニーズに対応できている。</p> <p>3 被災地においては、NPOの新規設立は漸減傾向にあったが、新しい視点で設立するケースの場合、総務やNPO会計、管理運営が不安ということがあり、この事業は新規設立を計画している方々の支援にもなっている。</p> <p>【その他事業によって得られた成果等】</p> <p>1 担当する業務ごとに担当者会議を開催し、過年度の相談記録などを基にして会員相互の知識と経験がさらに蓄積されたことから、今後の中間支援法人として、被災地復興に関わる相談活動体制の充実が図られた。</p>		目標値	実績値	達成率	開催回数（上期）	<u>4 会場</u>	<u>4 会場</u>	100%	開催回数（下期）	<u>4 会場</u>	<u>4 会場</u>	100%	参加者数（上期）	<u>20 法人</u> <u>40 名</u>	<u>24 法人</u> <u>32 名</u>	120%	参加者数（下期）	<u>20 法人</u> <u>40 名</u>	<u>19 法人</u> <u>25 名</u>	95%
	目標値	実績値	達成率																		
開催回数（上期）	<u>4 会場</u>	<u>4 会場</u>	100%																		
開催回数（下期）	<u>4 会場</u>	<u>4 会場</u>	100%																		
参加者数（上期）	<u>20 法人</u> <u>40 名</u>	<u>24 法人</u> <u>32 名</u>	120%																		
参加者数（下期）	<u>20 法人</u> <u>40 名</u>	<u>19 法人</u> <u>25 名</u>	95%																		
30 年度以降の活動計画	<p>1 県内NPO法人は、総じて事業規模の小さい団体が多く、資金的制約から職員が限られているケースもあり、日常の事業活動を優先せざるを得ないことから、法人の内部管理（総務・労務・会計等）及びマネジメントまでは目が行き届いていないと思われる団体も見受けられる。</p> <p>2 課題解決のために相談しようとしても、周囲にはそのようなアドバイスが出来る個人や団体が居ない場合もある。このような傾向は特に被災地に多くみられることから、今後とも継続的にこのようなNPO法人に対して、側面から支援していく。</p>																				
評価	<p>被災地の復興・被災者支援に関して、</p> <p><input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた</p> <p><input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった</p>																				

	<p>実績値が目標値を下回った取組もあるものの、目標を上回った取組もあること、受益者アンケートの満足度がある程度高いことから、一定の成果が得られたと評価する。</p>
--	---

(2)復興・被災者支援を行うNPO等の絆力強化

整理番号	(2) - 1
事業名	東京交流会等
事業実施主体	<input type="checkbox"/> 県直営事業 <input checked="" type="checkbox"/> 委託事業（受託者：特定非営利活動法人いわて連携復興センター）
支援対象者の概要	沿岸被災地において復興・被災者支援を行うNPO等
実施期間	平成29年7月13日 ～ 平成30年3月22日
事業内容とスケジュール	<p>首都圏の企業や団体を対象として県内NPO等の復興支援活動の紹介や連携・協働の取組みを促進するマッチングイベントを1回開催した。</p> <p>またマッチングイベントに参加するNPO等の企画提案力やプレゼン力を向上させ、より多くのマッチングに繋げるため事前にセミナーを開催した。</p>
事業費とその内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費の総額：3,086,360円 ・事業費の内訳：委託費2,989,640円、旅費94,380円、使用料：2,340円
具体の成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京交流会 平成29年1月31日 東京国際フォーラム プレゼン9団体、参加企業等32社 ○ 東京交流会へ向けた事前プレゼン講習会 平成29年10月17日 釜石市 参加者事前プレゼン講習会数33人（19団体）
評価	<p>NPO法人等の絆力強化に関して、</p> <input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった
	<p>（上記評価の理由）</p> <p>東京交流会では、首都圏の企業に本県の復興状況やNPOによる復興支援活動を知ってもらうことができ、連携・協働を生み出す機会となり、東京交流会でのマッチングの完了が2件、継続調整中が12件の成果が得られた。</p> <p>また、東京交流会に向けての事前プレゼン講習会においては、受講者の企画提案力及びプレゼン能力の向上が図られ、東京交流会での成果に繋がった。</p>

整理番号	(2) - 2
事業名	審査委員会運営事業等
事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 県直営事業 <input type="checkbox"/> 委託事業
支援対象者の概要	補助事業及び委託事業の実施団体
実施期間	平成29年4月28日 ~ 平成30年3月31日
事業内容とスケジュール	NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組事業の選定及び復興・被災者支援を行うNPO等の絆力強化として、東京交流会の受託団体の選定を行う。また、上記選定事業の評価及び指導・助言等を行う。
事業費とその内訳	・事業費の総額：2,938,879円 ・事業費の内訳：人件費2,253,434円、報償費：336,000円、旅費：181,450円、消耗品費：36,824円、役務費：75,041円、使用料：56,130円
具体の成果	経営、税務、NPO法人、学識経験者、報道機関、行政等の専門家9名を審査委員として委嘱し、以下の事業を行った。 1 補助事業選定及び委託団体の選定 NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組を行う補助事業の選定を行い、19事業を採択した。 東京交流会の受託団体の選定を行い、NPO法人岩手連携復興センターが受託した。 2 団体への指導・助言等 審査委員会で現地団体を訪問し、補助事業の実施状況を確認するとともに、事業に対する助言等を行った。 3 審査委員による評価 復興支援事業の評価及び取組への助言等を行った。
評価	NPO法人等の絆力強化に関して、 <input type="checkbox"/> A：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> D：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> E：成果が得られなかった (上記評価の理由) NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援事業の遂行において、補助金により支援するNPO等が行う復興・被災者支援事業への参加団体数の目標値は下回ったものの、適切な補助事業や受託者の選定を行うことが出来た。 また、現地確認等において、審査委員会委員から助言等を行うことにより、より補助事業の趣旨に適した事業を展開することができ、全体として受益者満足度の高い事業を展開することが出来た。

3. 審査委員会の開催結果

- (1) 審査委員会の名称
NPO等復興支援事業審査委員会
- (2) 審査委員会の役割等
震災委員会は、設置要綱による設置とし、委員は知事が委嘱した。
審査委員会の所掌事務は、次のとおり
- ア 復興支援事業の委託を受ける団体・組織からの提案の選定に関すること
 - イ 復興支援事業のうち、NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援の取組支援事業の選定に関すること。
 - ウ 復興支援事業の評価に関すること。
 - エ 復興支援事業の効果を高めるための指導・助言等に関すること。
 - オ その他NPO等への支援の検討に関すること。
- (3) 審査委員会委員の構成
一般社団法人岩手県経営者協会 専務理事 佐藤 義昭
日本政策金融公庫盛岡支店 国民生活事業融資第二課長 小原 禎宏
東北税理士会岩手県支部連合会 副会長 工藤 重信
岩手県立大学総合政策学部 教授 倉原 宗孝
特定非営利活動法人ふれあいステーション・あい 理事長 佐々木 りほ子
特定非営利活動法人やませデザイン会議 理事 田中 卓
株式会社岩手日報社 広告事業局長 西舘 政美
紫波町企画総務部企画課公民連携室 公民連携専門嘱託員 ハワード さおり
株式会社メガネの松田 会長 松田 陽二
- (4) 今年度の開催結果
- 第1回
- 開催日 平成29年4月28日(金)(釜石会場)
平成29年5月2日(金)(盛岡会場)
 - 議題 第1回審査委員会(補助事業)
 - 概要 当該年度の事業説明会及び事業選定の参考とするため、前年度採択団体のプレゼンテーションを行ったもの。
- 第2回
- 開催日 平成29年5月29日(月)
 - 議題 第2回審査委員会(補助事業)
 - 概要 応募があった補助事業について、書面審査及びプレゼンテーションを踏まえ、受託者の選定を行ったもの。
- 第3回
- 実施日 平成29年6月20日(火)
 - 内容 第3回審査委員会(委託事業)
東京交流会及び寄付セミナーの委託団体について、書面審査及びプレゼンテーションを踏まえ受託者の選定を行ったもの。
- 第4回
- 実施日 平成30年3月23日(金)
 - 内容 第4回審査委員会(成果報告会)
補助団体からの成果報告について、評価・助言等を行ったもの。
- 審査委員会による現地確認
- 【沿岸方面】
- 実施日 平成29年12月21日(木)

○確認先 特定非営利活動法人陸前高田まちづくり協働センター
特定非営利活動法人居場所創造プロジェクト
特定非営利活動法人陸前たがだ八起プロジェクト

○参加委員数 7名

【岩泉・内陸方面】

○実施日 平成 29 年 12 月 22 日（金）

○確認先 特定非営利活動法人いなほ、一般社団法人 KEEN ALLIANCE、
いわてアートプロジェクト実行委員会

○参加委員数 5名

4. 全体評価

- ・ 補助事業においては、各補助事業実施団体が被災者の生活支援やコミュニティ形成支援等について、専門性や絆力を活かして、行政では手の届きにくいきめ細かな取組を実施した。
受益者アンケートの満足度の問いにおいて、「改善した」又は「どちらかといえば改善した」と回答した受益者の割合は約 85%であり、被災者のニーズに合った満足度の高い取組が実施されたことが成果であると評価する。
- ・ 東京交流会では、東日本大震災津波から 7 年が経過し震災の風化が進む中、首都圏の企業等に本県の復興状況や NPO 等による復興・被災者支援活動を伝えることで支援団体との絆力を強化することができた。前年度よりも参加団体数は減ったものの、目標以上の参加団体数を確保することができたことや、マッチングが完了した例もあったことが成果であると評価する。
- ・ 本事業等の実施により、復興・被災者支援活動を担う NPO 等の運営力・絆力を強化してきたところだが、未だ運営基盤の弱い団体も多くあることから、引き続き NPO 等の自立を促すとともに、企業・団体や市町村など多様な主体との連携や県民の参画により、持続的に復興・被災者支援の取組を進めていく必要がある。